

KIP

KIPViewT

取扱説明書

-
- Microsoft、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 - その他本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。
 - 取扱説明書の一部または全部を桂川電機株式会社の書面による許可なく複写、複製することは、その形態を問わず禁じます。
 - 取扱説明書の内容は、予告なく変更することがあります。

■ 権利表記

- ・ LIBTIFF
Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.
- ・ IJG JPEG Library
Copyright (C) 2012, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding
- ・ LibLZF
Copyright (c) 2000-2008 Marc Alexander Lehmann <schmorp@schmorp.de>
- ・ 本ソフトウェアのインストーラーに IPA フォントを使用しています。
ライセンスについては http://ipafont.ipa.go.jp/ipa_font_license_v1.html を参照してください。

All Rights Reserved, Copyright (c) 2006-2016 KIP CORPORATION, KATSURAGAWA ELECTRIC CO., LTD.

はじめに

KIPViewT は、シンプルで軽量な画像ビューアです。画像を快適な速度で表示することができ、プリンタドライバから印刷を行うことも可能です。

また、設定によって基本動作を調整できますので、他のソフトウェアやシステムと連携がとり易いビューアになっています。

本書では、KIPViewT のインストールや表示内容、操作方法に関する情報を記載しています。初めてお使いになる場合や操作手順が分からなかった場合に、ご活用ください。

<空白ページ>

<目次>

第1章 ソフトウェアの概要	9
第2章 動作環境	11
2.1 動作環境	12
2.2 対応フォーマット.....	13
第3章 インストール／アンインストール	15
3.1 インストール.....	16
3.2 アンインストール	20
第4章 基本操作	23
4.1 プログラムの起動と終了	24
4.1.1 KIPViewT を起動する.....	24
4.1.2 KIPViewT を終了する.....	25
4.2 画面の構成	26
4.2.1 メインウィンドウ.....	26
4.3 KIPViewT を使用する.....	27
4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く	27
4.3.2 【開く】フォルダを指定して開く.....	30
4.3.3 【開く】リストファイルを使用して開く	32
4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く.....	35
4.3.5 【表示】画像を回転する	38
4.3.6 【表示】画像を拡大／縮小する	41
4.3.7 【表示】画像をスクロールする	46
4.3.8 【表示】選択した範囲を拡大する.....	51
4.3.9 【表示】ページの切り替え	54
4.3.10 【表示】ファイルの切り替え	58
4.3.11 【表示】自動ページ送り.....	62
4.3.12 【印刷】ファイルを印刷する	66
4.3.13 【編集】ファイル名の変更.....	75
4.3.14 【編集】ファイルリストの編集.....	77
4.3.15 【編集】画像をコピー.....	82
4.3.16 【応用】既定表示の機能を使用する	86
4.3.17 【応用】ビューポイントの機能を使用する	90
4.3.18 【応用】計測の機能を使用する	96
4.3.19 【応用】コマンドラインから起動する	103
4.3.20 【応用】外部ツールを登録して起動する.....	106

第5章 機能詳細	111
5.1 メインウィンドウの詳細	112
5.1.1 メニューバー	113
5.1.2 ツールバー「標準」.....	116
5.1.3 ツールバー「動作」.....	116
5.1.4 ツールバー「回転」.....	117
5.1.5 ツールバー「スケール」.....	117
5.1.6 ツールバー「ページ」.....	118
5.1.7 ツールバー「ファイル」.....	118
5.1.8 ツールバー「ビューポイント」.....	118
5.1.9 ツールバー「ツール」.....	119
5.1.10 ツールバー「外部ツール」.....	119
5.1.11 ステータスバー	120
5.1.12 表示エリア	121
5.1.13 ページリスト.....	122
5.1.14 ファイルリスト.....	123
5.1.15 計測	125
5.2 「印刷」画面の詳細.....	129
5.2.1 レイアウト	130
5.2.2 プリンタ情報	131
5.2.3 「基本設定」タブ	132
5.2.4 「ヘッダー/フッター」タブ	137
5.2.5 「透かし」タブ	138
5.2.6 画像に合わせて用紙サイズを選択する手順について	140
5.3 「オプション」画面の詳細.....	141
5.3.1 「動作」タブ	142
5.3.2 「表示」タブ	144
5.3.3 「その他」タブ	146
5.4 「用紙サイズ編集」画面の詳細	148
5.4.1 用紙サイズリスト.....	149
5.4.2 用紙サイズの判断について.....	149
5.5 「既定表示編集」画面の詳細	150
5.5.1 既定表示リスト	151
5.5.2 既定表示の機能について	153
5.6 「関連付け」画面の詳細.....	154
5.6.1 「拡張子」タブ	155
5.6.2 「インターネット」タブ	156
5.7 「外部ツール」画面の詳細	157
5.8 「画像情報」画面の詳細	160

5.8.1 「基本情報」タブ	161
5.8.2 「詳細情報」タブ	161
付録.....	163
付録 A リストファイルの仕様.....	164
A.1 仕様.....	164
A.2 記述例	165
付録 B 管理者向けの機能	166
B.1 サイレントインストール.....	166
B.2 シリアル No とライセンスコードの入力を省略したインストール	168
B.3 ログオンユーザーごとに設定を保存する	169
B.4 機能制限をかける	171
付録 C Web ブラウザーのアドオン機能	173
C.1 動作環境	174
C.2 ActiveX コントロール仕様.....	175
C.3 HTML 記述例	177
付録 D オプションライセンス:編集機能.....	178
D.1 オプションライセンスの追加	178
D.2 ページの回転.....	181
D.3 注釈の追加.....	183
D.4 画像の一部を切り取り.....	191
D.5 画像の傾き補正	194
D.6 注釈の初期設定を変更	197
D.7 画像のサイズを変更	200
お問い合わせ先	205

<空白ページ>

第1章 ソフトウェアの概要

KIPViewT は、シンプルで軽量な画像ビューアです。画像を快適な速度で表示することができ、プリンタドライバから印刷を行うことも可能です。

また、設定によって基本動作を調整できますので、他のソフトウェアやシステムと連携がとり易いビューアになっています。

第2章 動作環境

2.1 動作環境

KIPViewT は、以下の条件を満たす環境で動作します。

- IBM PC/AT もしくはその互換機
- OS
 - Microsoft Windows 10 (日本語版/英語版)
 - Microsoft Windows 8 / 8.1 (日本語版/英語版)
 - Microsoft Windows 7 (日本語版/英語版)
 - Microsoft Windows Vista (日本語版/英語版)
 - Microsoft Windows XP (日本語版/英語版、ServicePack1 以降)、
 - Microsoft Windows 2000 (日本語版/英語版、ServicePack4 以降) のいずれか。
- CPU
 - 使用 OS が推奨する環境以上
- メモリ容量
 - 使用 OS が推奨する環境以上 (128MB 以上を推奨)
 - 参考: A0 400 dpi モノクロ 2 値の画像を表示するためには、物理メモリに 32MB 以上の空き容量が必要です。
- ハードディスク
 - 30MB 以上の空き容量
- デスクトップ環境
 - 解像度 1024 × 768 ピクセル以上、True カラー(24bit)以上を推奨

注意

KIPViewT のインストールには、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限が必要です。通常のユーザーでもインストールする事は可能ですが、インストールを実行したユーザーのみが正常に動作するように調整します。その場合は、Web ブラウザーのアドオン機能は使用できません。(詳細は、「付録 C Web ブラウザーのアドオン機能」を参照してください)

2.2 対応フォーマット

KIPViewT が対応しているフォーマットは、以下のとおりです。

■ TIFF ファイル

色数: モノクロ 2 値

グレースケール (8 ビット)

RGB カラー (32 ビット、24 ビット、8 ビットパレット:256 色、4 ビットパレット:16 色、2 ビットパレット:4 色)

CMYK カラー (32 ビット)

YCbCr カラー (24 ビット)

圧縮形式: 非圧縮、CCITT Group 4、CCITT Group 3、LZW、PackBits、JPEG (TIFF Revision 6.0 および TIFF Technical Notes #2 準拠) Adobe Deflate (ZIP)

ページ構成: シングルページ、マルチページ

バイトオーダー: インテル、モトローラ

ビットオーダー: MSB、LSB

■ JPEG ファイル

色空間: YCbCr、RGB

■ CALS ファイル

色空間: モノクロ 2 値

圧縮形式: CCITT Group 4

注意

圧縮形式が JPEG の TIFF ファイルは、作成元のアプリケーションによっては読み込めない場合があります。

KIPViewT が画像の読み込みに使用できるメモリの上限は約 1.2GB となります。お使いのコンピュータの環境によっては、これより少なくなる可能性があります。

KIPViewT は、読み込んだ画像を非圧縮のビットマップとして扱います。画像の大きさと解像度、色数によっては、使用できるメモリの上限を超えてしまい、読み込めない場合があります。

32 ビットの RGB カラーは、24 ビットの RGB カラーとして処理します。残りの 8 ビットは KIPViewT では使用しません。

<空白ページ>

第3章 インストール／アンインストール

3.1 インストール

KIPViewT をインストールします。

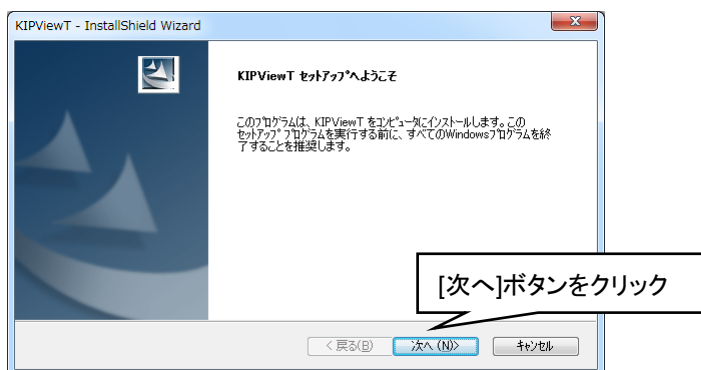
注意

KIPViewT のインストールには、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限が必要です。通常のユーザーでもインストールする事は可能ですが、インストールを実行したユーザーのみが正常に動作するように調整します。その場合は、Web ブラウザーのアドオン機能は使用できません。(詳細は、「付録 C Web ブラウザーのアドオン機能」を参照してください)

確認

インストールの操作は、Windows 7 での操作を基本に記述します。OS 毎にダイアログボックスの内容やボタンの名称が異なる場合があります。画面に表示される名称が異なる OS については、それぞれ名称を置き換えて操作をしてください。

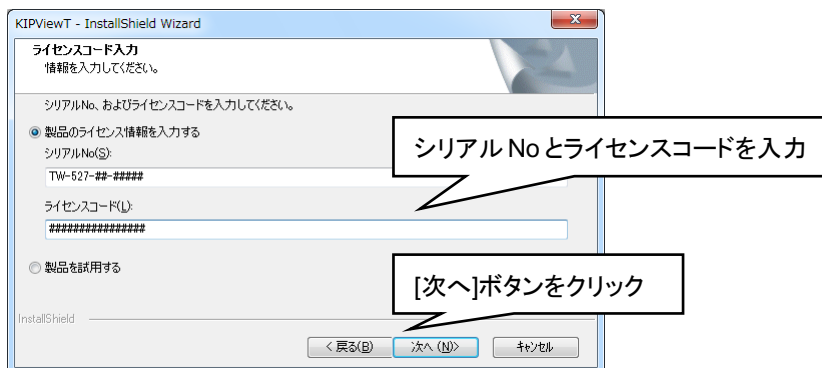
1. 「KIPViewT」と書かれたインストールメディアをドライブにセットします。
2. インストールメディアの内容を参照します。
3. 「SetupKIPViewT.exe」をダブルクリックします。
4. インストーラーの初期画面を表示しますので、[次へ(N)>]ボタンをクリックします。



5. 「使用許諾契約」画面を表示しますので、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ(N)]ボタンをクリックします。



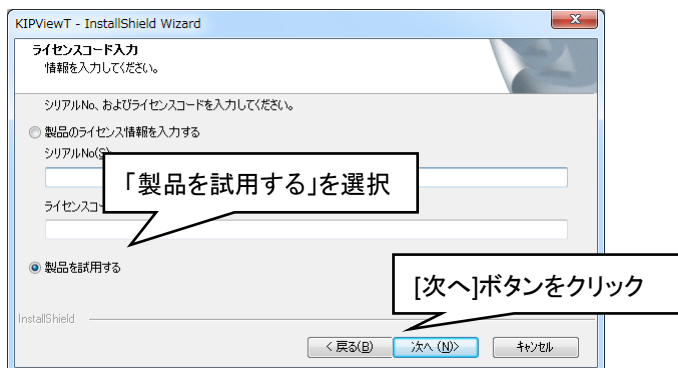
6. 「ライセンスコード入力」画面を表示しますので、「シリアル No」と「ライセンスコード」を入力して、[次へ(N)]ボタンをクリックします。



注意

シリアル No とライセンスコードは、CD-ROM のラベル、または別紙の「ライセンスコード」に記載しています。正しい情報を入力すると、[次へ]ボタンが有効になります。

KIPViewT の評価や試用が目的でライセンスを取得していない場合は、「製品を試用する」を選択します。



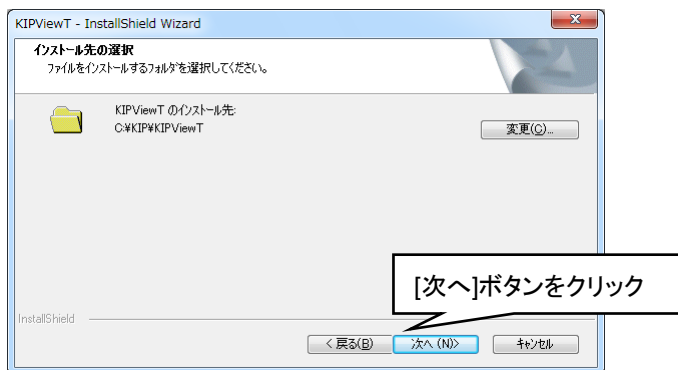
確認

製品を試用する場合、下記の機能制限があります。

表示： すべての画像にウォーターマークを合成

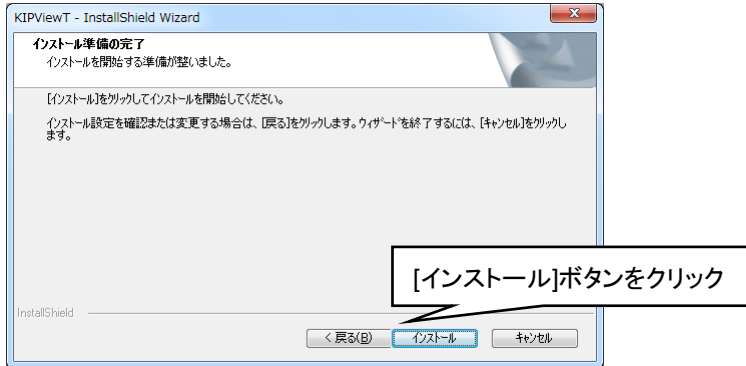
印刷： すべての画像にウォーターマークを合成

7. 「インストール先の選択」画面を表示しますので、インストール先のフォルダを確認します。必要に応じてインストール先を変更して、[次へ(N)]>ボタンをクリックします。

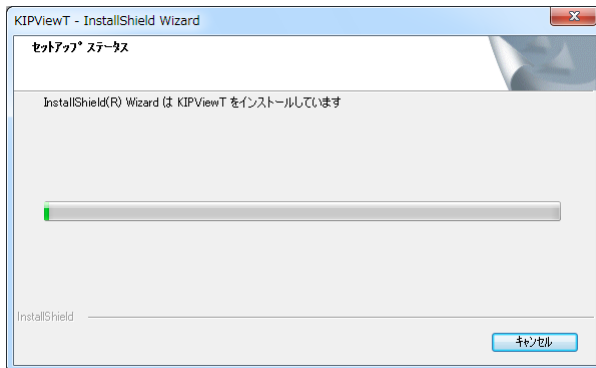


初期値は “C:\KIP\KIPViewT” です。

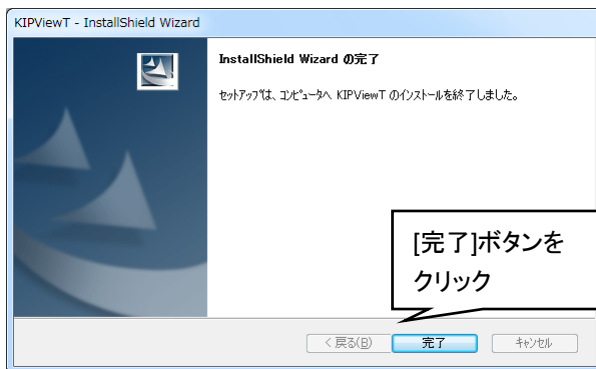
8. 「インストール準備の完了」画面を表示しますので、[インストール]ボタンをクリックします。



9. ファイルのコピーが開始します。



10. インストール完了の画面を表示しますので、[完了]ボタンをクリックします。



以上で KIPViewT のインストールは終了です。

3.2 アンインストール

KIPViewT をアンインストールします。

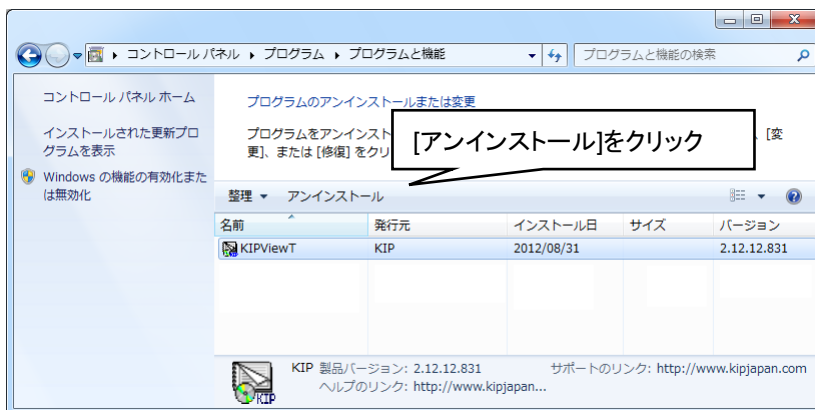
注意

KIPViewT のアンインストールには、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限が必要です。通常のユーザーでインストールを実行した場合は、インストールを実行したユーザーのみが正常にアンインストールする事ができます。

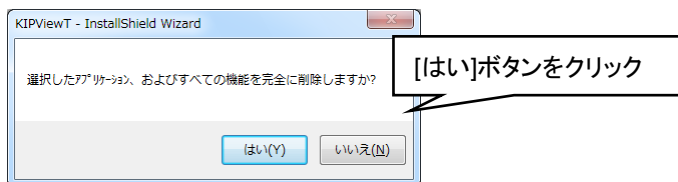
確認

アンインストールの操作は、Windows 7 での操作を基本に記述します。OS 毎にダイアログボックスの内容やボタンの名称が異なる場合があります。画面に表示される名称が異なる OS については、それぞれ名称を置き換えて操作してください。

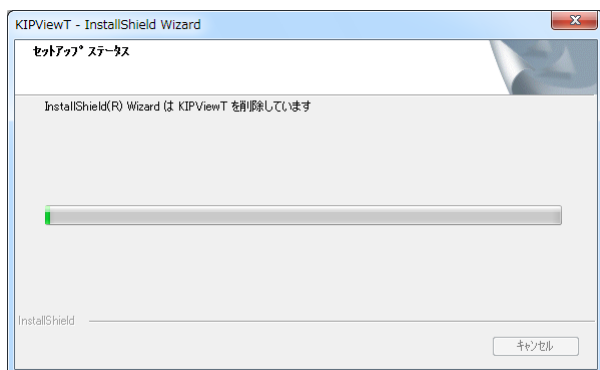
1. コントロールパネルを開きます。
2. [プログラム] – [プログラムのアンインストール]を選択します。
3. 一覧から、「KIPViewT」を選択して、[アンインストール]をクリックします。



4. 削除の確認画面を表示しますので、アンインストールを開始しても良ければ、[はい(Y)]ボタンをクリックします。



5. アンインストールの処理が完了すると、アンインストール完了の画面を表示しますので、[完了]ボタンをクリックします。



以上で KIPViewT のアンインストールは終了です。

<空白ページ>

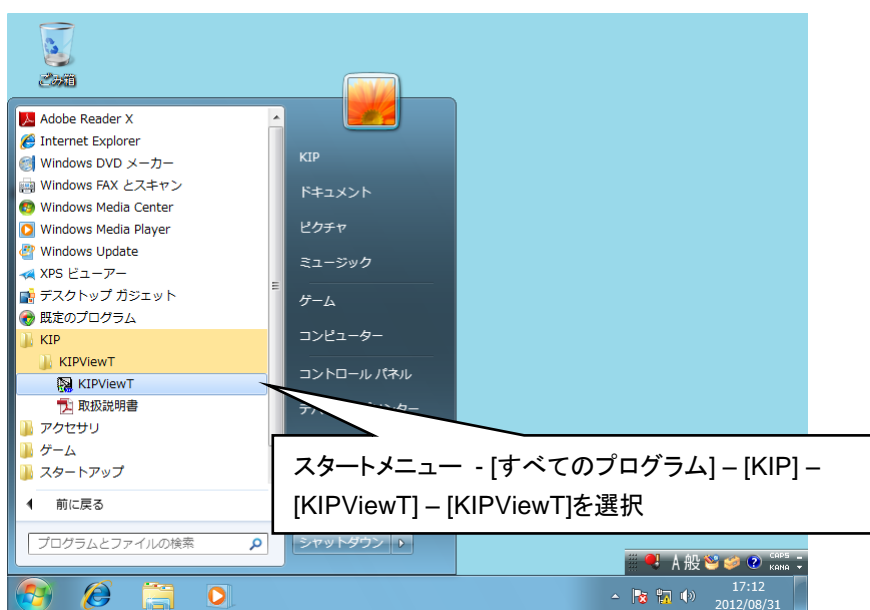
第4章 基本操作

4.1 プログラムの起動と終了

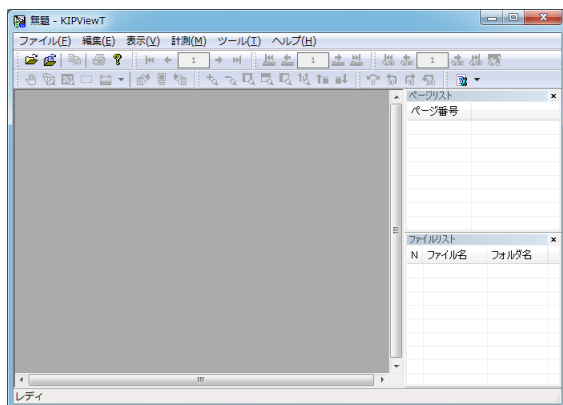
4.1.1 KIPViewT を起動する

ここでは、KIPViewT の起動方法について説明します。

1. デスクトップ上の[KIPViewT]アイコンをダブルクリックするか、スタートメニューから [すべてのプログラム] – [KIP] – [KIPViewT] – [KIPViewT]を選択します。



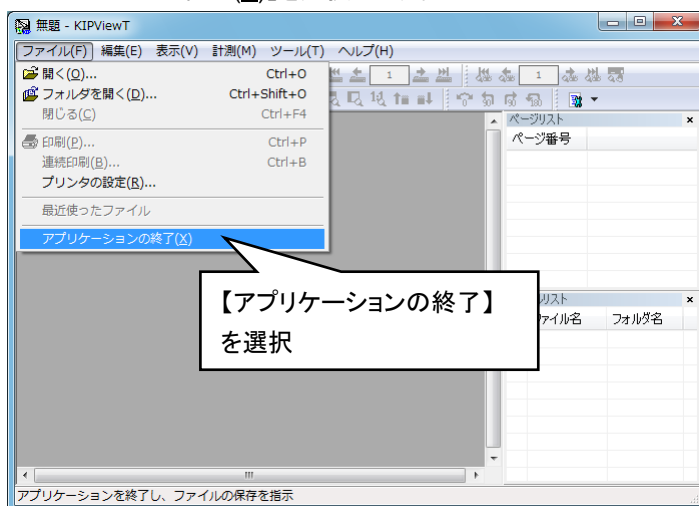
2. KIPViewT が起動します。



4.1.2 KIPViewT を終了する

ここでは、KIPViewT の終了方法について説明します。

1. メインウィンドウ右上の[×]ボタンをクリックするか、メニューバーから【ファイル(F)】－【アプリケーションの終了(X)】を選択します。

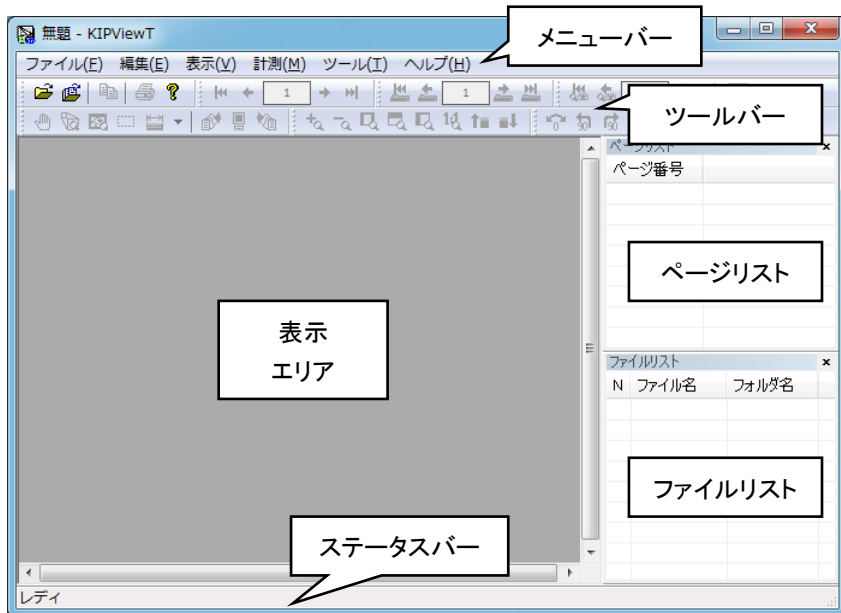


2. KIPViewT が終了します。

4.2 画面の構成

ここでは、KIPViewT の画面の名称や構成について説明します。
各機能の詳細は、「第5章 機能詳細」を参照してください。

4.2.1 メインウィンドウ



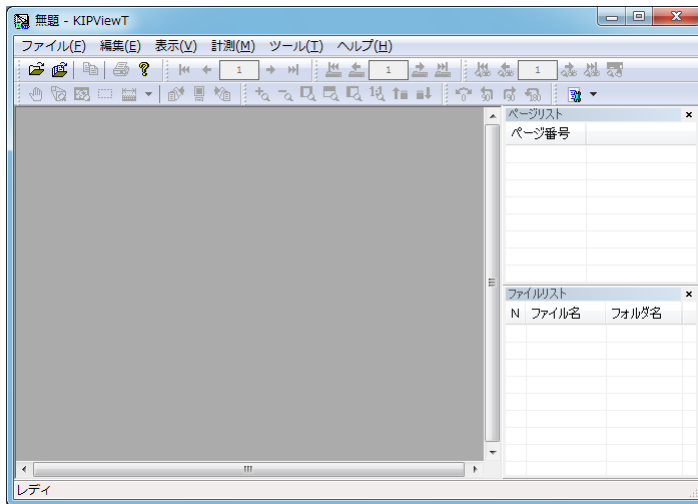
- **メニューバー**
【ファイル(F)】、【表示(V)】など KIPViewT の基本的な機能のメニューを表示します。
項目をクリックするとメニューがプルダウンして、コマンドの一覧を表示します。
- **ツールバー**
KIPViewT の基本的な機能を実行します。
- **ステータスバー**
表示している画像の情報や実行する操作の説明を表示します。
- **表示エリア**
読み込んだファイルの画像を表示します。
- **ページリスト**
表示している画像のページ構成を表示します。
- **ファイルリスト**
表示する画像のファイルリストを表示します。

4.3 KIPViewT を使用する

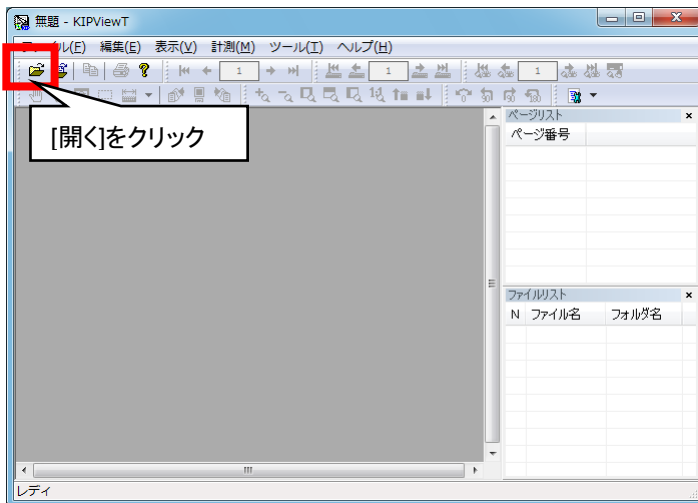
4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く

ここでは、ファイルを指定して開く手順について説明します。

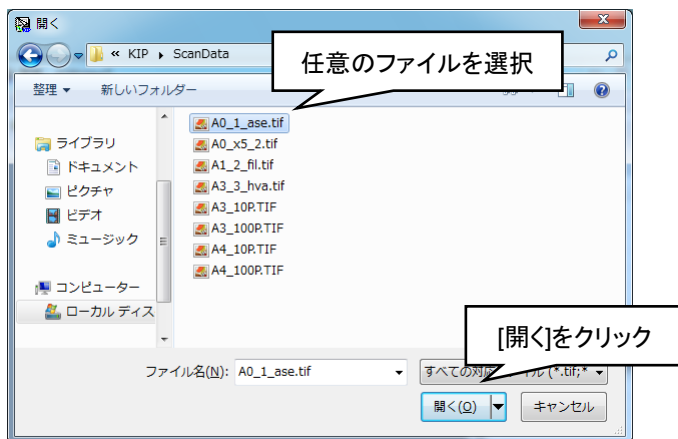
1. KIPViewT を起動します。



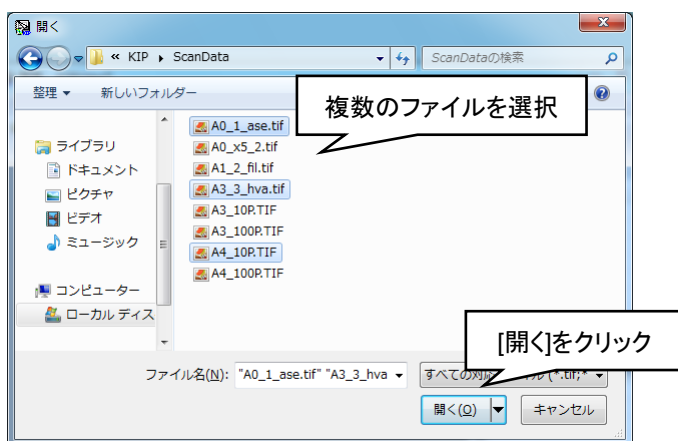
2. ツールバーの[開く]ボタンをクリックします。



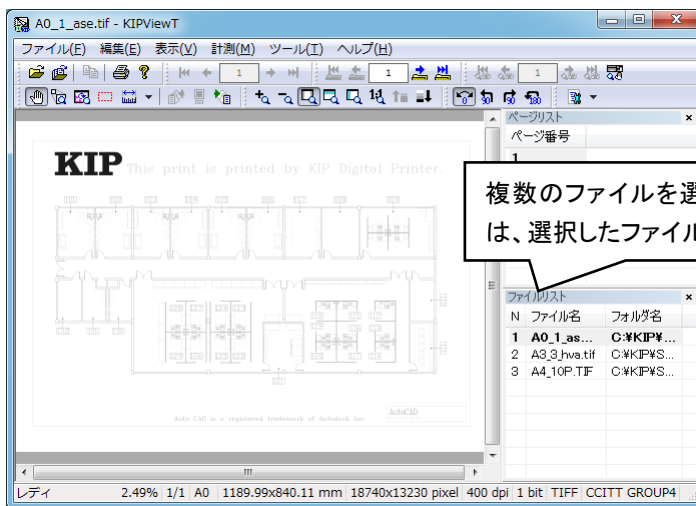
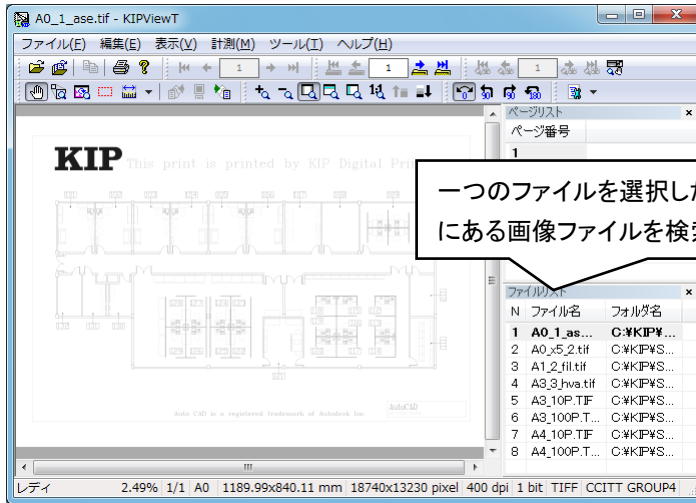
「ファイルを開く」画面を表示しますので、任意のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。



また、下図のように複数のファイルを選択することも可能です。



3. ファイルの読み込みが完了すると、表示エリアに画像を表示します。
ペーじリスト、ファイルリストも状態に合わせて更新します。



※ファイルリストは、ファイル名順にソートして表示します。

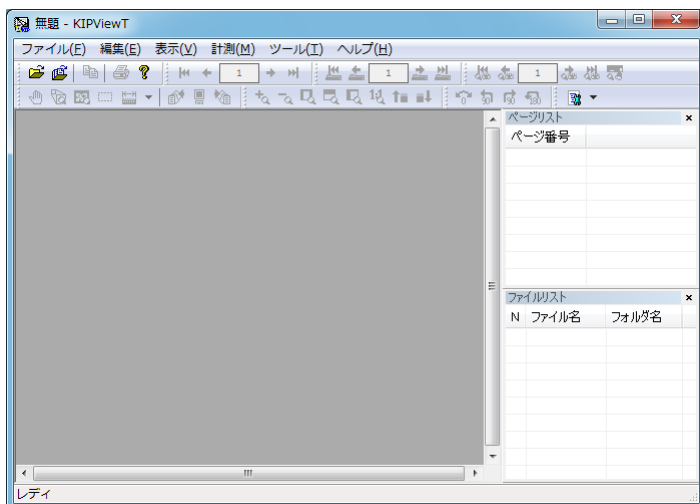
以上でファイルを指定して開く手順については終了です。

4.3.2 【開く】フォルダを指定して開く

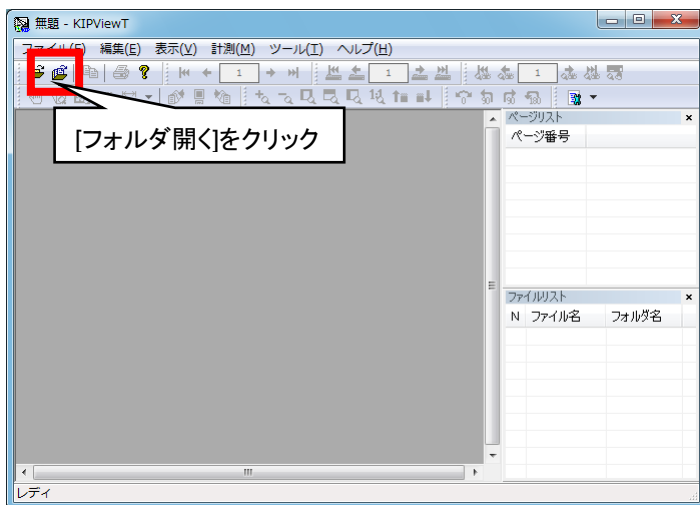
ここでは、フォルダを指定して開く手順について説明します。

同じフォルダにある、複数のファイルを連続して参照する場合に便利です。

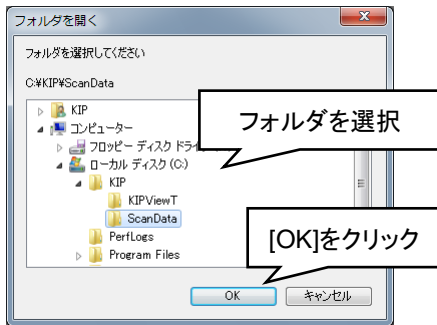
1. KIPViewT を起動します。



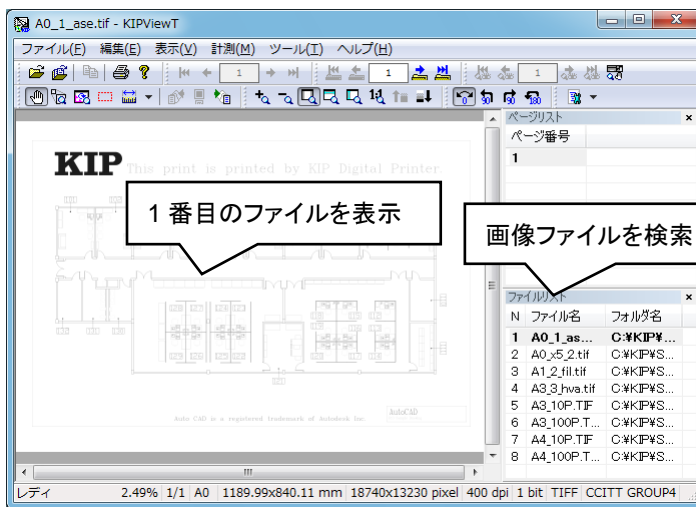
2. ツールバーの[フォルダを開く]ボタンをクリックします。



「フォルダを開く」画面を表示しますので、画像ファイルがあるフォルダを選択して、[OK]ボタンをクリックします。



3. 選択したフォルダにある画像ファイルを検索します。
検索した結果をファイルリストに表示します。
1 番目のファイルを読み込んで、表示エリアに画像を表示します。
ページリストも状態に合わせて更新します。



※ファイルリストは、ファイル名順にソートして表示します。

以上でフォルダを指定して開く手順については終了です。

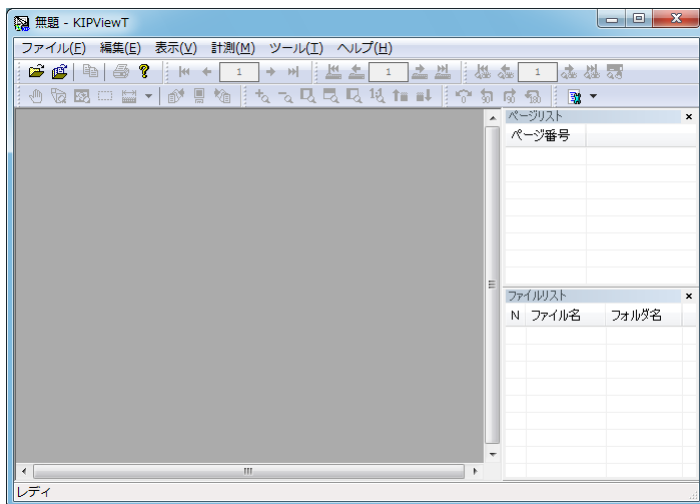
4.3.3 【開く】リストファイルを使用して開く

ここでは、リストファイルを使用して開く手順について説明します。

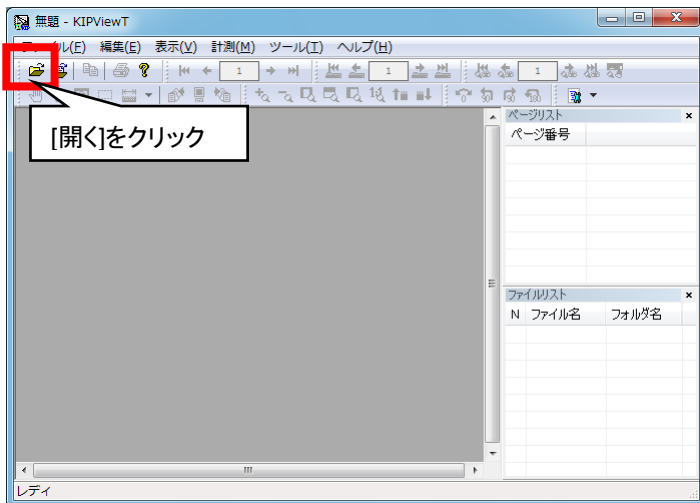
リストファイルを使用すると、ファイルリストに表示する画像ファイルや順番を自由に指定することができます。

リストファイルの書式や詳細については、後述の「付録 A リストファイルの仕様」を参照してください。

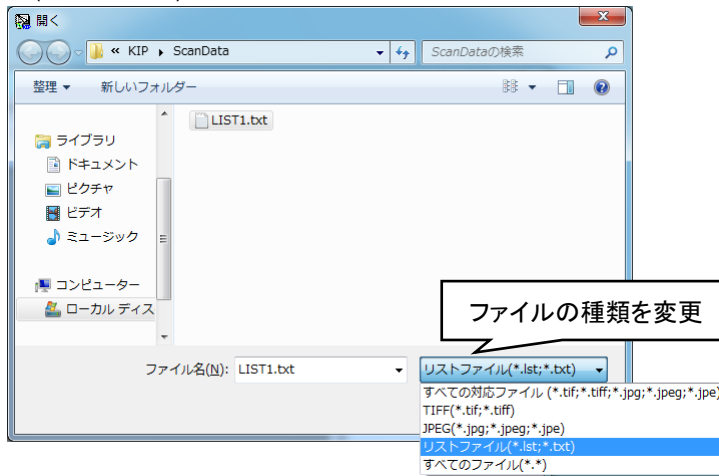
1. KIPViewT を起動します。



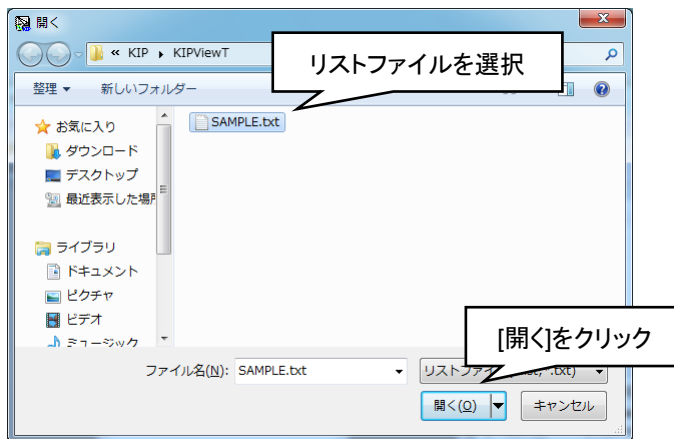
2. ツールバーの[開く]ボタンをクリックします。



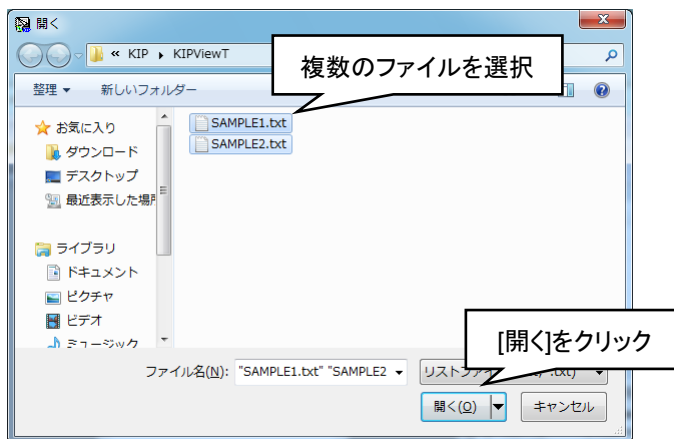
「ファイルを開く」画面を表示しますので、「ファイルの種類」のプルダウンから、「リストファイル(*.LST,*.TXT)」を選択します。



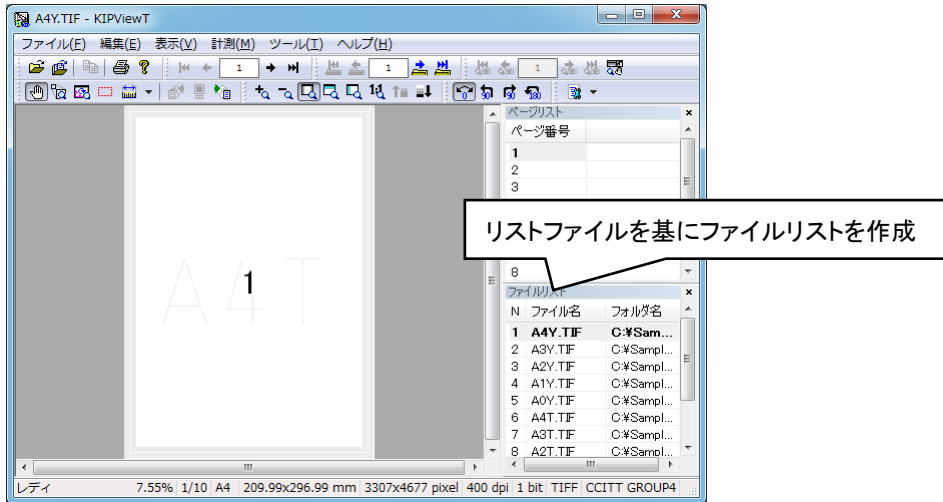
リストファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。



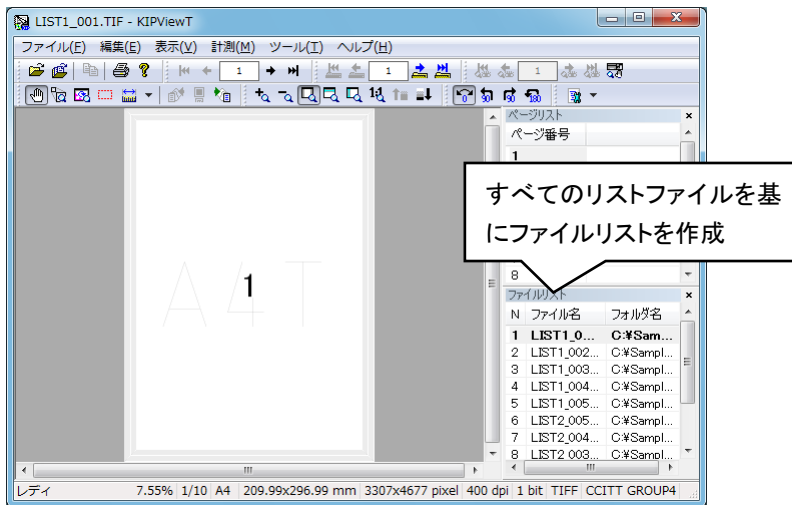
また、下図のように複数のリストファイルを選択することも可能です。



3. リストファイルを解析して、ファイルリストを作成します。
1 番目のファイルを読み込んで、表示エリアに画像を表示します。
ページリストも状態に合わせて更新します。



複数のリストファイルを開いた場合は、すべてのリストファイルを連結してファイルリストを作成します。



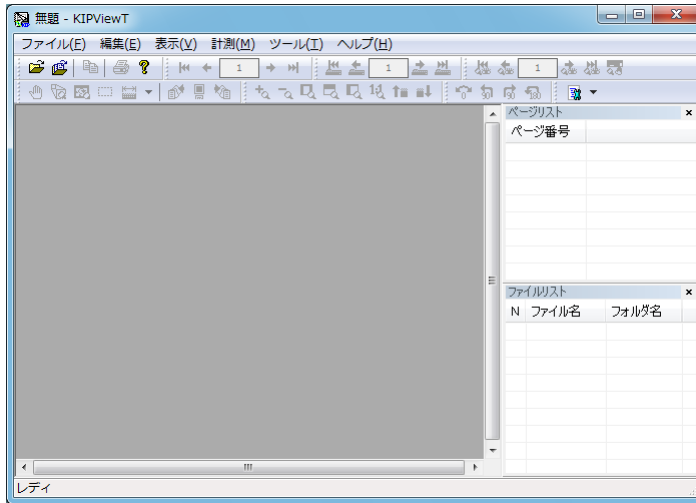
以上でリストファイルを使用して開く手順については終了です。

4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く

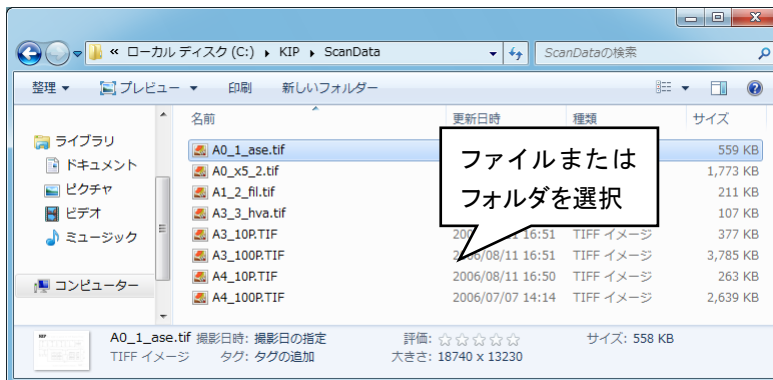
ここでは、ドラッグ&ドロップでファイルを開く手順について説明します。

エクスプローラやマイコンピュータなどから、任意のファイル、またはフォルダをドラッグ&ドロップして開きます。

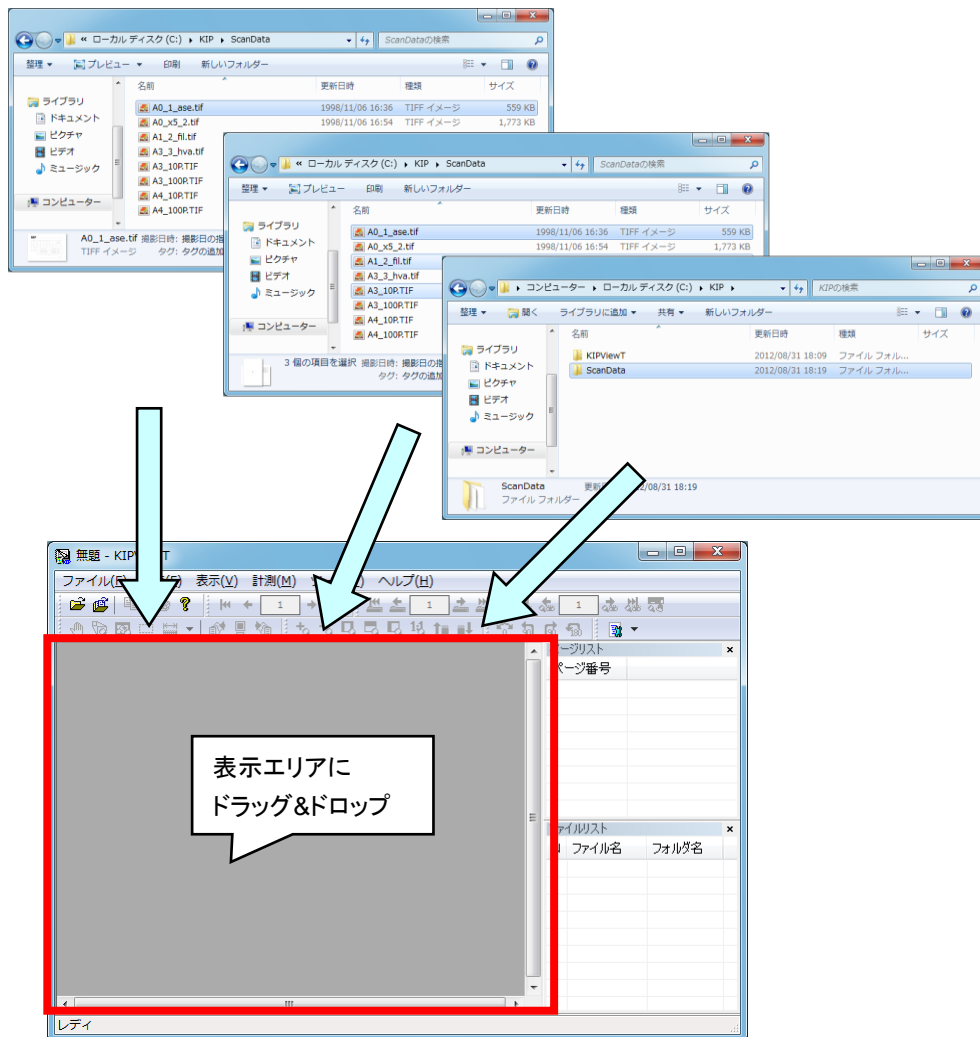
1. KIPViewT を起動します。



2. エクスプローラなどを操作して、目的のファイル、またはフォルダを選択します。



3. 選択したファイルまたはフォルダを KIPViewT の表示エリアにドラッグ&ドロップします。
KIPViewT は、複数のファイルや複数のフォルダ、ファイルとフォルダが同時にドロップされても処理をすることができます。



KIPViewT は、ドラッグ&ドロップされたファイルやフォルダの種類を自動で判断して、下表のように処理します。

種類	処理
一つのファイル	ドロップされたファイルを読み込みます。 ファイルリストには、同一フォルダにある画像ファイルを検索して表示します。 「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」と同じです。
複数のファイル	ドラッグ開始時にマウスカーソルがつかんでいたファイルを読み込みます。ファイルリストには、ドロップされた順番で表示します。 「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」とは異なります。
一つのフォルダ	ドロップされたフォルダにある画像ファイルを検索します。検索した結果をファイルリストに表示します。 ファイルリストの1番目のファイルを読み込みます。 「4.3.2 【開く】フォルダを指定して開く」と同じです。
複数のフォルダ	ドロップされた順番でフォルダを処理(画像ファイルを検索)して、ファイルリストを作成します。ファイルリストの1番目のファイルを読み込みます。
ファイルとフォルダを同時	ドロップされた順番でファイルまたはフォルダを処理して、ファイルリストを作成します。ファイルリストの1番目のファイルを読み込みます。

以上でドラッグ&ドロップでファイルを開く手順については終了です。

4.3.5 【表示】画像を回転する

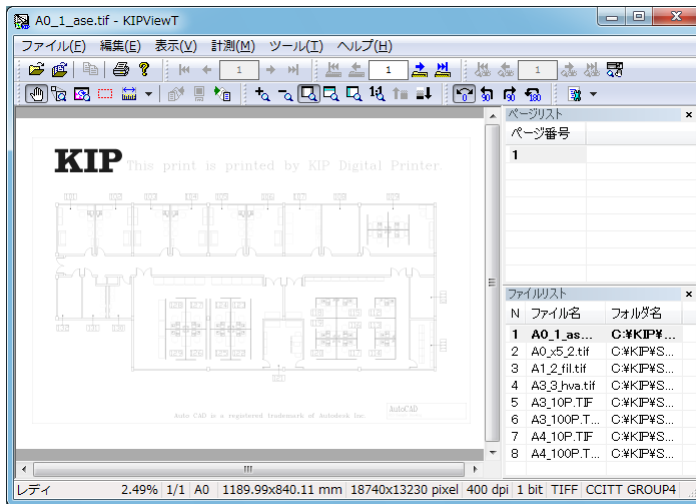
ここでは、読み込んだ画像を回転して表示する手順について説明します。

KIPViewT は、A0 を超える大きな用紙サイズの画像でも快適な速度で回転します。

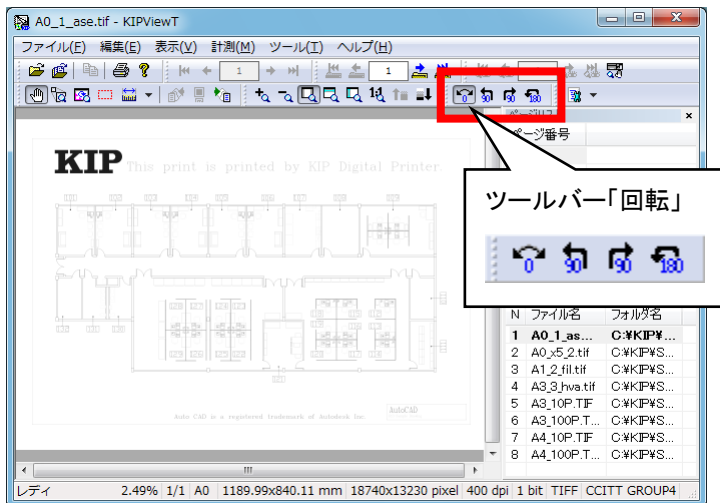
画像は、90° 単位に回転します。

1. ファイルを読み込みます。





手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



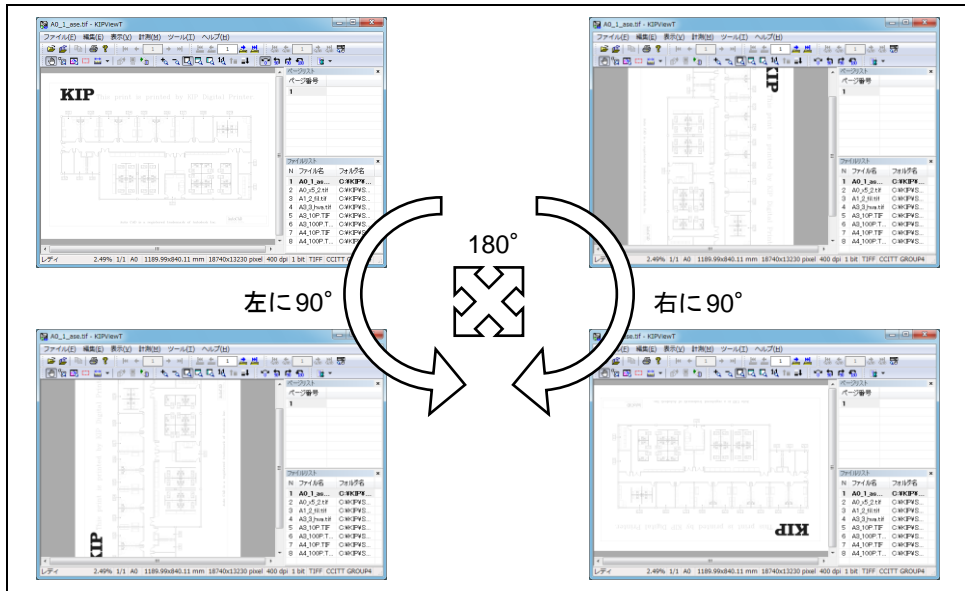
2. ツールバー「回転」を操作して、画像が目的の角度になるように調整します。



ツールバー「回転」の各ボタンの動作は下表の通りです。

ボタン	動作
	回転角度を 0° にして、画像の本来の向きで表示します。 現在の角度が 0° の場合は押下した状態になります。
	ボタンを押すたびに画像が左に 90° 回転します。
	ボタンを押すたびに画像が右に 90° 回転します。
	ボタンを押すたびに画像が 180° 回転します。

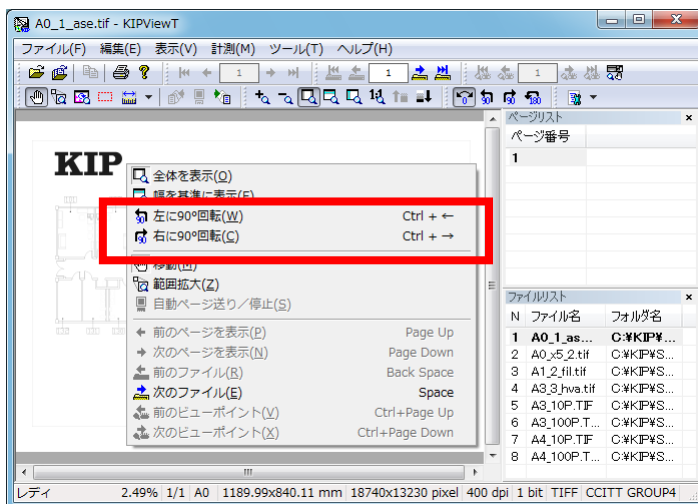
■ 画像の回転方向



メニューバーから【表示(V)】 - 【回転】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
回転なし	回転角度を 0° にして、画像の本来の向きで表示します。 現在の角度が 0° の場合はチェックが付いた状態になります。
左に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が左に 90° 回転します。
右に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が右に 90° 回転します。
180° 回転	メニューを選択するたびに画像が 180° 回転します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、回転することができます。



メニュー	動作
左に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が左に 90° 回転します。
右に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が右に 90° 回転します。

メニューのキーボードショートカット表記にあるようにキーボードの操作でも回転することができます。

入力キー	動作
[Ctrl]+[←]	操作するたびに画像が左に 90° 回転します。
[Ctrl]+[→]	操作するたびに画像が右に 90° 回転します。

以上で画像を回転して表示する手順については終了です。

4.3.6 【表示】画像を拡大／縮小する

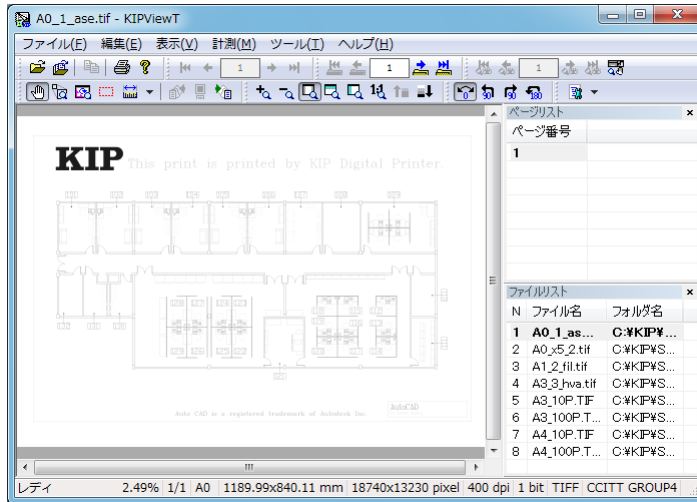
ここでは、読み込んだ画像を拡大／縮小して表示する手順について説明します。

表示の倍率(スケール)は 0.5%~99999%の範囲で変化します。

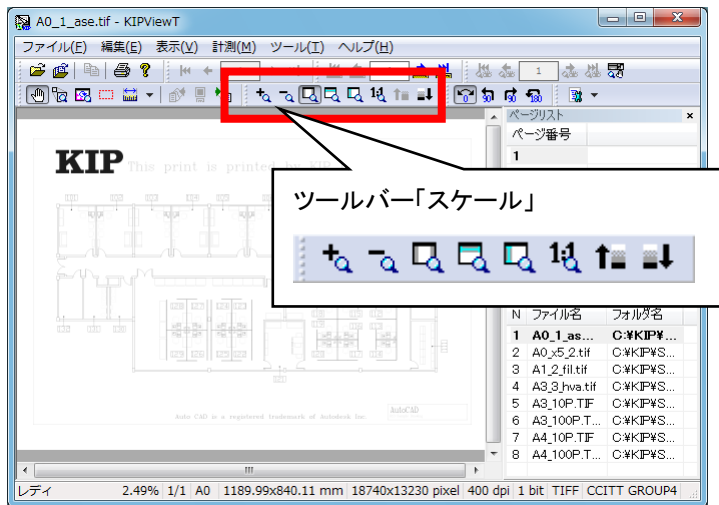
モノクロ 2 値画像の縮小時は 256 階調のグレースケールで表示します。

1. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」~「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「スケール」を操作して、画像が目的のサイズになるように調整します。



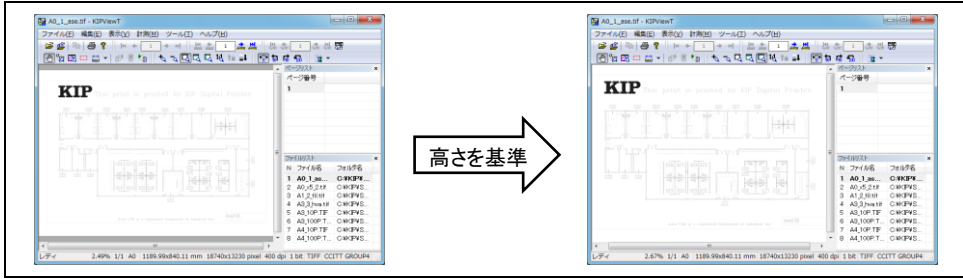
ボタン		動作
	拡大	ボタンを押すたびに画像が拡大します。
	縮小	ボタンを押すたびに画像が縮小します。
	全体を表示	ボタンを押すと表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。
	幅を基準に表示	ボタンを押すと表示エリアの幅に合わせて画像を表示します。
	高さを基準に表示	ボタンを押すと表示エリアの高さに合わせて画像を表示します。
	等倍で表示	ボタンを押すと等倍(100%)で画像を表示します。
	淡く表示	ボタンを押すたびに薄い濃度で画像を表示します。
	濃く表示	ボタンを押すたびに濃い濃度で画像を表示します。

■画像の拡大と縮小

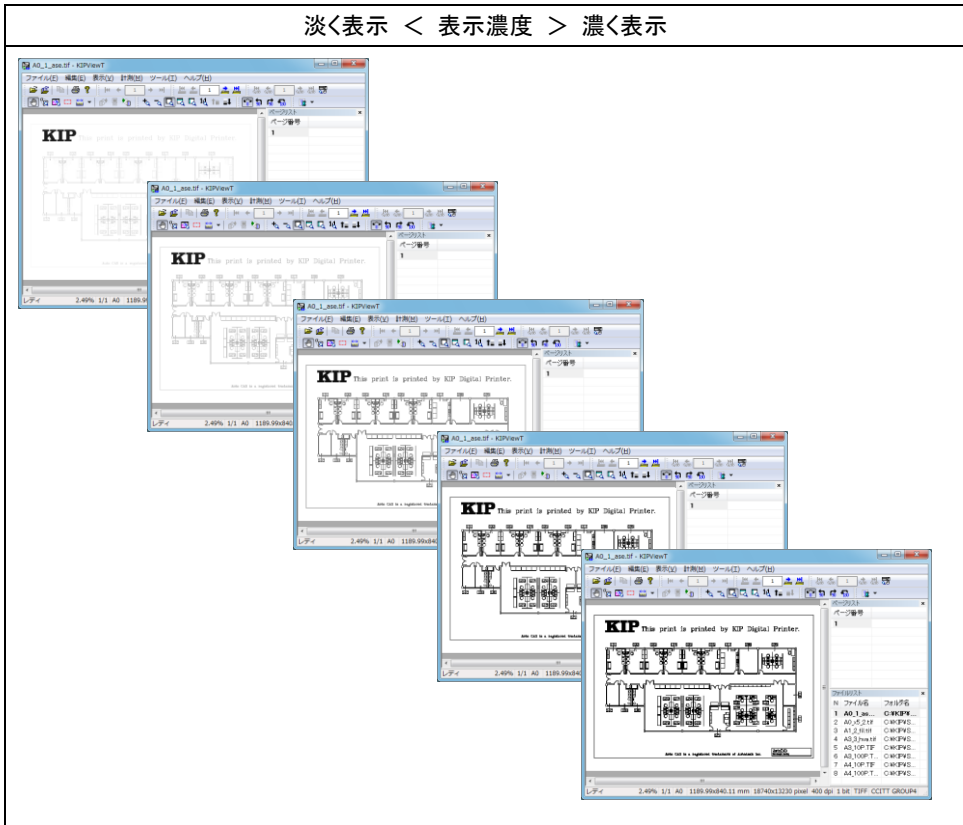
The diagram illustrates the zoom operations on a KIP image within a software window. It shows four states of the image:

- Initial State (Top Left):** The image is displayed at 2.49% zoom.
- Zoom In (Top Right):** An arrow labeled "拡大" points to the image at 6.49% zoom.
- Fit (Middle Right):** An arrow labeled "全体を表示" points to the image at 1.89% zoom, where the entire image fits within the window.
- Zoom Out (Bottom Right):** An arrow labeled "縮小" points to the image at 1.89% zoom.
- Fit Width (Bottom Left):** An arrow labeled "幅を基準" points to the image at 1.89% zoom, where the image width matches the window width.

■ 画像の拡大と縮小



■ 表示濃度 動作イメージ



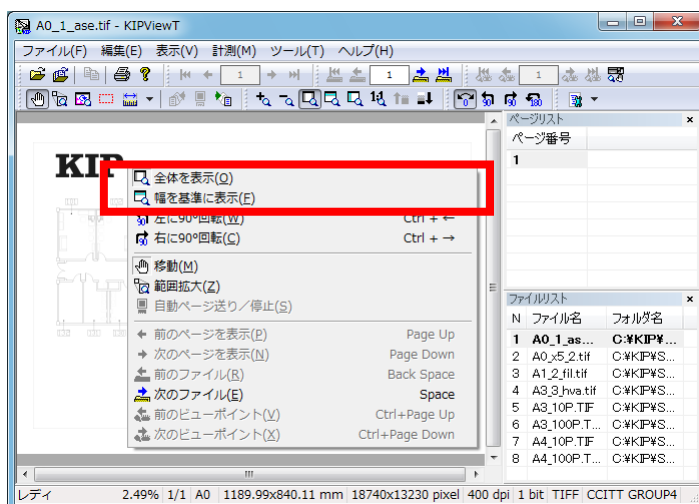
確認

「淡く表示」「濃く表示」は、モノクロ 2 値画像の縮小時のみ機能します。

メニューバーから【表示(V)] - 【スケール】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
拡大	メニューを選択するたびに画像が拡大します。
縮小	メニューを選択するたびに画像が縮小します。
全体を表示	メニューを選択すると表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。
幅を基準に表示	メニューを選択すると表示エリアの幅に合わせて画像を表示します。
高さを基準に表示	メニューを選択すると表示エリアの高さに合わせて画像を表示します。
等倍で表示	メニューを選択すると等倍(100%)で画像を表示します。
淡く表示	メニューを選択するたびに淡い濃度で画像を表示します。
濃く表示	メニューを選択するたびに濃い濃度で画像を表示します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、スケールの一部の機能を使用することができます。



メニュー	動作
全体を表示	メニューを選択すると表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。
幅を基準に表示	メニューを選択すると表示エリアの幅に合わせて画像を表示します。

キーボードの操作でも拡大／縮小することができます。

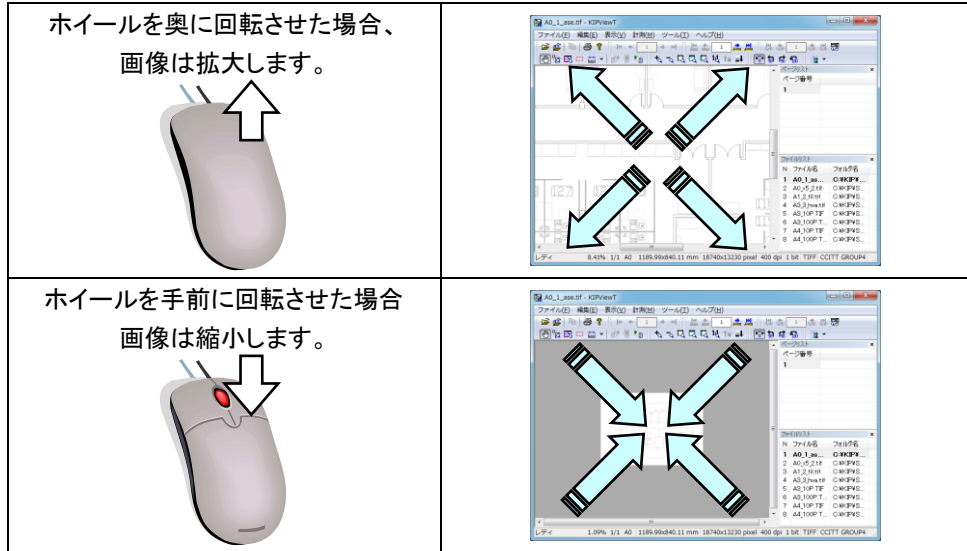
入力キー	動作
[+] (テンキー)	操作するたびに画像が拡大します。
[-] (テンキー)	操作するたびに画像が縮小します。

マウスのホイール機能を利用して、拡大／縮小することができます。

ホイールの動きに合わせて、画像が拡大／縮小します。

※「オプション」画面で「マウスホイールで拡大縮小」にチェックを付ける必要があります。

※マウスソフトウェアの設定によっては、動作が上下逆になる場合があります。



以上で画像を拡大／縮小して表示する手順については終了です。

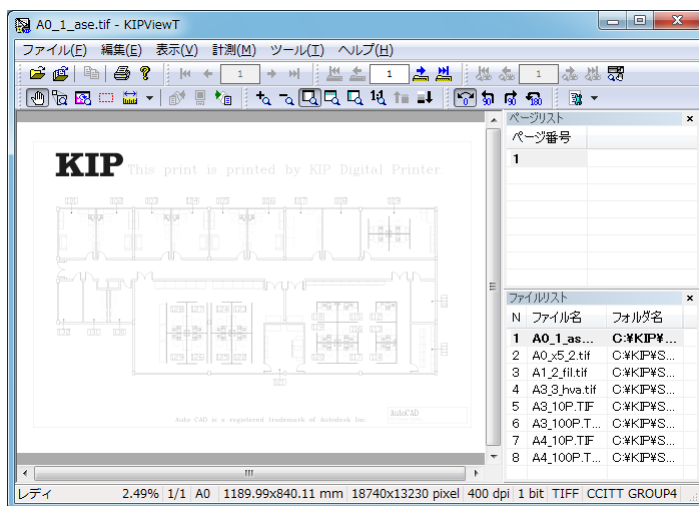
4.3.7 【表示】画像をスクロールする

ここでは、読み込んだ画像をスクロールする手順について説明します。

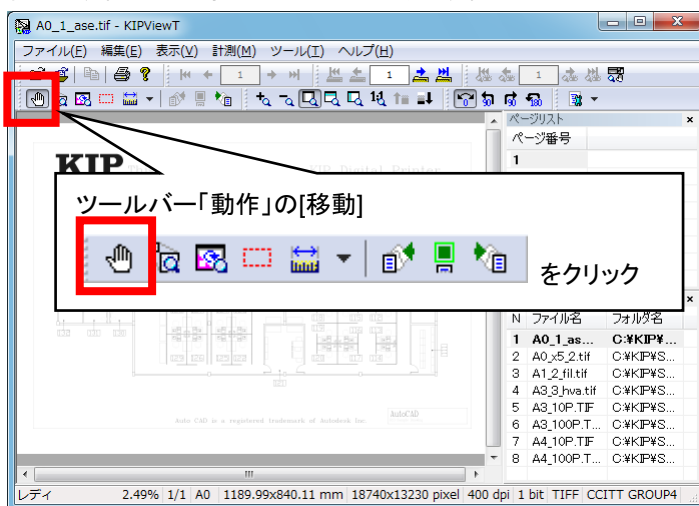
マウスで画像をドラッグしたり、スクロールバーやカーソルキーを操作したりすることで、画像をスクロールさせることができます。

1. ファイルを読み込みます。

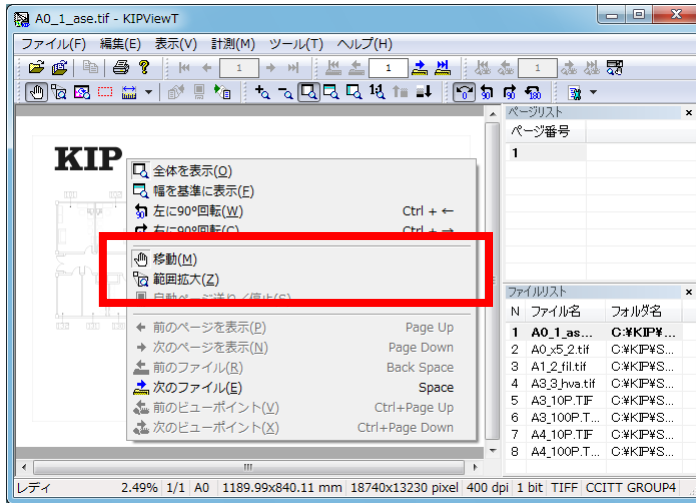
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「動作」の[移動]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になります。



また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから【移動】を選択することで、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えることもできます。



動作の状態に合わせて、【移動】または【範囲拡大】にチェックが付いています。動作の状態は、マウカーソルが表示エリア内にある場合のアイコンでも確認することができます。

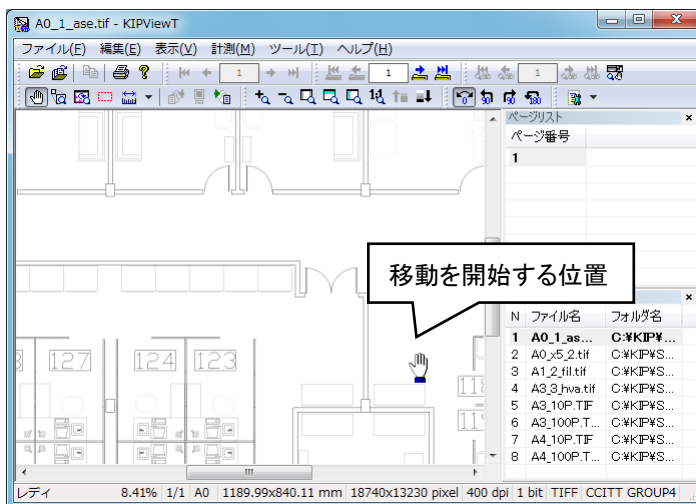
移動の場合：



範囲拡大の場合：

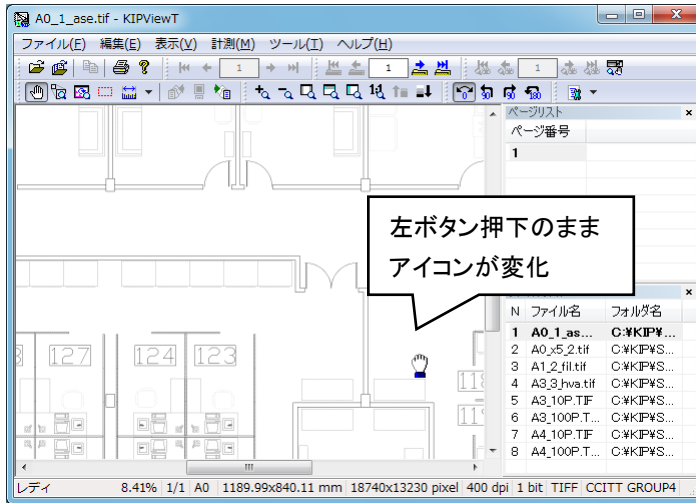


3. マウスをドラッグして、画像をスクロールします。
- 3-a 移動を開始する位置にマウカーソルを合わせます。



3-b マウスの左ボタンを押したままの状態にします。

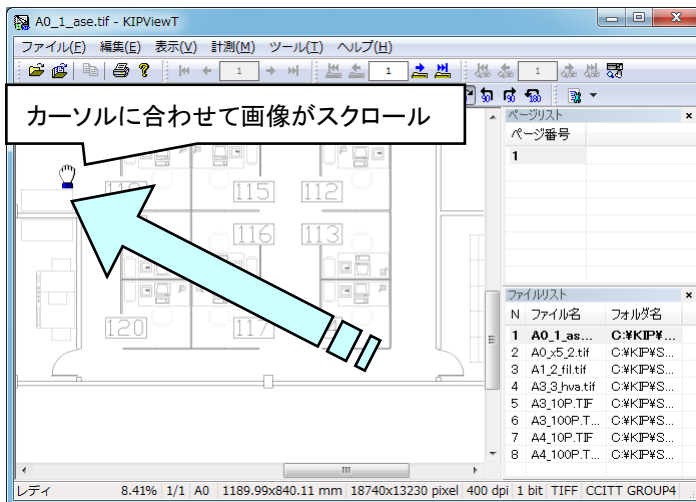
マウスカーソルが、物をつかんだ状態のアイコンに変化します。



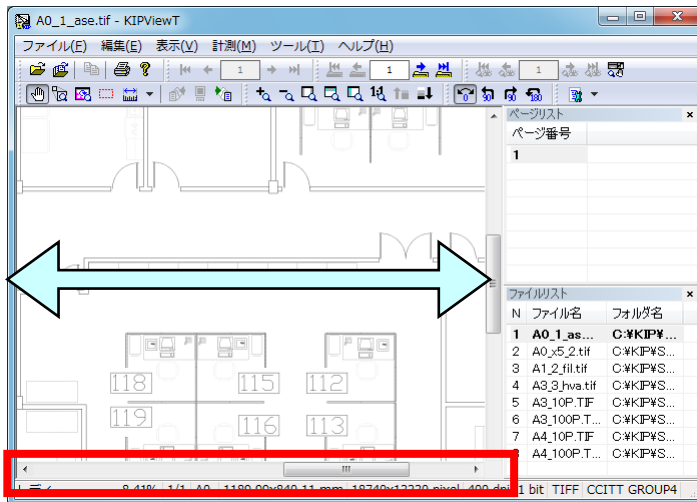
3-c マウスの左ボタンを押したまま、スクロールしたい方向にマウスカーソルを移動します。

マウスカーソルの動きに合わせて、画像がスクロールします。

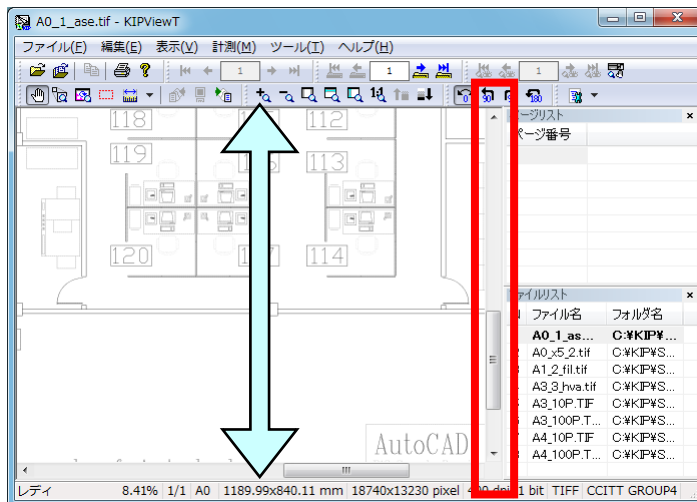
スクロールを終了する場合は、マウスの左ボタンを離します。



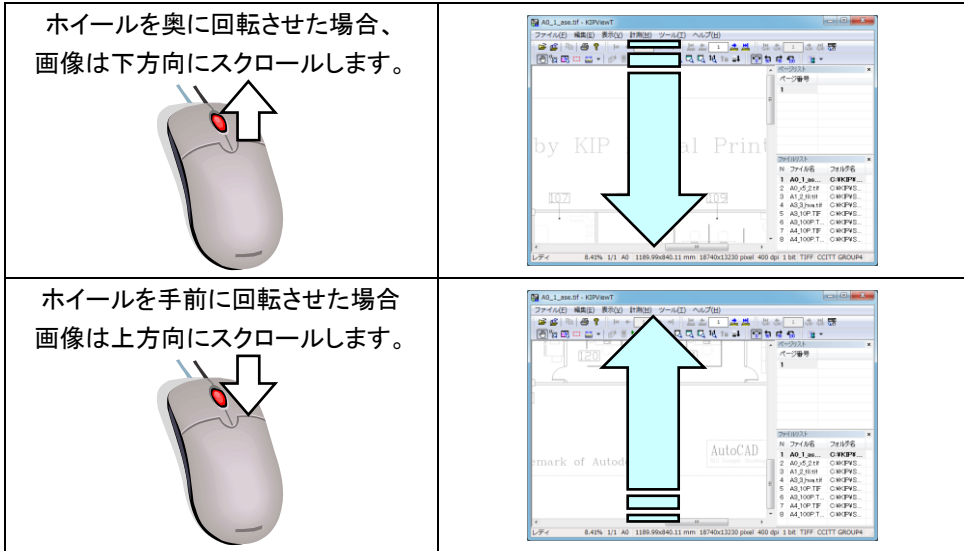
4. スクロールバーを操作して、画像をスクロールします。
表示エリアの右と下にあるスクロールバーを操作します。
4-a 左右にスクロールさせる場合は、水平スクロールバーを操作します。



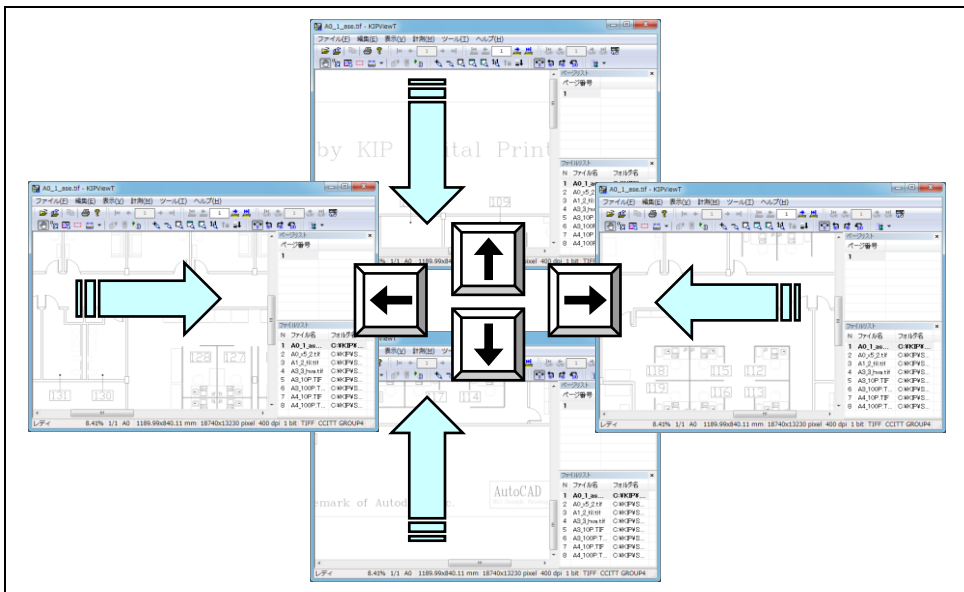
- 4-b 上下にスクロールさせる場合は、垂直スクロールバーを操作します。



5. マウスのホイール機能を利用して、画像をスクロールします。
 ホイールの動きに合わせて、画像が上下方向にスクロールします。
 ※「オプション」画面で「マウスホイールで拡大縮小」のチェックを外す必要があります。
 ※マウスソフトウェアの設定によっては、動作が上下逆になる場合があります。



6. カーソルキーを操作して、画像をスクロールします。
 カーソルキーの操作に合わせて、画像が上下左右にスクロールします。



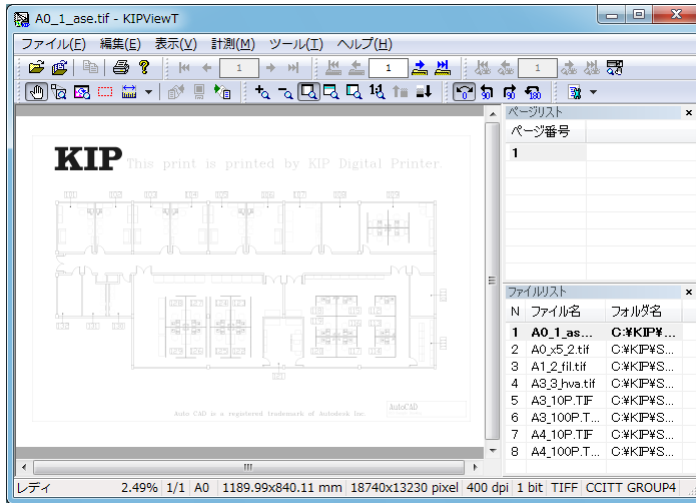
以上で画像をスクロールする手順については終了です。

4.3.8 【表示】選択した範囲を拡大する

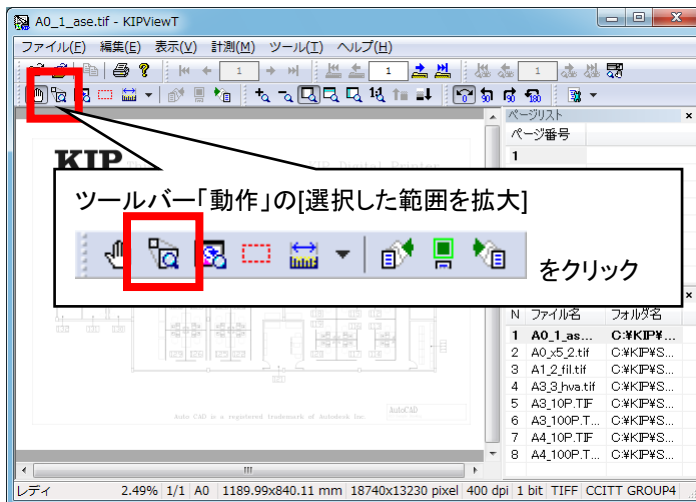
ここでは、読み込んだファイルの選択した範囲を拡大して表示する手順について説明します。

1. ファイルを読み込みます。

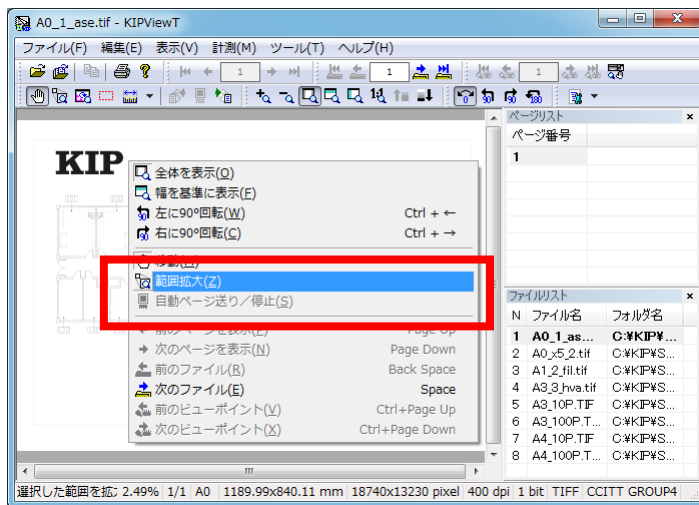
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。




2. ツールバー「動作」の[選択した範囲を拡大]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になります。



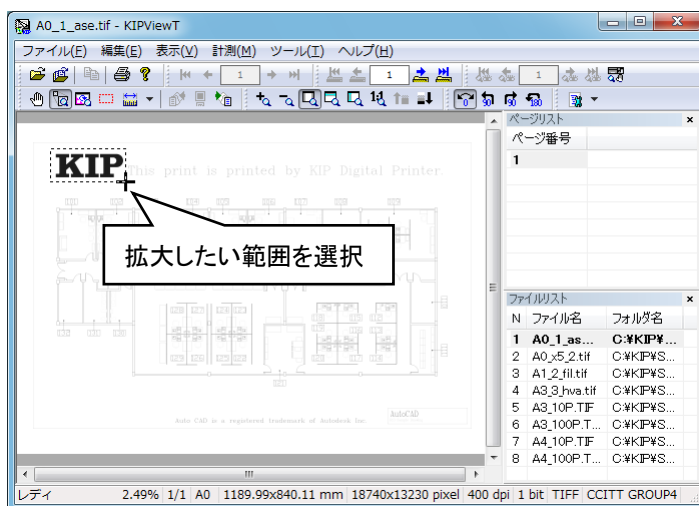
また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから【範囲拡大】を選択することで、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えることもできます。



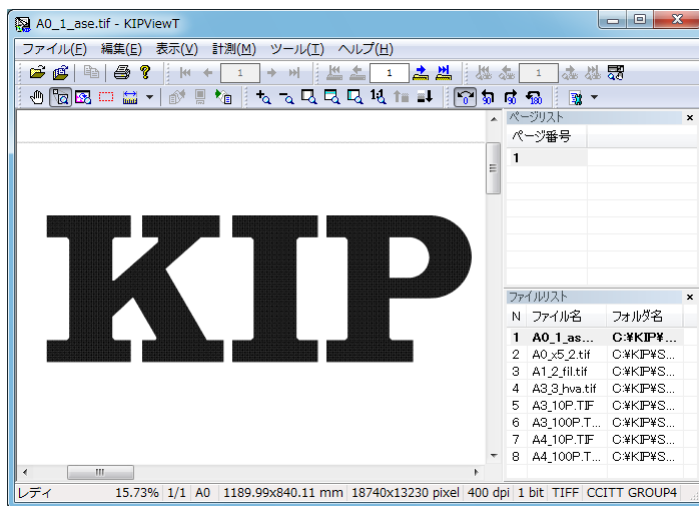
動作の状態に合わせて、【移動】または【範囲拡大】にチェックが付いています。動作の状態は、マウскарソルが表示エリア内にある場合のアイコンでも確認することができます。

移動の場合： 範囲拡大の場合：

3. マウスを操作して、拡大して表示したい範囲を左ボタンでドラッグして選択します。



4. マウスの左ボタンを離すと、選択した範囲を拡大して表示します。

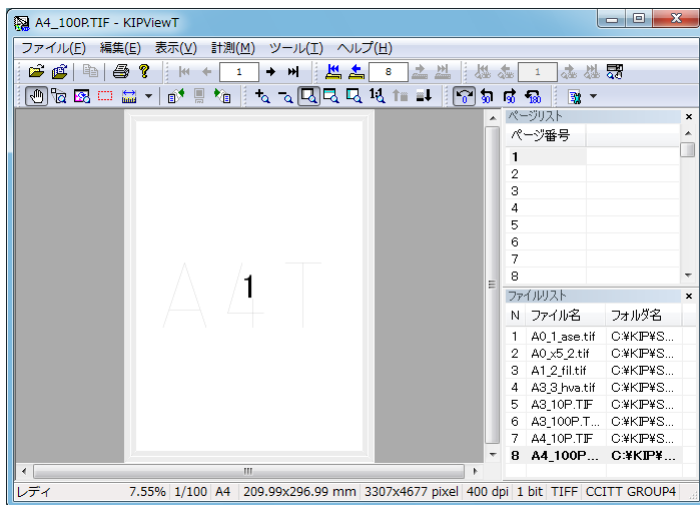


以上で選択した範囲を拡大して表示する手順については終了です。

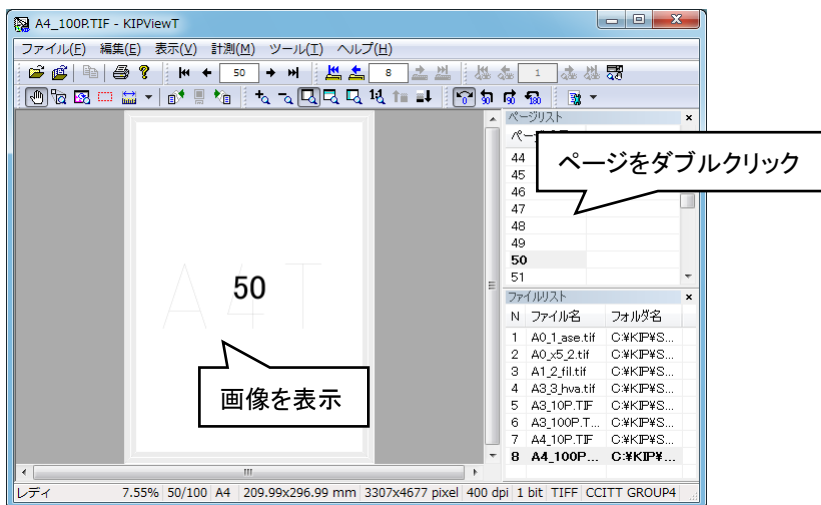
4.3.9 【表示】ページの切り替え

ここでは、読み込んだファイルが複数ページの場合にページを切り替えて表示する手順について説明します。

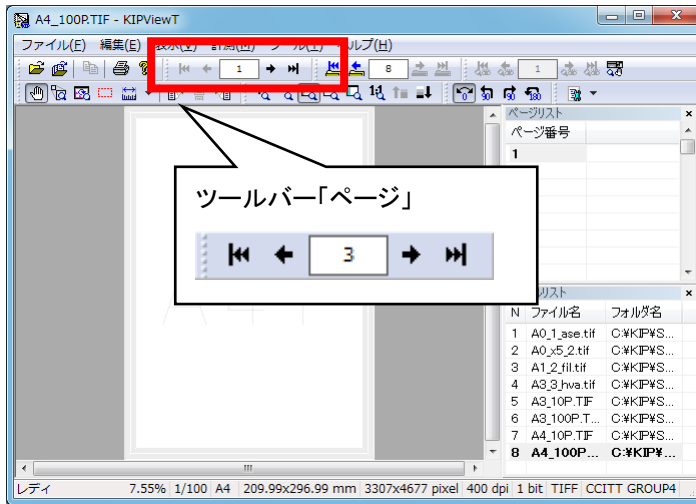
1. 複数ページのファイルを読み込みます。
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. 「ページリスト」のページをダブルクリックします。
ダブルクリックしたページの画像を表示します。



また、ツールバー「ページ」を操作して、目的のページを表示することもできます。

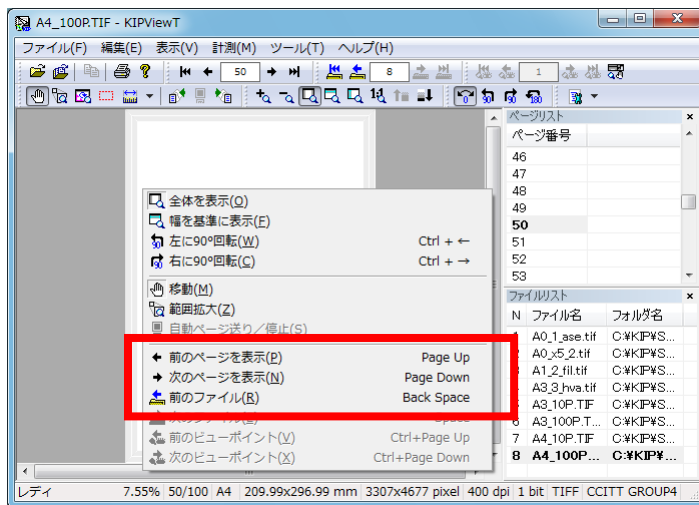


ボタン		動作
	最初のページ	ボタンを押すと最初のページを表示します。
	前のページ	ボタンを押すたびに一つ前のページを表示します。
	ページ番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したページを表示します。
	次のページ	ボタンを押すたびに一つ次のページを表示します。
	最後のページ	ボタンを押すと最後のページを表示します。

メニューバーから【表示(V)] - 【ページ】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
最初のページ	メニューを選択すると最初のページを表示します。
前のページ	メニューを選択するたびに一つ前のページを表示します。
次のページ	メニューを選択するたびに一つ次のページを表示します。
最後のページ	メニューを選択すると最後のページを表示します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、ページの一部の機能を使用することができます。

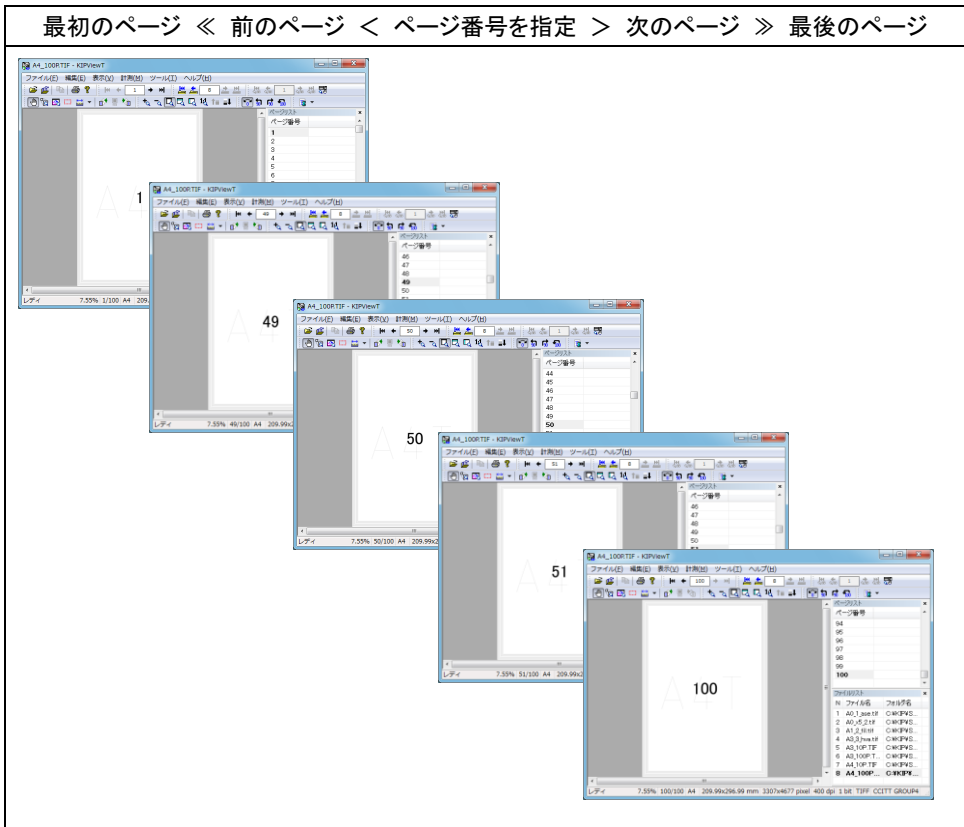


メニュー	動作
前のページを表示	メニューを選択するたびに一つ前のページを表示します。
次のページを表示	メニューを選択するたびに一つ前のページを表示します。

キーボードの操作でもページを切り替えることができます。

入力キー	動作
[Home]	キーを押すと最初のページを表示します。
[Page Up]	キーを押すたびに一つ前のページを表示します。
[Page Down]	キーを押すたびに一つ次のページを表示します。
[End]	キーを押すと最後のページを表示します。
[Enter]	<p>キーを押すたびに次のビューポイントを表示します。</p> <p>※ 最後のビューポイントを表示していた場合は、次のページを表示します。</p> <p>※ 最後のページを表示していた場合は、次のファイルを表示します。</p>
[Shift]+[Enter]	<p>キーを押すたびに前のビューポイントを表示します。</p> <p>※ 最初のビューポイントを表示していた場合は、前のページを表示します。</p> <p>※ 最初のページを表示していた場合は、前のファイルを表示します。</p>

■ ページの切り替え 動作イメージ



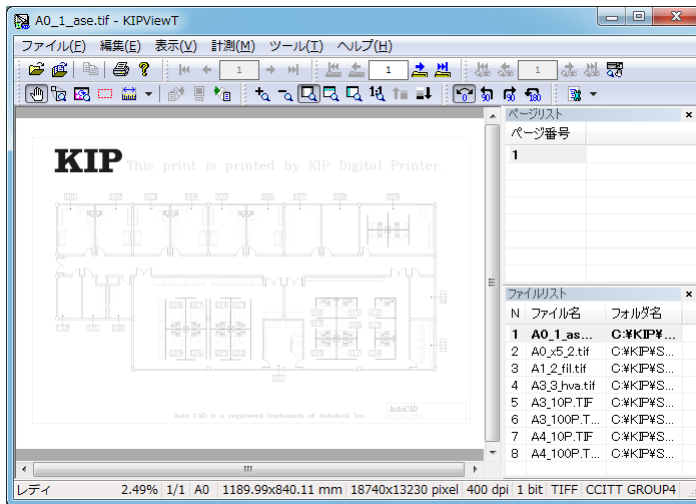
以上でページを切り替えて表示する手順については終了です。

4.3.10 【表示】ファイルの切り替え

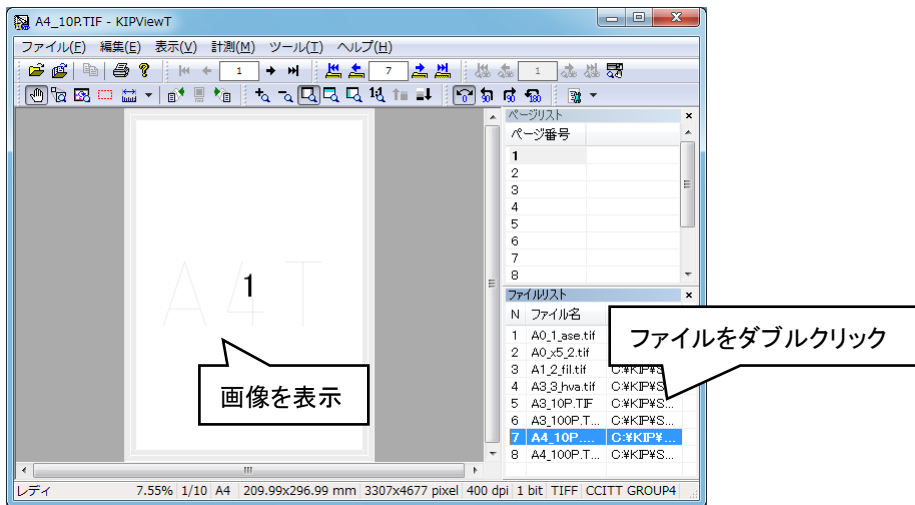
ここでは、ファイルリストに複数のファイルを表示している場合にファイルを切り替えて表示する手順について説明します。

1. ファイルを読み込みます。

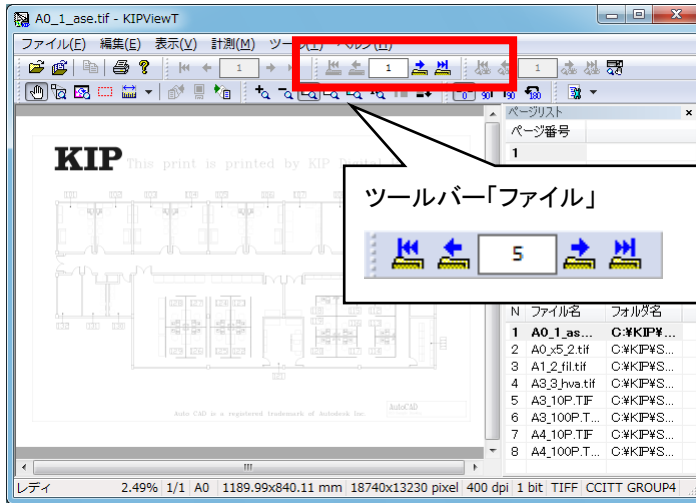
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。








2. 「ファイルリスト」のファイルをダブルクリックします。
ダブルクリックしたファイルの画像を表示します。



また、ツールバー「ファイル」を操作して、目的のファイルを表示することもできます。

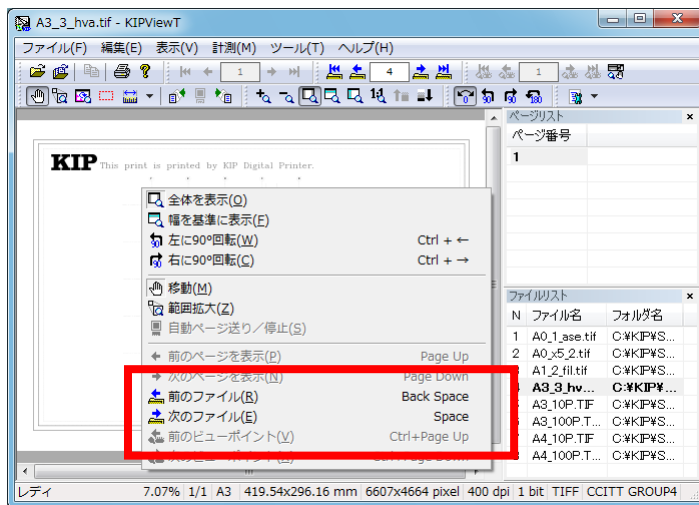


ボタン		動作
	最初のファイル	ボタンを押すと最初のファイルを表示します。
	前のファイル	ボタンを押すたびに一つ前のファイルを表示します。
	番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したファイルを表示します。
	次のファイル	ボタンを押すたびに一つ次のファイルを表示します。
	最後のファイル	ボタンを押すと最後のファイルを表示します。

メニューバーから【表示(V)】 - 【ファイル】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
最初のファイル	メニューを選択すると最初のファイルを表示します。
前のファイル	メニューを選択するたびに一つ前のファイルを表示します。
次のファイル	メニューを選択するたびに一つ次のファイルを表示します。
最後のファイル	メニューを選択すると最後のファイルを表示します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、ページの一部の機能を使用することができます。

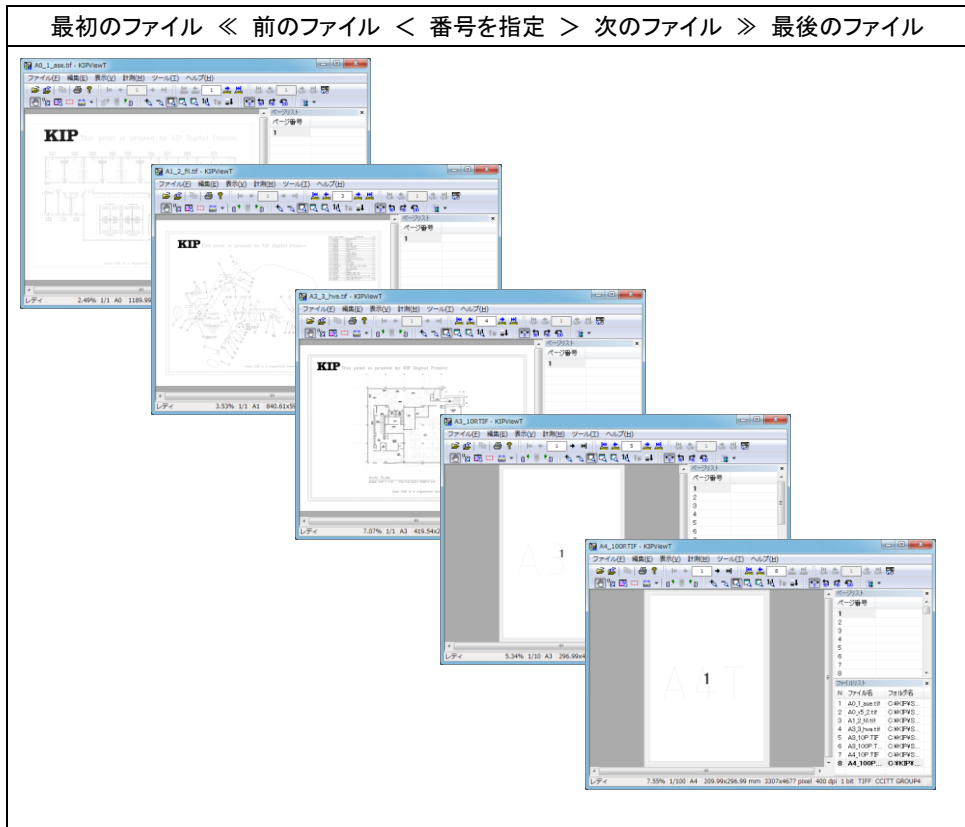


メニュー	動作
前のファイル	メニューを選択するたびに一つ前のファイルを表示します。
次のファイル	メニューを選択するたびに一つ次のファイルを表示します。

キーボードの操作でもファイルを切り替えることができます。

キーボード操作	動作
[Ctrl]+[Home]	キーを押すと最初のファイルを表示します。
[Back Space] [Shift]+[Space]	キーを押すたびに一つ前のファイルを表示します。
[Space]	キーを押すたびに一つ次のファイルを表示します。
[Ctrl]+[End]	キーを押すと最後のファイルを表示します。
[Enter]	キーを押すたびに次のビューポイントを表示します。 ※ 最後のビューポイントを表示していた場合は、次のページを表示します。 ※ 最後のページを表示していた場合は、次のファイルを表示します。
[Shift]+[Enter]	キーを押すたびに前のビューポイントを表示します。 ※ 最初のビューポイントを表示していた場合は、前のページを表示します。 ※ 最初のページを表示していた場合は、前のファイルを表示します。

■ファイルの切り替え 動作イメージ



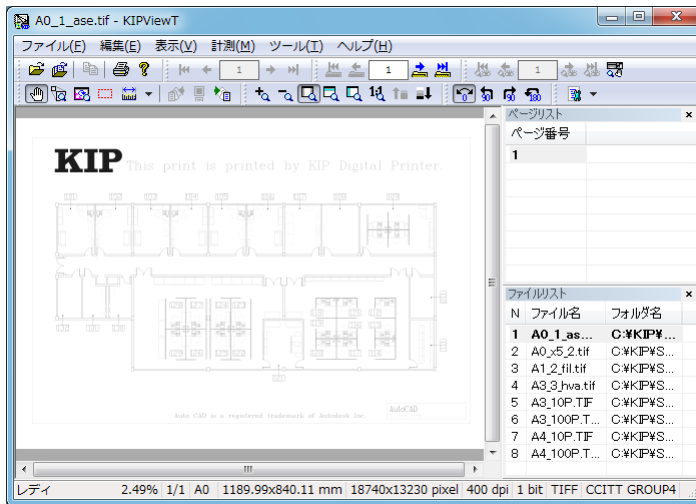
以上でファイルを切り替えて表示する手順については終了です。

4.3.11 【表示】自動ページ送り

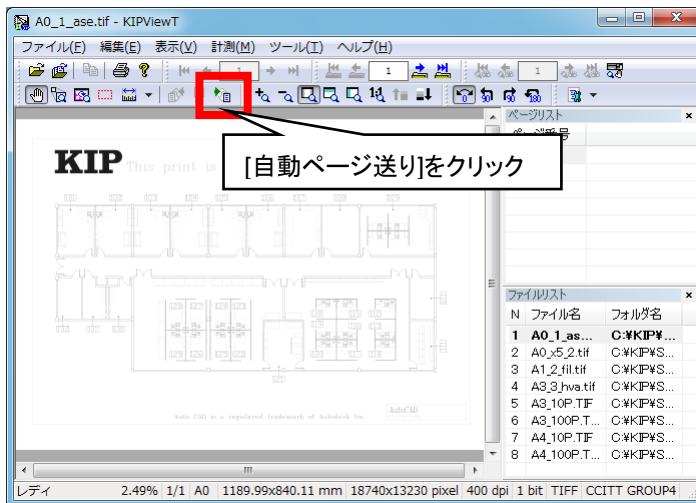
ここでは、自動ページ送り機能で表示するビューポイントやページ、ファイルを切り替えて表示する手順について説明します。

1. ファイルを読み込みます。

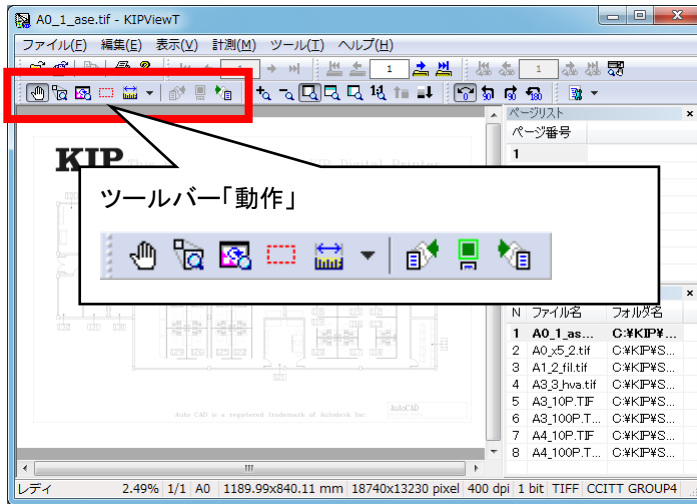
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバーの[自動ページ送り]ボタンをクリックします。
ボタンは押下した状態になります。



また、ツールバー「動作」を操作して、逆順の自動ページ送りや停止をすることもできます。

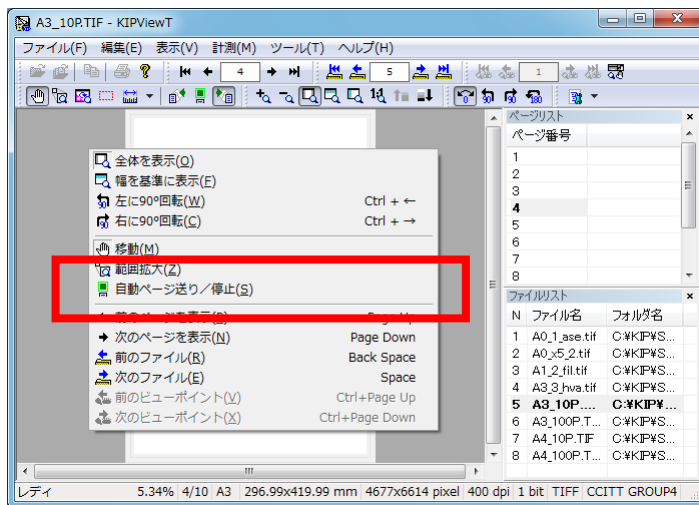


ボタン		動作
	自動ページ送り／逆順	自動で前のビューポイント／ページ／ファイルを表示します。
	自動ページ送り／停止	自動ページ送りを停止します。
	自動ページ送り	自動で次のビューポイント／ページ／ファイルを表示します。

メニューバーから【表示(V)】 - 【自動ページ送り】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
自動ページ送り	メニューを選択すると自動で次のビューポイント／ページ／ファイルを表示します。 もう一度選択すると、停止します。
自動ページ送り／逆順	メニューを選択すると自動で前のビューポイント／ページ／ファイルを表示します。 もう一度選択すると、停止します。
自動ページ送り／停止	メニューを選択すると自動ページ送りを停止します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、自動ページ送りを停止することができます。

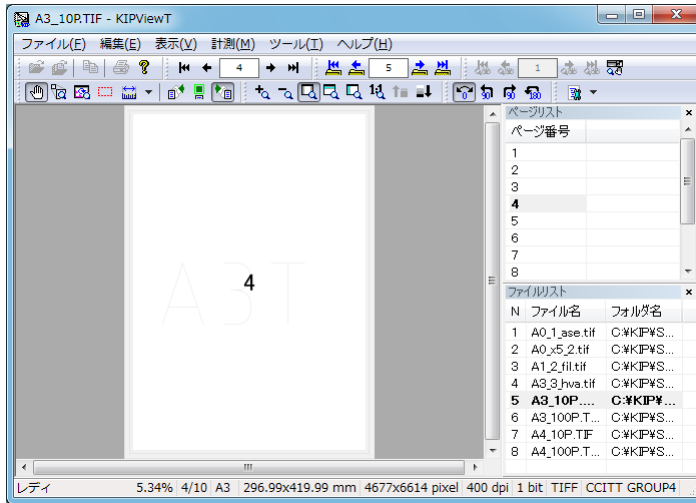


メニュー	動作
自動ページ送り／停止	メニューを選択すると自動ページ送りを停止します。

キーボードの操作でも自動ページ送りを開始／停止することができます。

キーボード操作	動作
[F5]	キーを押すたびに自動ページ送りを開始／停止します。
[Shift]+[F5]	キーを押すたびに逆順の自動ページ送りを開始／停止します。

3. 設定した時間が経過すると、自動的にビューポイントやページ、ファイルを切り替えて画面に表示します。



機能	動作
自動ページ送り	<p>次の「ビューポイント／ページ／ファイル」を表示します。</p> <p>最後のビューポイントを表示していた場合は、次のページを表示します。</p> <p>最後のページを表示していた場合は、次のファイルを表示します。</p> <p>最後のファイルの最後のページで、最後のビューポイントを表示した場合は、自動ページ送りが停止します。</p>
自動ページ送り／逆順	<p>前の「ビューポイント／ページ／ファイル」を表示します。</p> <p>最初のビューポイントを表示していた場合は、前のページを表示します。</p> <p>最初のページを表示していた場合は、前のファイルを表示します。</p> <p>最初のファイルの最初のページで、最初のビューポイントを表示した場合は、自動ページ送りが停止します。</p>

以上で自動ページ送りの手順については終了です。

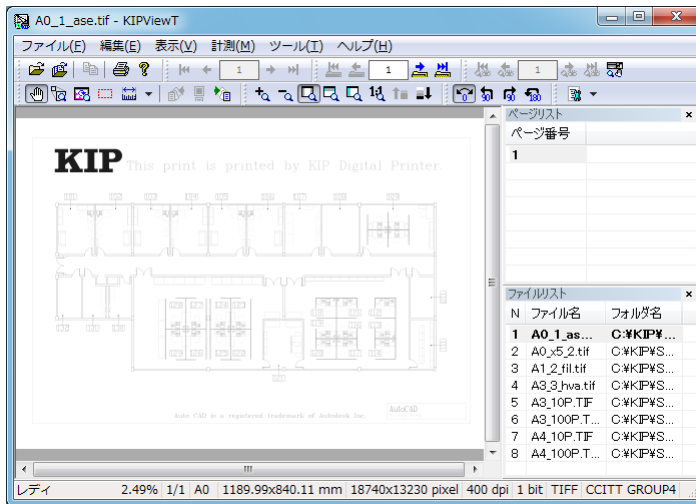
4.3.12 【印刷】ファイルを印刷する

ここでは、読み込んだファイルを印刷する手順について説明します。

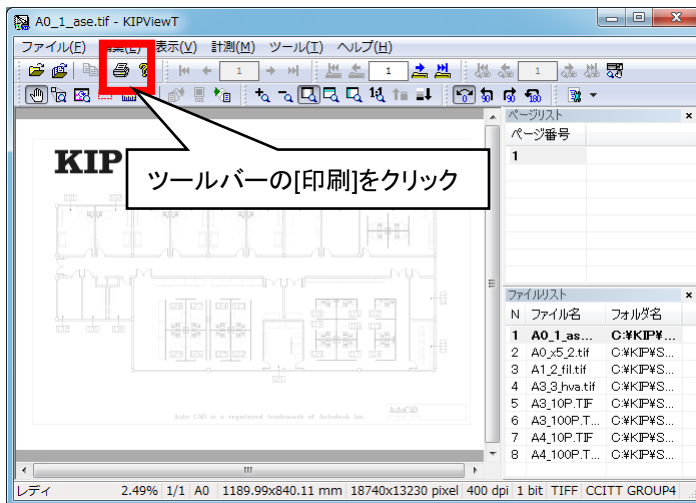
印刷には Windows プリンタドライバを使用します。複数のファイルを連続で印刷することもできます。

1. ファイルを読み込みます。

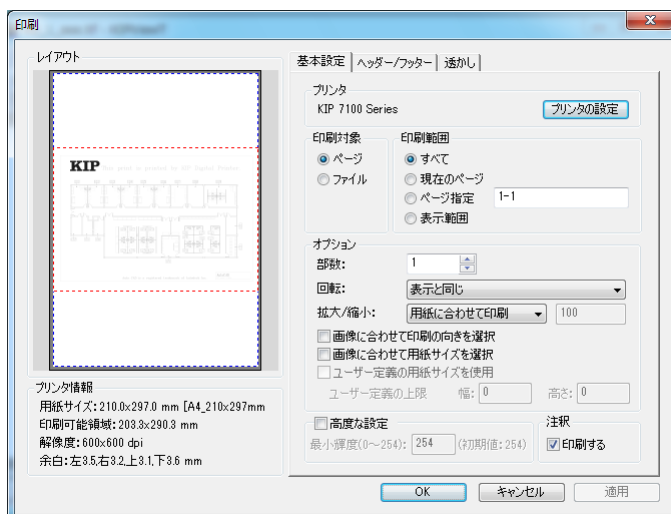
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバーの[印刷]ボタンをクリックします。



3. 「印刷」画面を表示しますので、印刷の設定を行います。
設定に関する詳細は、後述の 3-a～3-d を参照してください。



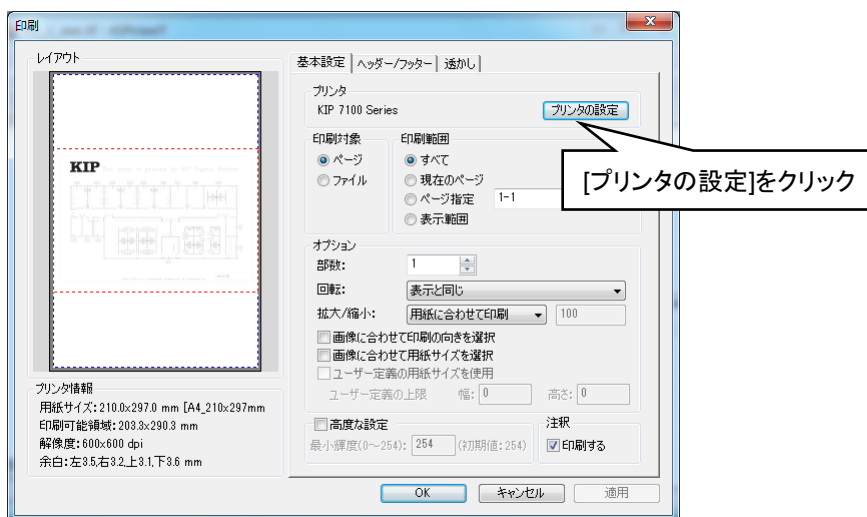
■画面の説明

画面	機能
レイアウト	印刷結果のプレビューを表示します。 青点線は「印刷可能領域」を意味します。 赤点線は「印刷イメージの領域」を意味します。 「プリンタ情報」「オプション」の設定に従って、自動的に更新します。 ※ 印刷の設定によっては、赤点線が「印刷可能領域」の外になって、表示されない場合があります。
プリンタ情報	現在設定しているプリンタの情報を表示します。 用紙サイズ(幅,高さ,用紙名,向き)、印刷可能領域(幅,高さ)、解像度(幅,高さ)、余白(上下左右)を表示します。 詳細は、後述の 3-a を参照してください。
印刷対象	印刷範囲で指定する対象を設定します。 詳細は、後述の 3-b を参照してください。
印刷範囲	印刷するページまたはファイルの範囲を設定します。 詳細は、後述の 3-c,3-d を参照してください。
オプション	印刷のオプションを設定します。 部数、回転角度、拡大／縮小、印刷の向きを、用紙サイズを設定します。 詳細は、後述の 3-e を参照してください。
高度な設定	通常は設定を変更しません。
注釈	オプションライセンスの編集機能で追加した注釈の設定を行いません。

3-a 「プリンタ情報」を変更する。

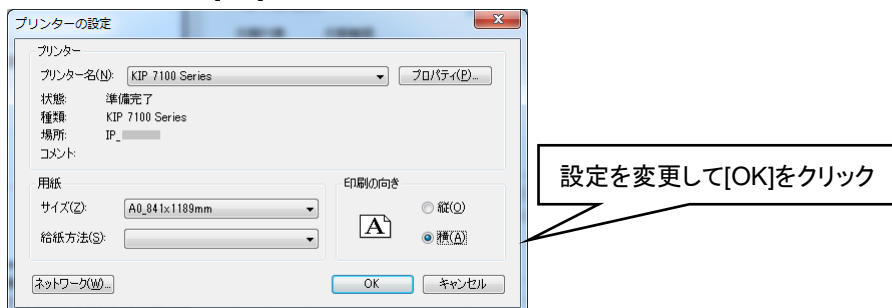
用紙のサイズや印刷の向き、プリンタドライバの設定などを変更します。

[プリンタの設定]ボタンをクリックします。

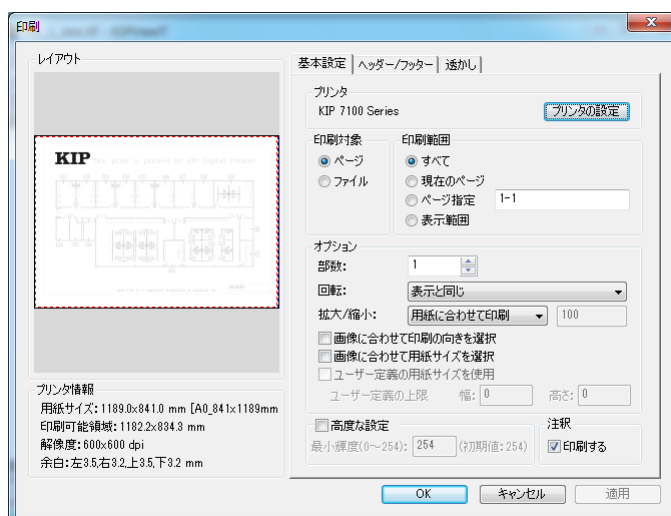


「プリンタの設定」画面を表示しますので、必要に応じて設定を変更します。

変更が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

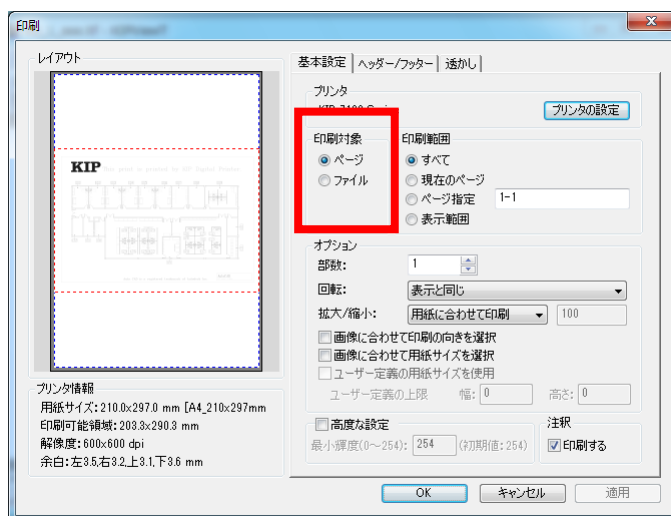


プリンタ情報は、設定した内容で更新されます。



3-b 「印刷対象」を変更する。

印刷範囲で指定する対象をラジオボタンから選択します。

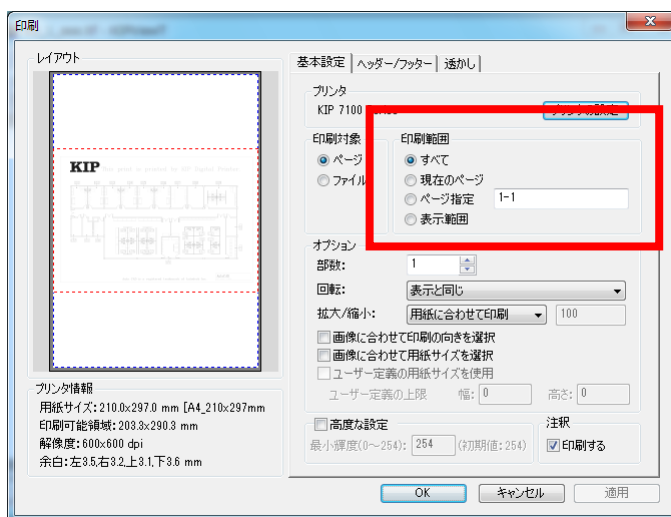


名称	機能
ページ	印刷範囲で指定する対象をページにします。
ファイル	印刷範囲で指定する対象をファイルにします。 ※ 複数のファイルをまとめて印刷する場合に選択します。メニューから【連続印刷】を選択した場合は初期値になります。

3-c 「印刷範囲」を変更する。

■印刷対象で「ページ」を選択した場合

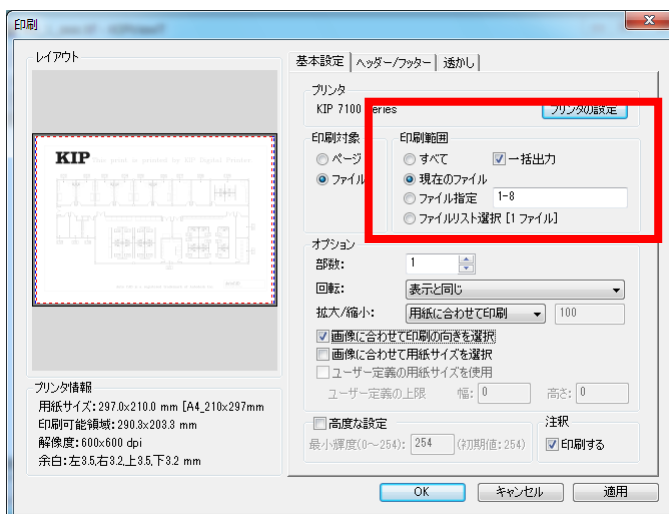
印刷するページの範囲をラジオボタンから選択します。



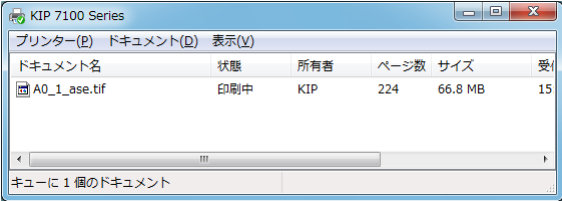

名称	機能	
すべて	現在開いているファイルのすべてのページを印刷します。 ※ 用紙サイズや向きの異なるページを含んでいる場合は、それぞれのページがオプションの設定に従って印刷されます。	
現在のページ	現在表示しているページのみを印刷します。	
ページ指定	現在開いているファイルの指定したページを印刷します。 カンマ","とハイフン"-でページ番号を指定します。 例: 1,3-5,10 ⇒ 1,3,4,5,10 ページを印刷します。	
表示範囲または 選択範囲	表示範囲	「表示エリア」に表示している範囲の画像を切り出して印刷します。
	選択範囲	選択した範囲の画像を切り出して印刷します。 ※ 動作が「範囲選択」で、範囲を選択した状態の場合に有効です。

■ 印刷対象で「ファイル」を選択した場合

印刷するファイルの範囲をラジオボタンから選択します。

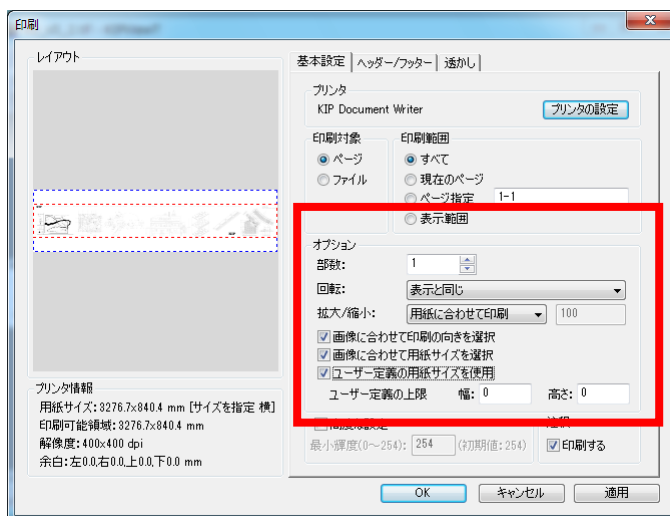


名称	機能
すべて	「ファイルリスト」に表示しているすべてのファイルを印刷します。 ※ 用紙サイズや向きの異なるページを含んでいる場合は、それぞれのページがオプションの設定に従って印刷されます。
現在のファイル	現在表示しているファイルのみを印刷します。
ファイル指定	「ファイルリスト」の指定した番号のファイルを印刷します。 カンマ","とハイフン"-でページ番号を指定します。 例:1,3-5,10 ⇒ 1,3,4,5,10 ページを印刷します。
ファイルリスト選択	「ファイルリスト」で選択しているファイルを印刷します。 また、選択しているファイルの数を表示します。 ※ ファイルリストのメニューで【連続印刷】を選択した場合、初期値になります。

名称	機能
一括出力	<p>プリンタのキューへのスプール方法を選択します。</p> <p>チェックを付けると、対象となったすべてのファイルを一括で印刷します。プリンタのキューに表示するドキュメント名は1つです。</p>  <p>チェックを外すと、ファイル単位に印刷します。プリンタのキューに表示するドキュメント名は複数です。</p> 

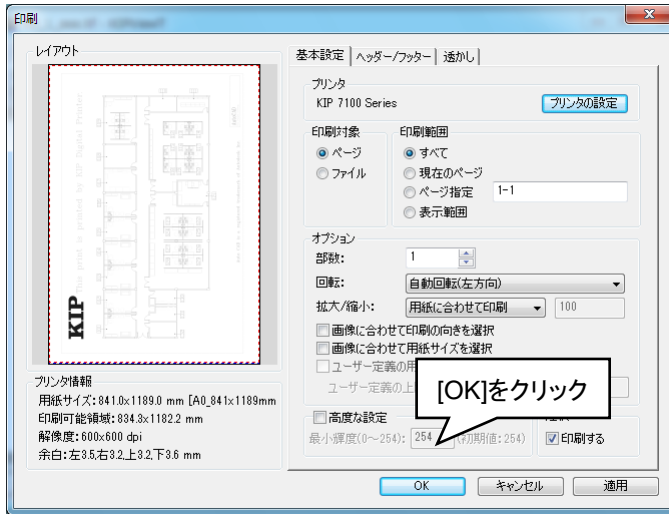
3-e 「オプション」を変更する。

部数、回転角度、拡大／縮小を設定します。

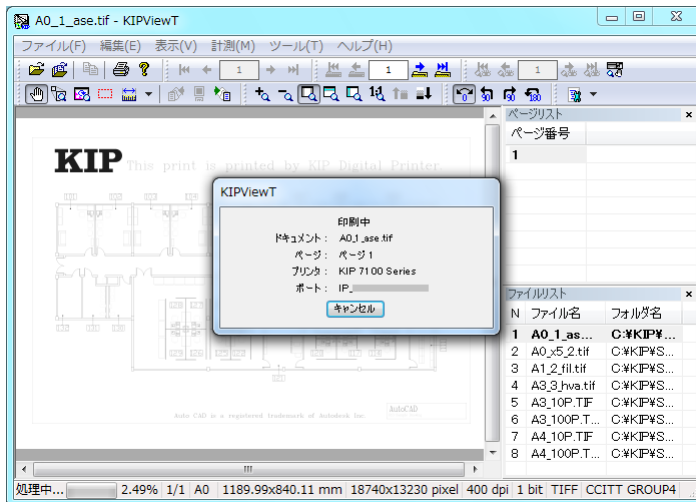


名称	機能	
部数	印刷する部数(1~32767)を設定します。	
回転	画像の回転角度を設定します。	
	表示と同じ	表示エリアと同じ回転角度で印刷
	自動回転(左方向)	用紙の向きに合わせて回転角度を決定 0° ,左 90° のどちらかになります。
	自動回転(右方向)	用紙の向きに合わせて回転角度を決定 0° ,右 90° のどちらかになります。
	0°	0° の回転角度で印刷
	左 90°	左 90° の回転角度で印刷
	180°	180° の回転角度で印刷
	右 90°	右 90° の回転角度で印刷
拡大／縮小	画像の拡大と縮小の動作を設定します。	
	用紙に合わせて印刷	プリンタ情報の「印刷可能領域」に納まるように倍率を調整して印刷
	原寸大で印刷	プリンタ情報の解像度とファイルの解像度から、原寸の大きさを印刷されるように倍率を調整して印刷
	ピクセルに合わせて印刷	倍率の調整は行わず、プリンタの 1 単位と画像の 1 ピクセルが 1:1 となるように印刷 例: 400dpi のファイルを 400dpi のプリンタで印刷した場合は「原寸大で印刷」を実行した結果と同じになります。
	倍率を指定して印刷	原寸の大きさに対する倍率を指定して印刷
画像に合わせて印刷の向きを選択	チェックを付けると、画像の向きに合わせてプリンタの設定の向き(縦、横)を選択します。 チェックを外すと、[プリンタの設定]で指定した印刷の向きを使用します。	
画像に合わせて用紙サイズを選択	チェックを付けると、画像のサイズに合わせてプリンタの用紙サイズを選択します。 チェックを外すと、[プリンタの設定]で指定した用紙サイズを使用します。	
ユーザー定義の用紙サイズを使用	チェックを付けると、画像のサイズに合う用紙サイズが見つからなかった場合に、ユーザー定義の用紙サイズを使用します。 ※ プリンタがユーザー定義の用紙(DMPAPER_USER)をサポートしている必要があります。	
ユーザー定義の上限:幅、高さ	ユーザー定義の用紙で有効範囲を超えないように用紙サイズを制限する設定です。	

4. 印刷の設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。



5. 「印刷中」の画面が閉じるまで待機します。



「右 90°」や「左 90°」、「自動回転」などで画像の回転処理が発生した場合、用紙サイズの面積に応じて処理に時間がかかる場合があります。

また、使用するプリンタドライバによっては、用紙サイズが大きくなるに従って「印刷中」の画面が閉じるまで時間がかかる場合があります。

6. プリンタからの印刷結果を確認します。

以上でファイルを印刷する手順については終了です。

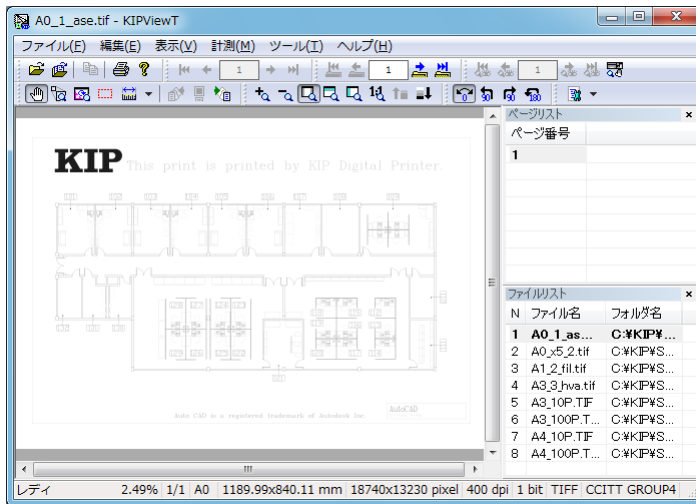
4.3.13 【編集】ファイル名の変更

ここでは、ファイル名を変更する手順について説明します。

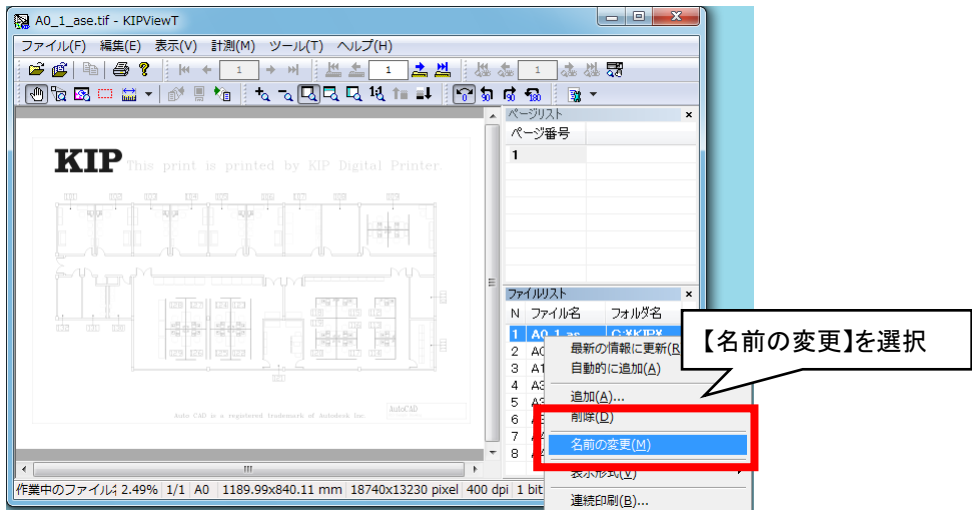
ファイルリストを操作することで、ファイル名を変更することができます。

1. ファイルを読み込みます。

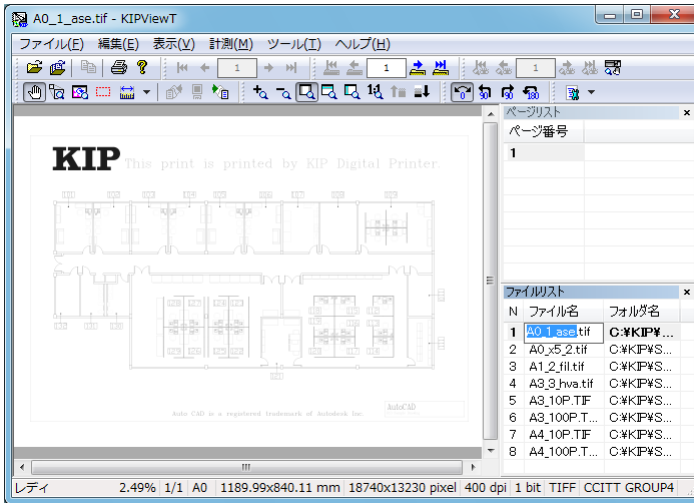
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. 「ファイルリスト」画面の名前を変更するファイル名の上でマウスの右ボタンをクリックします。メニューを表示しますので、【名前の変更】を選択します。

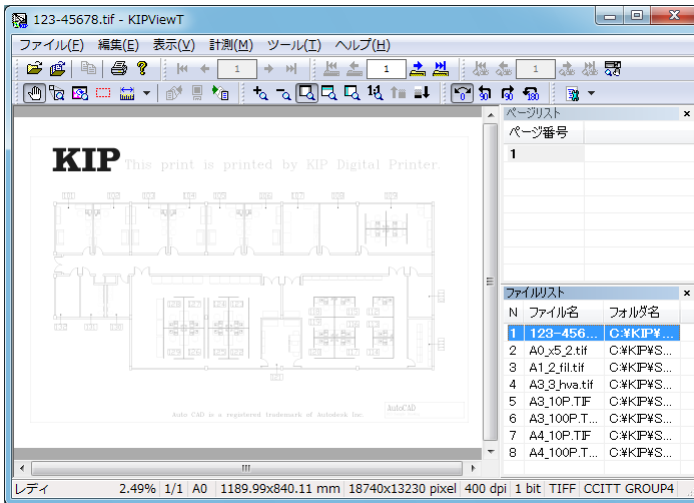


3. ファイル名が編集可能な状態になりますので、新しいファイル名を入力します。



Enter キーを押すか、編集中のファイル名以外の場所をクリックすると、ファイル名を更新します。

入力した内容をキャンセルする場合は、ESC キーを押します。



ファイル名に拡張子を入力しなかった場合は、自動的に変更前のファイル名と同じ拡張子を補完します。

以上でファイル名を変更する手順については終了です。

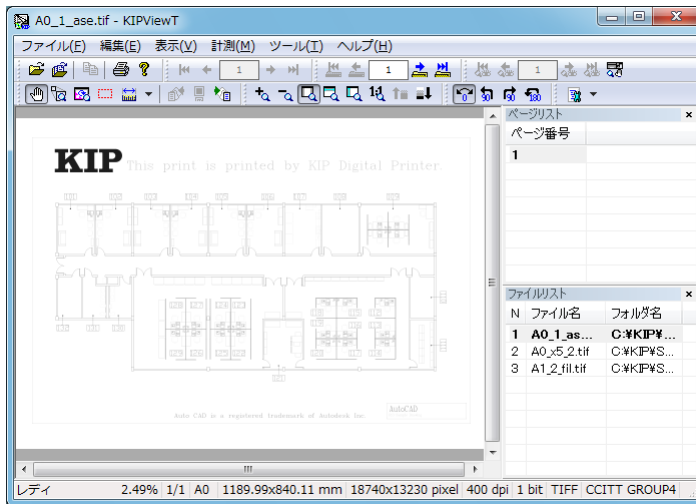
4.3.14 【編集】ファイルリストの編集

ここでは、ファイルリストを編集する手順について説明します。

ファイルリストは、作成した後から任意のファイルを「追加」「削除」することができます。

1. ファイルを読み込みます。

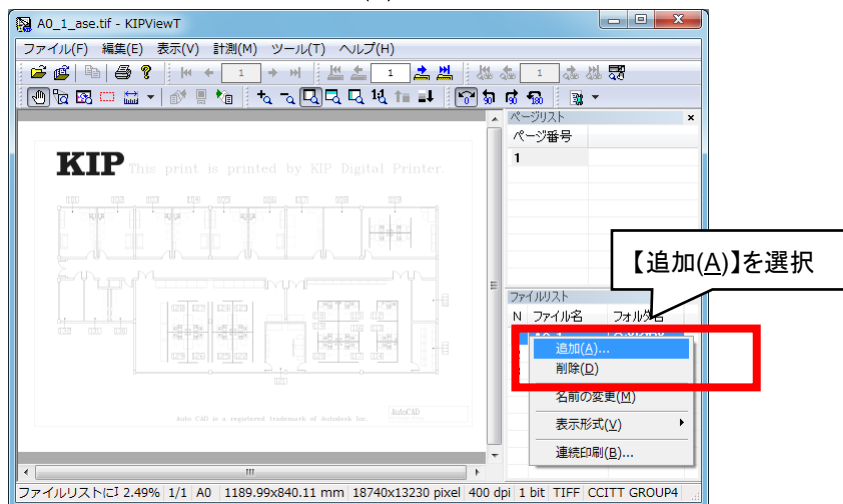
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ファイルリストに追加します。

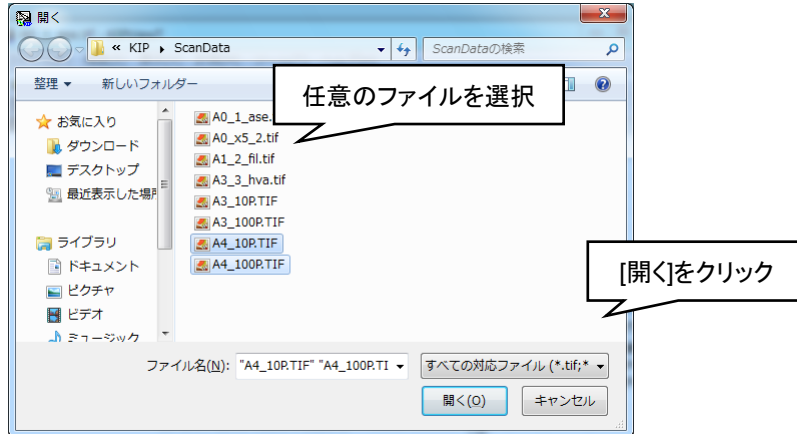
2-a ファイルリスト上でマウスの右ボタンをクリックします。

メニューを表示しますので、【追加(A)】を選択します。

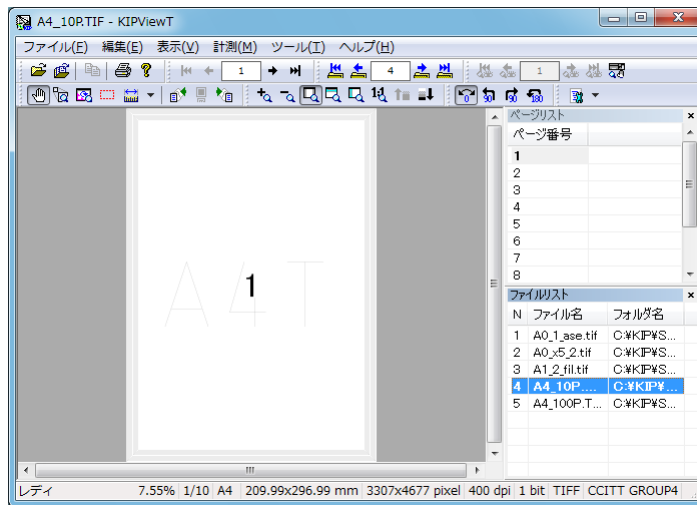


2-b 「ファイルを開く」画面を表示しますので、任意のファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。

動作は前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.3 【開く】リストファイルを使用して開く」と同じです。詳細については、そちらを参照してください。

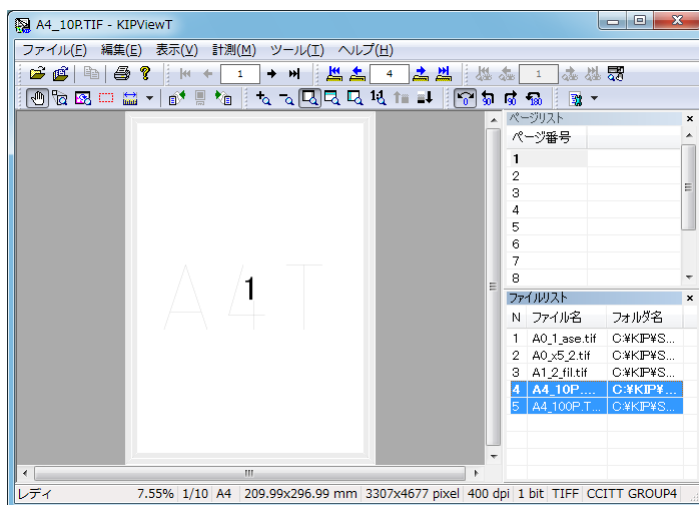


2-c 選択したファイルを「ファイルリスト」に追加して表示を更新します。
 選択した中で 1 番目のファイルを読み込みます。



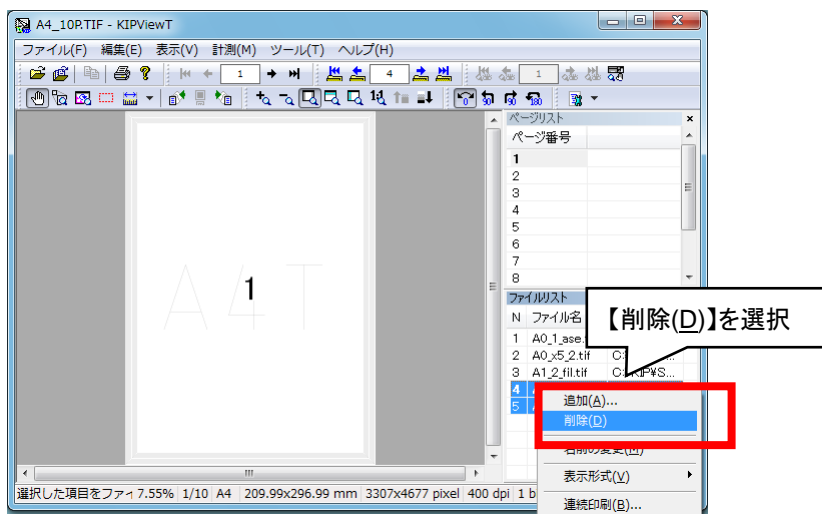
3. ファイルリストから削除します。

3-a ファイルリストから削除するファイルを選択します。

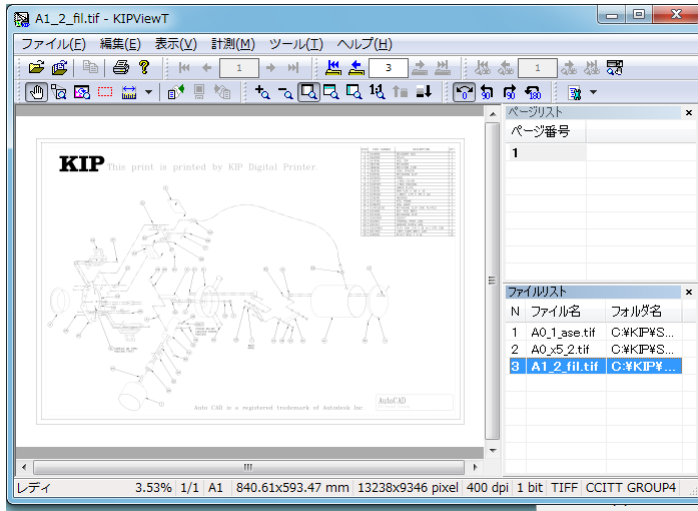


3-b 選択したファイルリスト上でマウスの右ボタンをクリックします。

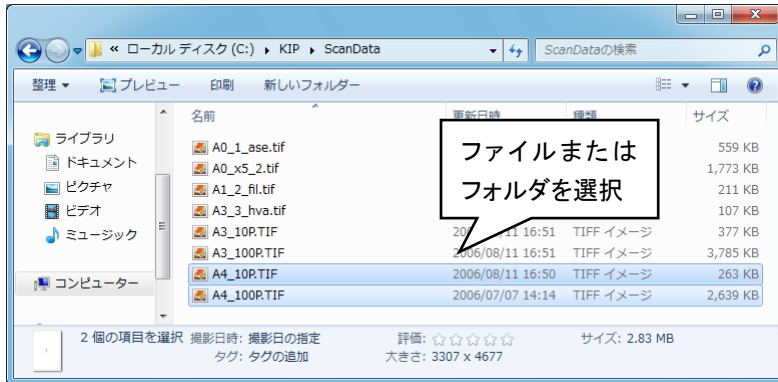
メニューを表示しますので、【削除(D)】を選択します。



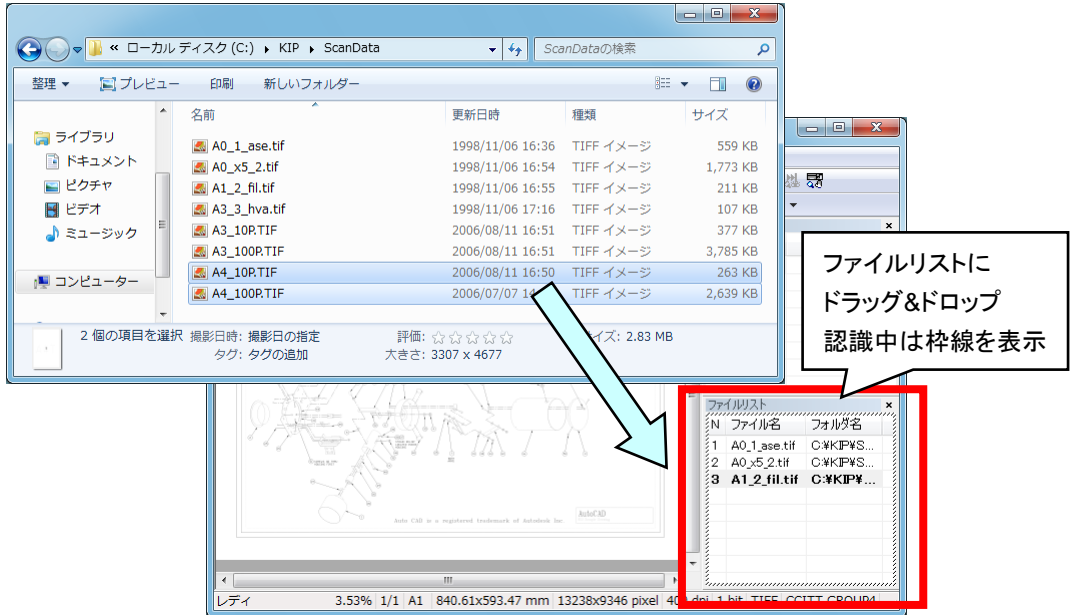
- 3-c ファイルリストから選択していたファイルを削除して、表示を更新します。
読み込んでいたファイルを削除した場合は、削除した後のファイルリストで一番近い番号のファイルを読み込みます。



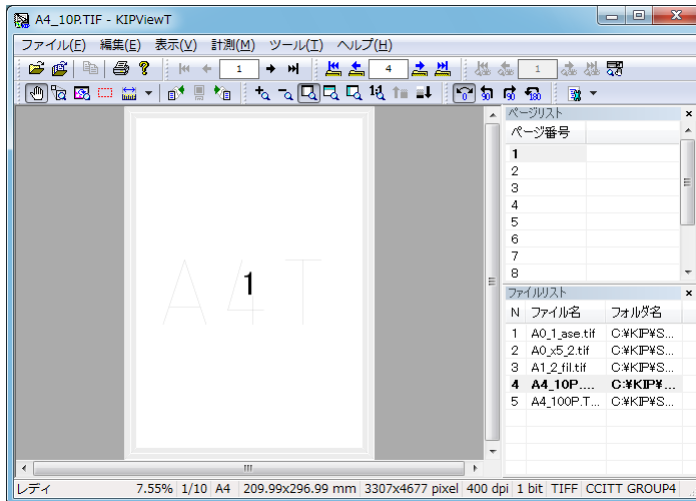
4. ドラッグ&ドロップでファイルリストに追加します。
4-a エクスプローラなどを操作して、目的のファイル、またはフォルダを選択します。



- 4-b 選択したファイルまたはフォルダをファイルリストにドラッグ&ドロップします。
ドロップ先がファイルリストと認識している場合は、ファイルリストに枠線を表示します。
動作は前述の「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」と同じです。詳細については、そちらを参照してください。



- 4-c ドロップしたファイルを「ファイルリスト」に追加して表示を更新します。
ドロップした中で1番目のファイルを読み込みます。



以上でファイルリストを編集する手順については終了です。

4.3.15 【編集】画像をコピー

ここでは、表示している画像をクリップボードへコピーする手順について説明します。

画像をクリップボードへコピーすることで、任意のアプリケーションに画像を張り付けることができます。

制限事項

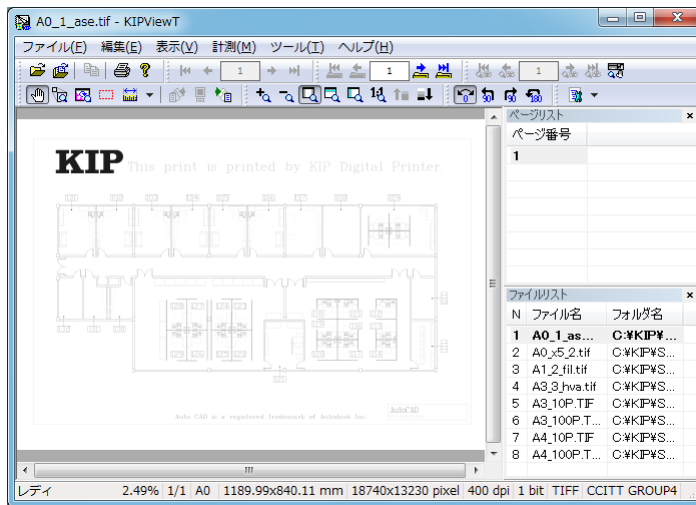
クリップボードにコピーされる画像は、画面に表示している画像の向き関わらず、回転なしの状態となります。

選択範囲の大きさや色数、解像度などの状況によってはメモリが確保できず、コピーに失敗する可能性があります。

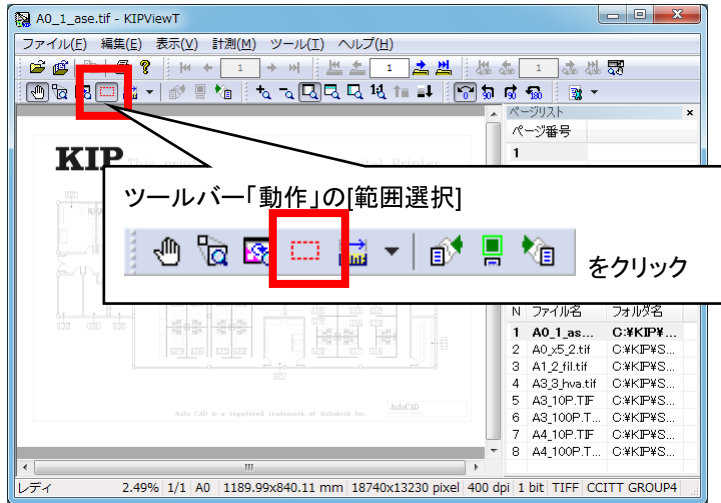
コピーに成功しても使用するアプリケーションによっては、貼り付けに失敗する可能性があります。

1. ファイルを読み込みます。

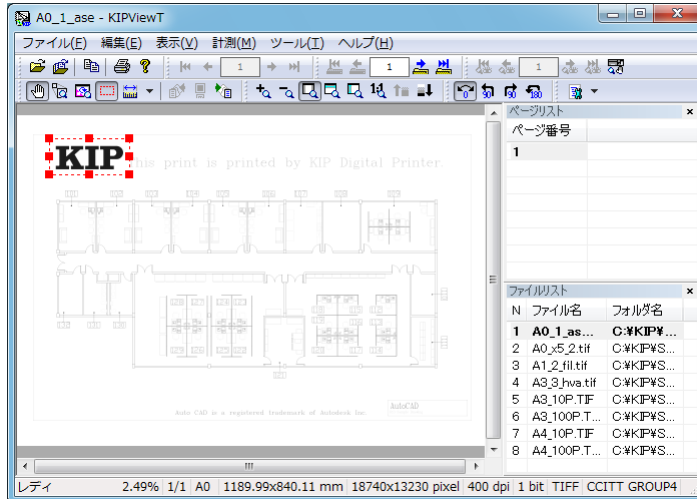
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「動作」の[範囲選択]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になります。

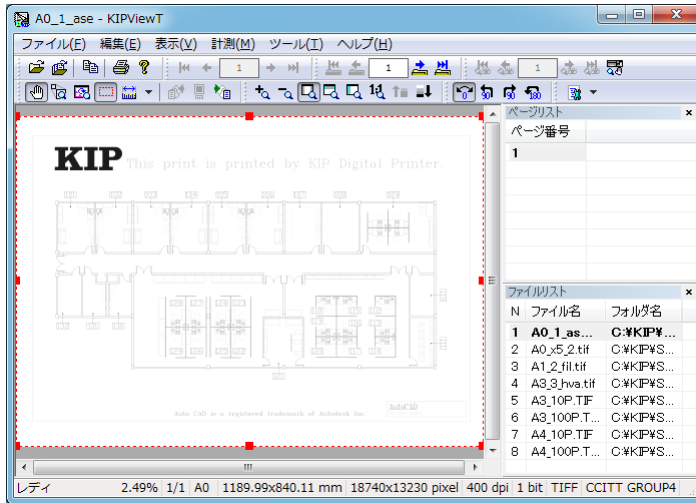


3. マウスを操作して、選択する範囲を決定します。
2 か所でマウスの左ボタンをクリックして、位置と範囲を決定します。
また、範囲選択の状態でも、マウスの左ボタンでドラッグすることで「移動」や「範囲拡大」をすることができます。

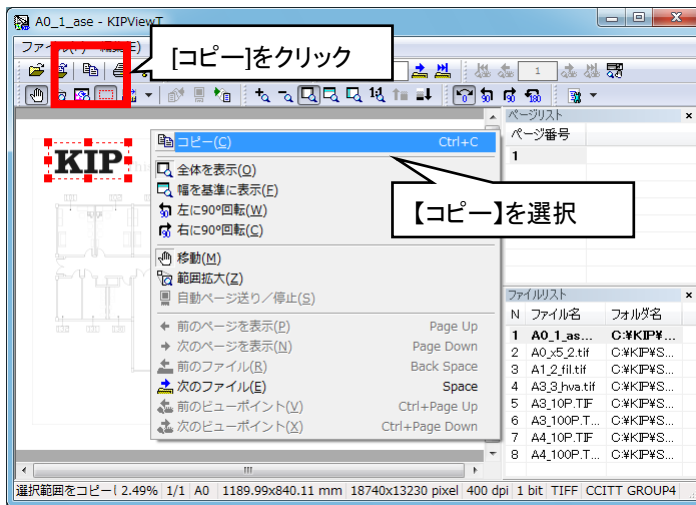


選択範囲の枠内やハンドル上でドラッグすると、選択した位置や大きさを変更することができます。

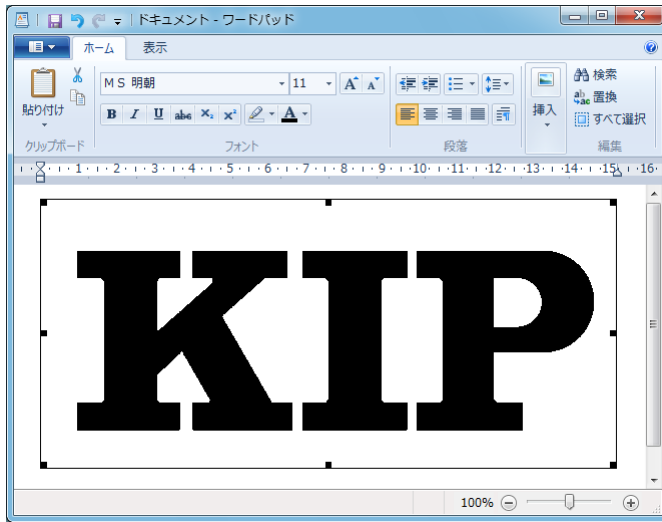
メニューバーから【編集(E)】 - 【すべて選択(A)】を選択すると、画像のすべての範囲を選択した状態になります。



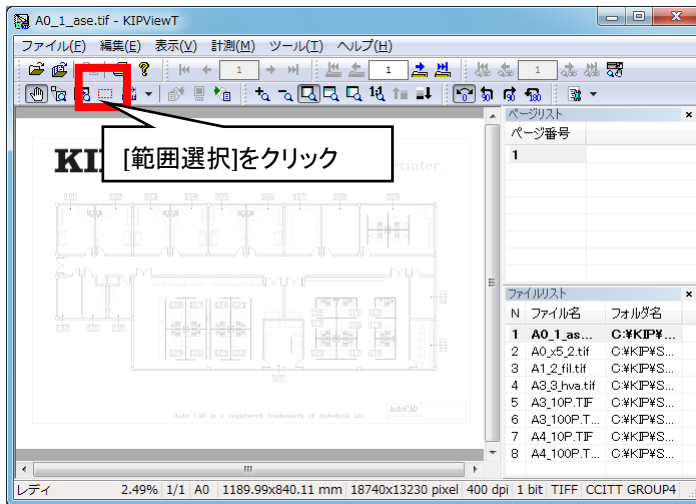
4. 選択範囲が決定したら、ツールバーの【コピー】ボタンをクリックします。
または、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、【コピー】を選択します。



5. 任意のアプリケーションへ貼り付けを行います。



6. コピーが終了したら、[範囲選択]ボタンをクリックして、押下した状態を解除します。



以上で画像をコピーする手順については終了です。

4.3.16 【応用】既定表示の機能を使用する

ここでは、既定表示の機能を使用する手順について説明します。

既定表示の機能を使用すると、画像の「用紙サイズ」と「向き」別に任意の「回転角度」「スケール」「位置」で表示を更新することができます。

下記のような場合に、既定表示の機能を使用すると、快適に画像を表示することができます。

- a. 管理の都合で、すべてのファイルが右に 90° 回転している。
- b. 作成元の違いで、同じ用紙サイズでも向き(縦置き,横置き)が一致しない。
- c. 作成する機器の都合で、特定の用紙サイズだけ向き(縦置き,横置き)が異なる。
- d. 画像のチェック作業で特定の場所だけを拡大して繰り返し表示したい。

1. 用紙サイズの設定を確認します。

メニューバーから【ツール】-【用紙サイズ編集】を選択して「用紙サイズ編集」画面を表示します。

必要に応じて設定を修正します。

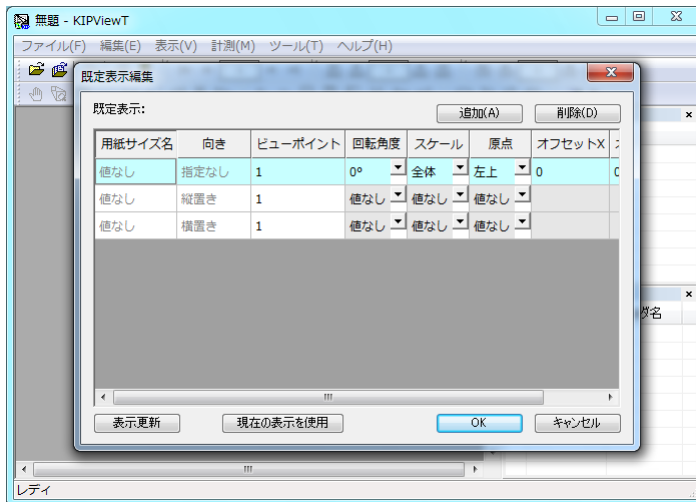
[OK]ボタンをクリックして、「用紙サイズ編集」画面を閉じます。



詳しくは「5.4 「用紙サイズ編集」画面の詳細」を参照してください。

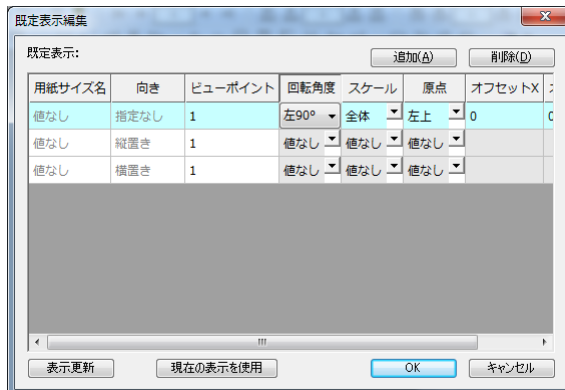
- メニューバーから【ツール】-【既定表示編集】を選択して「既定表示編集」画面を表示します。
目的に合わせて設定を修正します。

[OK]ボタンをクリックして、「既定表示編集」画面を閉じます。

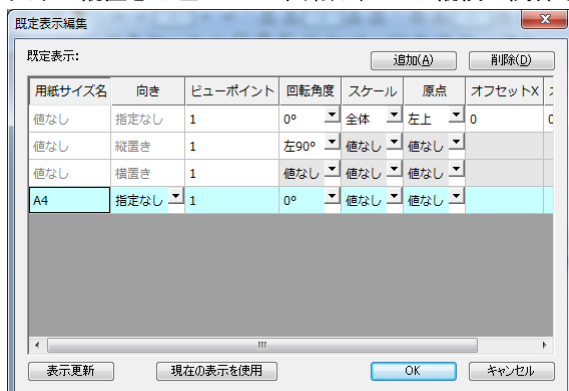


■ 設定例

- すべての画像を左に 90° 回転する。



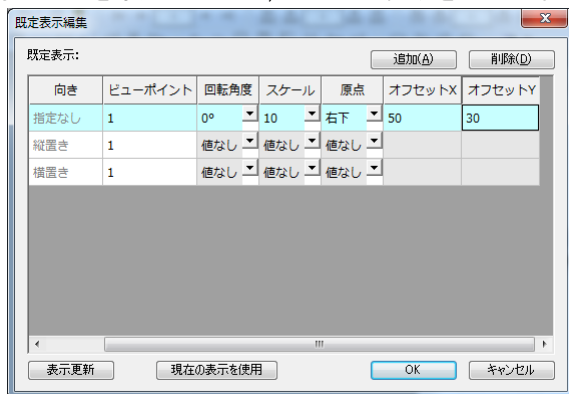
b.A4 以外の縦置きは左に 90° 回転し、A4 は縦横に関係なく回転しない。



c.A0 縦置きは左 90°、A1 横置き,A2 横置きは 180° 回転する。

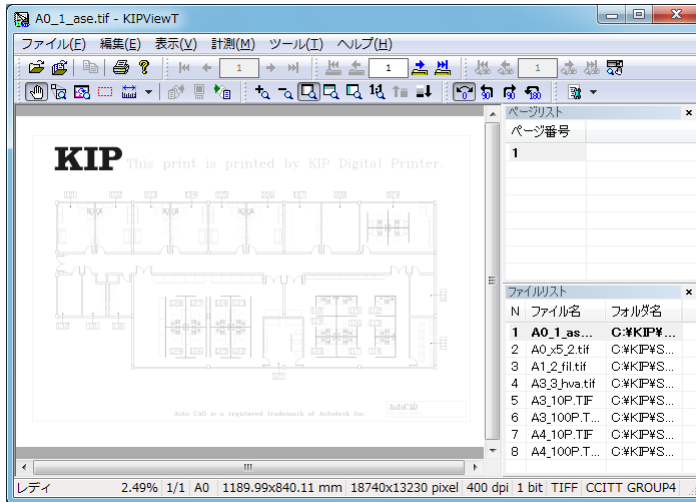


d.画像の右下を原点に左 5cm,上 3cm の箇所を 10%の倍率で拡大する。

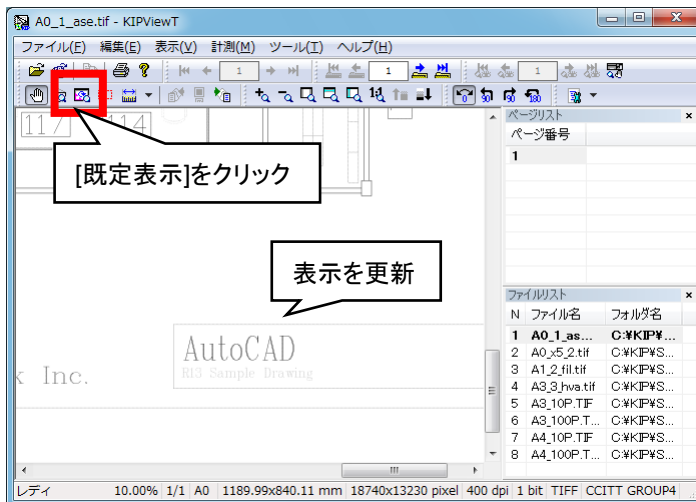


3. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



4. ツールバー「動作」の[既定表示]ボタンをクリックすると既定表示の設定に従って、画像の表示を更新します。



以上で既定表示の機能を使用する手順については終了です。

4.3.17 【応用】ビューポイントの機能を使用する

ここでは、ビューポイントの機能を使用する手順について説明します。

ビューポイントの機能を使用すると、1つの画像に対して「用紙サイズ」と「向き」別に複数の「回転角度」「スケール」「位置」で表示を更新することができます。また、ページ送りのように簡単な操作でビューポイントを切り替えることができます。

下記のような場合に、ビューポイントの機能を使用すると、快適に画像を表示することができます。

- a.全体像を確認してから、特定の場所を拡大して表示したい。
- b.画像のチェック作業で、同一画像内の複数の場所を拡大して繰り返し表示したい。

1. 用紙サイズの設定を確認します。

メニューバーから【ツール】-【用紙サイズ編集】を選択して「用紙サイズ編集」画面を表示します。

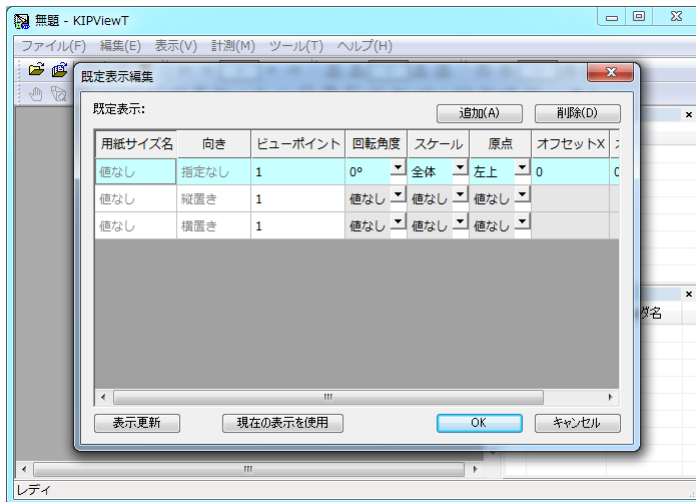
必要に応じて設定を修正します。

[OK]ボタンをクリックして、「用紙サイズ編集」画面を閉じます。



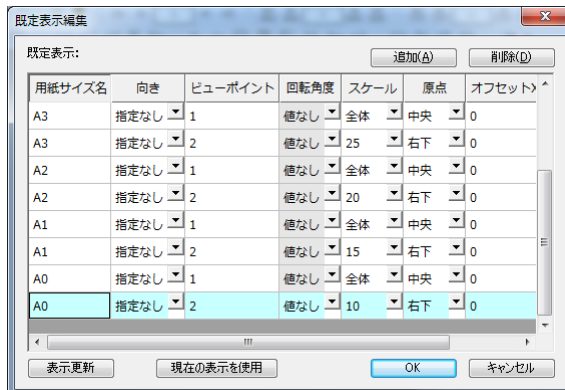
詳しくは「5.4 「用紙サイズ編集」画面の詳細」を参照してください。

2. メニューバーから【ツール】-【既定表示編集】を選択して「既定表示編集」画面を表示します。
目的に合わせて設定を修正します。
[OK]ボタンをクリックして、「既定表示編集」画面を閉じます。



■ 設定例

- a. 全体像を確認してから、特定の場所を拡大して表示したい。



設定例では、「用紙サイズ名」と「向き」が同じで、「スケール」が異なるものを2つずつ設定しています。

確認

対象とするすべての用紙サイズに対して、設定を行う必要があります。

- b. 画像のチェック作業で、同一画像内の複数の場所を拡大して繰り返し表示したい。



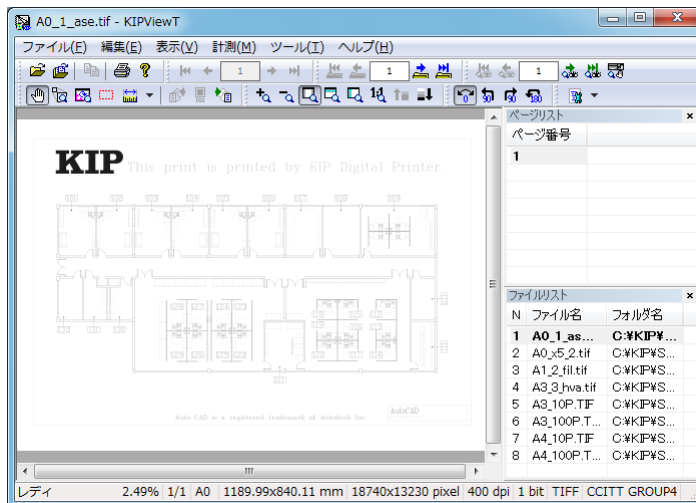
設定例では、「用紙サイズ名」と「向き」が同じで、「スケール」と「原点」が異なるものを4つずつ設定しています。「全体」→「右下拡大」→「左下拡大」→「右上拡大」の順番で、ビューポイントが切り替わります。

確認

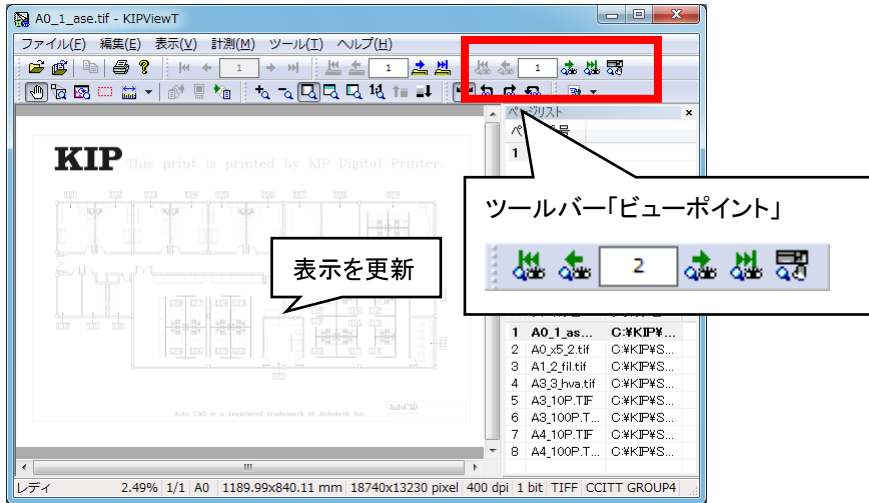
対象とするすべての用紙サイズに対して、設定を行う必要があります。

3. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



4. ツールバー「ビューポイント」を操作して、目的のビューポイントを表示します。既定表示の設定に従って、画像の表示を更新します。

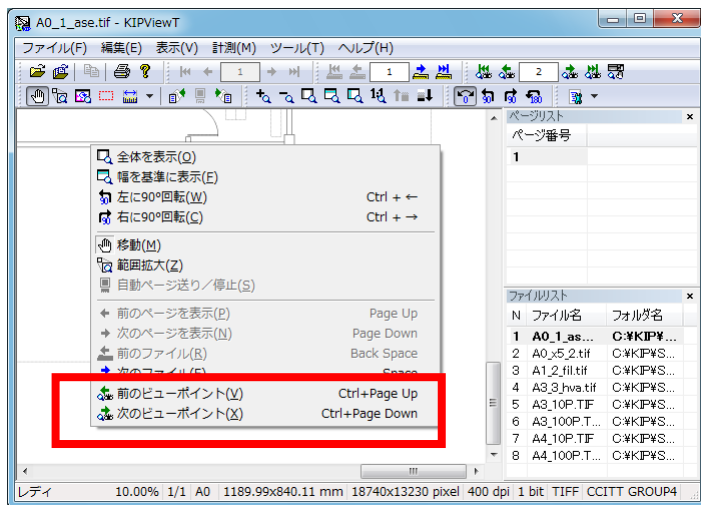


ボタン		動作
	最初のビューポイント	ボタンを押すと最初のビューポイントを表示します。
	前のビューポイント	ボタンを押すたびに一つ前のビューポイントを表示します。
	番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したビューポイントを表示します。
	次のビューポイント	ボタンを押すたびに一つ次のビューポイントを表示します。
	最後のビューポイント	ボタンを押すと最後のビューポイントを表示します。
	カーソルキーで切替	カーソルキーでビューポイントを切り替えの有効/無効を設定します。

メニューバーから【表示(V)】 - 【ビューポイント(W)】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
最初のビューポイント	メニューを選択すると最初のビューポイントを表示します。
前のビューポイント	メニューを選択するたびに一つ前のビューポイントを表示します。
次のビューポイント	メニューを選択するたびに一つ次のビューポイントを表示します。
最後のビューポイント	メニューを選択すると最後のビューポイントを表示します。
キー操作有効	カーソルキーでビューポイントを切り替えの有効/無効を設定します。

また、表示エリアを右クリックで表示するメニューから、ビューポイントの一部の機能を使用することができます。



メニュー	動作
前のビューポイント	メニューを選択するたびに一つ前のビューポイントを表示します。
次のビューポイント	メニューを選択するたびに一つ次のビューポイントを表示します。

キーボードの操作でもビューポイントを切り替えることができます。

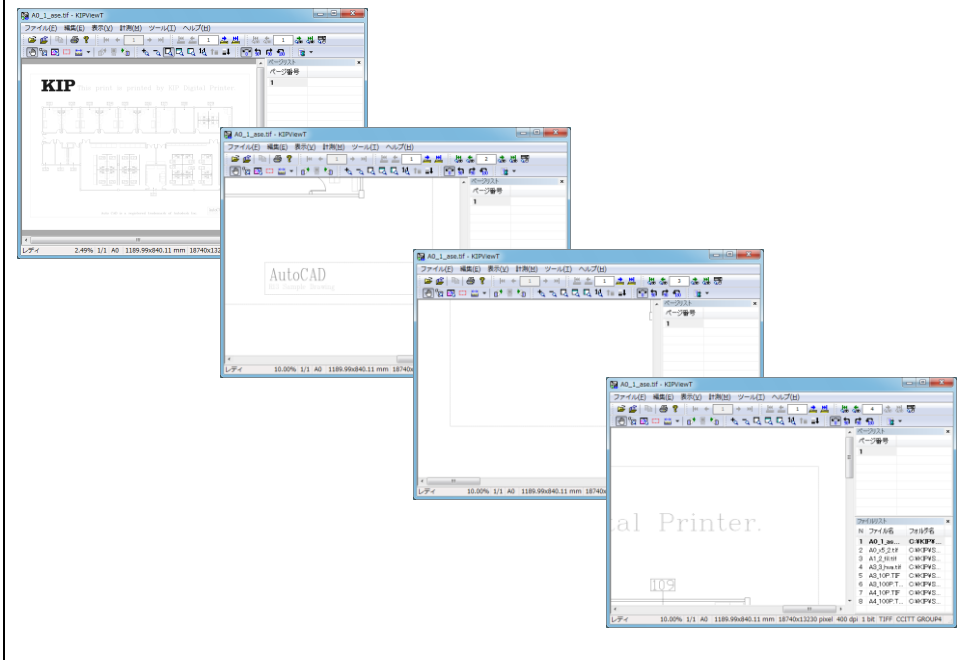
キーボード操作	動作
[Ctrl]+[Page Up]	キーを押すたびに一つ前のビューポイントを表示します。
[Ctrl]+[Page Down]	キーを押すたびに一つ次のビューポイントを表示します。
[←] (カーソルキー)	キーを押すたびに一つ前のビューポイントを表示します。 ※[キー操作有効]の設定が有効な場合のみ
[→] (カーソルキー)	キーを押すたびに一つ次のビューポイントを表示します。 ※[キー操作有効]の設定が有効な場合のみ
[Enter]	キーを押すたびに次のビューポイントを表示します。 ※最後のビューポイントを表示していた場合は、次のページを表示します。 ※最後のページを表示していた場合は、次のファイルを表示します。
[Shift]+[Enter]	キーを押すたびに前のビューポイントを表示します。 ※最初のビューポイントを表示していた場合は、前のページを表示します。 ※最初のページを表示していた場合は、前のファイルを表示します。

■ビューポイントの切り替え 動作イメージ

最初のビューポイント << 前のビューポイント

< 番号を指定 >

次のビューポイント >> 最後のビューポイント



以上でビューポイントの機能を使用する手順については終了です。

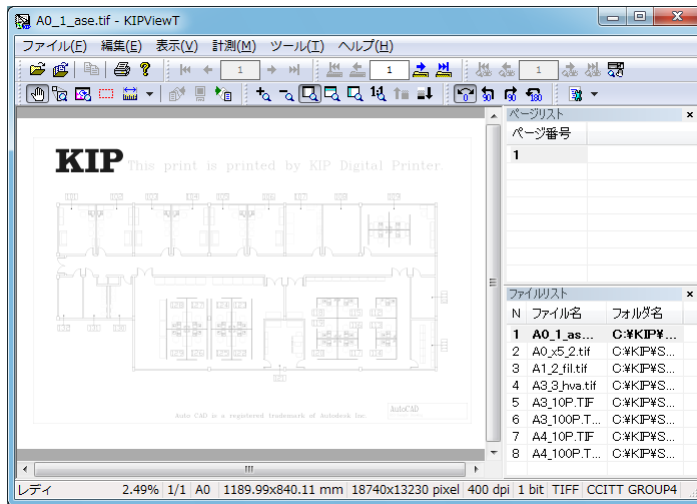
4.3.18 【応用】計測の機能を使用する

ここでは、計測の機能を使用する手順について説明します。

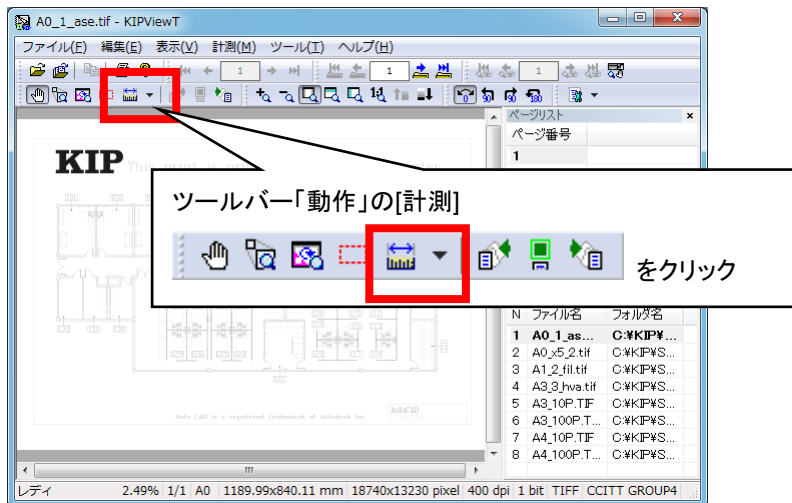
計測の機能を使用すると、画像上の長さや面積、角度などを測ることができます。

1. ファイルを読み込みます。

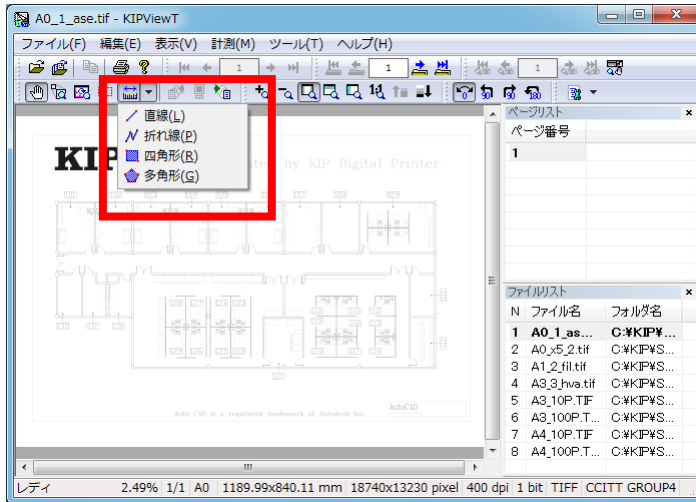
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「動作」の[計測]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になります。



KIPViewT の起動後、初めて[計測]ボタンをクリックした場合や、[▼]ボタンをクリックした場合は、計測メニューを表示します。計測メニューから計測方法を選択します。メニューバーから【計測(M)】を選択しても同様の動作になります。



各計測方法の動作は下表の通りです。

メニュー	動作
直線(L)	2点間の直線距離と角度、増分を計測します。
折れ線(P)	始点と終点の合計距離と直線距離、増分を計測します。
四角形(R)	四角形の面積と周囲の長さ、幅、高さを計測します。
多角形(G)	多角形の面積と周囲の長さ、幅、高さを計測します。

3. 「計測」画面を表示しますので、選択した計測方法に応じてマウスを操作して、計測点を決定します。

計測点は、マウスの左ボタンをクリックで決定します。

また、動作が計測の状態でも、マウスの左ボタンでドラッグすることで「移動」や「範囲拡大」をすることができます。

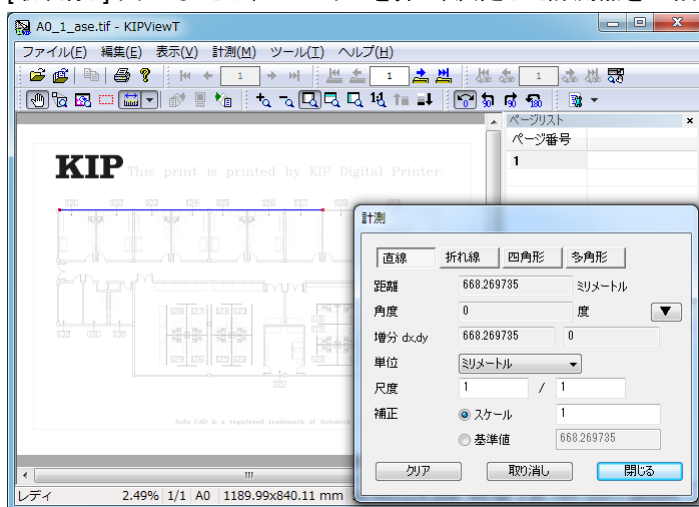
計測に関する詳細は、後述の 3-a~3-d を参照してください。



■画面の説明

名称	機能
[直線] [折れ線] [四角形] [多角形]	クリックした計測方法に切り替えます。 それまでに決定したすべての計測点は削除します。
項目 1	計測方法によって表示内容が異なります。 「距離」「合計距離」「面積」のいずれかを表示します。
項目 2	計測方法によって表示内容が異なります。 「角度」「距離」「周囲」のいずれかを表示します。
項目 3	計測方法によって表示内容が異なります。 「増分 dx,dy」「幅,高さ」のいずれかを表示します。
単位	表示する長さの単位を選択します。 「ピクセル」「ミリメートル」「センチメートル」「メートル」「インチ」「フィート」「ヤード」から選択します。
調整	計測結果の値を調整する場合に変更します。
スケール	1 を等倍とした、計測結果の倍率を指定します。 入力した値に応じて、計測結果を調整します。
基準値	スケールを"1"として計測した結果に対する基準値を指定します。 入力した値に応じて、スケールを更新します。 ※ 計測方法が[直線][折れ線]の場合のみ有効です。
[クリア]	決定したすべての計測点を削除します。
[取り消し]	決定した計測点を 1 段階戻します。
[閉じる]	計測の状態を解除します。

計測点が決定すると、その時点での計測結果を「計測」画面に表示します。
[取り消し]ボタンまたは、ESC キーを押と、決定した計測点を 1 段階戻すことができます。



3-a 直線

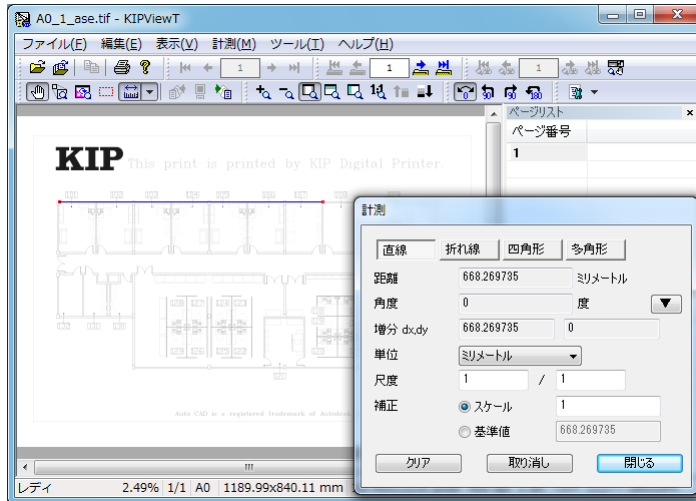
2 点間の直線距離と角度、増分を計測します。



■ 画面の説明

名称	機能
距離	2 点間の直線距離を表示します。
角度	左から右方向の水平を 0 度とした直線の角度を表示します。 角度の値は、反時計方向に増加します。
増分 dx,dy	2 点間の X 軸、Y 軸の増分を表示します。

2 か所の計測点を指定します。



2 か所の計測点を指定した後で左ボタンをクリックすると、すべての計測点は削除されて 1 点目の指定となります。

1 点目を基点にして複数の計測を行う場合は、[取り消し]ボタンをクリックすることで 2 点目を再度指定することができます。

[Shift]キーを押している間は水平または垂直の計測点を指定することができます。

3-b 折れ線

始点と終点の合計距離と直線距離、増分を計測します。

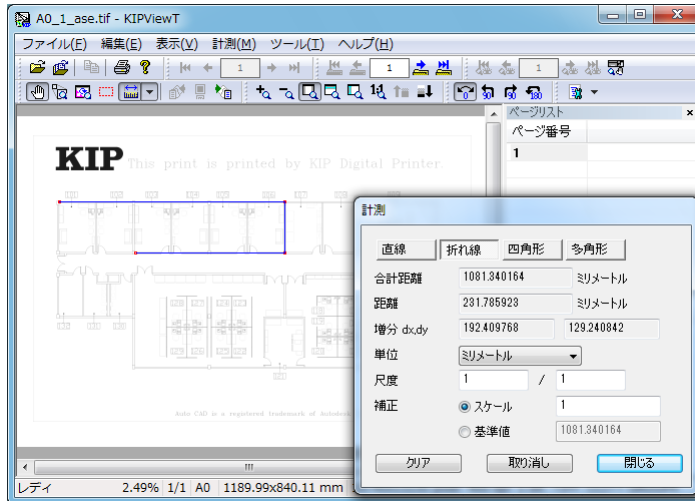


■画面の説明

名称	機能
合計距離	始点と終点の合計距離を表示します。
距離	始点と終点の直線距離を表示します。
増分 dx,dy	始点と終点の X 軸、Y 軸の増分を表示します。

複数の計測点を指定します。

ダブルクリックで計測を完了します。



ダブルクリックで完了した後で左ボタンをクリックすると、すべての計測点は削除されて1点目の指定となります。

[Shift]キーを押している間は水平または垂直の計測点を指定することができます。

3-c 四角形

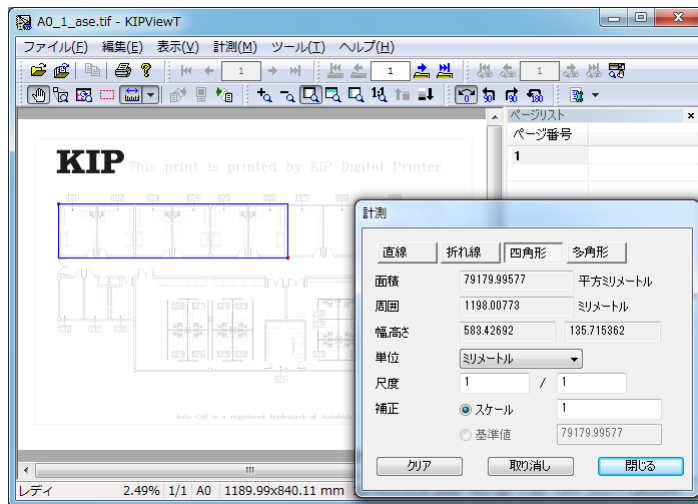
指定した2点を対角とする四角形の面積と周囲の長さ、幅、高さを計測します。



■画面の説明

名称	機能
面積	四角形の面積を表示します。
周囲	四角形の周囲の長さを表示します。
幅,高さ	四角形の幅と高さを表示します。

2か所の計測点を指定します。



2か所の計測点を指定した後で左ボタンをクリックすると、すべての計測点は削除されて1点目の指定となります。

[Shift]キーを押している間は正方形の計測点を指定することができます。

3-d 多角形

多角形の面積と周囲の長さ、幅、高さを計測します。

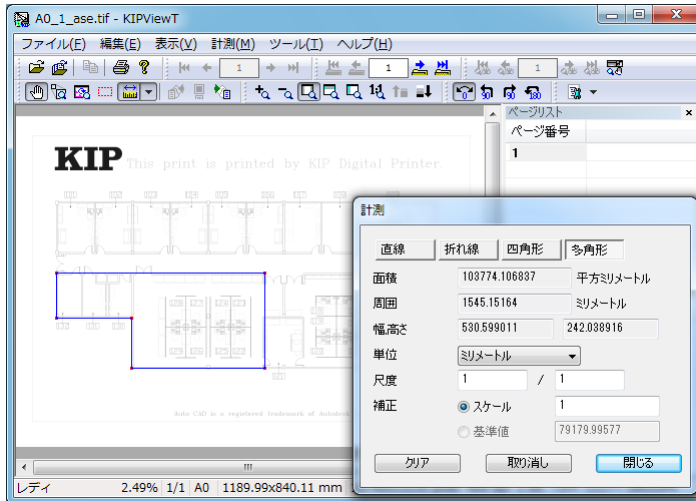


■画面の説明

名称	機能
面積	多角形の面積を表示します。
周囲	多角形の周囲の長さを表示します。
幅,高さ	多角形の幅と高さを表示します。

複数の計測点を指定します。

ダブルクリックで計測を完了します。



ダブルクリックで完了した後で左ボタンをクリックすると、すべての計測点は削除されて1点目の指定となります。

[Shift]キーを押している間は水平または垂直の計測点を指定することができます。

以上で計測の機能を使用する手順については終了です。

4.3.19 【応用】コマンドラインから起動する

ここでは、コマンドラインから起動する手順について説明します。

コマンドラインからの起動は、主に別の他のソフトウェアやシステムと連携して動作させる場合に使用します。

■ コマンドの書式

```
KIPViewT.exe [ファイル名[...]] [オプション[...]]
```

引数	説明
ファイル名	<p>起動時に開くファイル名、フォルダ名、リストファイル名、インターネットショートカットを指定します。</p> <p>空白で区切って、複数のファイル名を指定することも可能です。</p> <p>ドライブ名(X:¥)や UNC 名(¥¥コンピュータ名¥共有名¥...)、URL(HTTP://ホスト名/...)を含むフルパスで指定します。</p> <p>※ パスを省略した場合は、誤動作やファイルを見つけられない場合があります。</p> <p>※ 空白を含むファイル名を指定する場合は、ダブルクォーテーション(")で囲んでください。</p> <p>※ URL の場合、HTTP、HTTPS プロトコルに対応しています。</p>
オプション	<p>最初に関「ページ番号」や「ファイル番号」、「印刷の実行」を指定します。</p> <p>オプションを指定する順番は任意で構いません。</p>
-PN 数字	<p>最初に関「ページ番号」を”数字”の箇所に指定します。</p> <p>複数ページファイルの任意のページを最初に読み込む場合に指定します。</p> <p>※ オプションと数字の間には空白が必要です。</p>
-FN 数字	<p>最初に関「ファイル番号」を”数字”の箇所に指定します。</p> <p>任意の番号のファイルを最初に読み込む場合に指定します。</p> <p>引数「ファイル名」にフォルダ名やリストファイル、複数のファイル名を指定した場合に有効です。</p> <p>オプション“-PN”との併用も可能です。</p> <p>※ オプションと数字の間には空白が必要です。</p>

引数	説明	
オプション	-P	「通常使うプリンタに設定」したプリンタからファイルの印刷を実行して、自動的に終了します。 オプション"-PN"と"-FN"は無視します。
	-PT プリンタ名	「プリンタ名」に指定したプリンタからファイルの印刷を実行して、自動的に終了します。 オプション"-PN"と"-FN"は無視します。
	-C 数字	印刷する枚数を指定します。 省略した場合は、プリンタの設定に従います。
	-PP 用紙名	印刷する用紙名を指定します。 省略した場合は、KIPViewT とプリンタの設定に従います。

■ コマンドの記述例

【指定したファイルを開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:\¥KIP¥ScanData¥SCAN0001.tif

【指定したファイルの 50 ページ目を開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:\¥KIP¥ScanData¥A4_100P.TIF -PN 50

【指定したフォルダを開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:\¥KIP¥ScanData

【指定したフォルダの 3 番目のファイルを開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:\¥KIP¥ScanData -FN 3

【指定したフォルダの、6 番目のファイルの、30 ページ目を開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:\¥KIP¥ScanData -FN 6 -PN 30

【指定した URL のファイルを開く】

C:\¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe http://www.example.com/example.tif

確認

オプションの設定で「複数起動を禁止する」が有効になっている場合は、先に起動していた KIPViewT 側で指定した引数のファイルが開きます。

【通常使うプリンタでファイルを印刷する】

```
C:¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:¥KIP¥ScanData¥SCAN0001.tif -P
```

【指定したプリンタでファイルを印刷する】

```
C:¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:¥KIP¥ScanData¥SCAN0001.tif -PT "KIP 3100"
```

【指定した部数と用紙名でファイルを印刷する】

```
C:¥KIP¥KIPViewT¥KIPViewT.exe C:¥KIP¥ScanData¥SCAN0001.tif -P -C 3 -PP "A3"
```

確認

コマンドラインから印刷する場合は、オプションの設定で「複数起動を禁止する」が有効になっていても、個別に KIPViewT が起動して処理を行います。

以上でコマンドラインから起動する手順については終了です。

4.3.20 【応用】外部ツールを登録して起動する

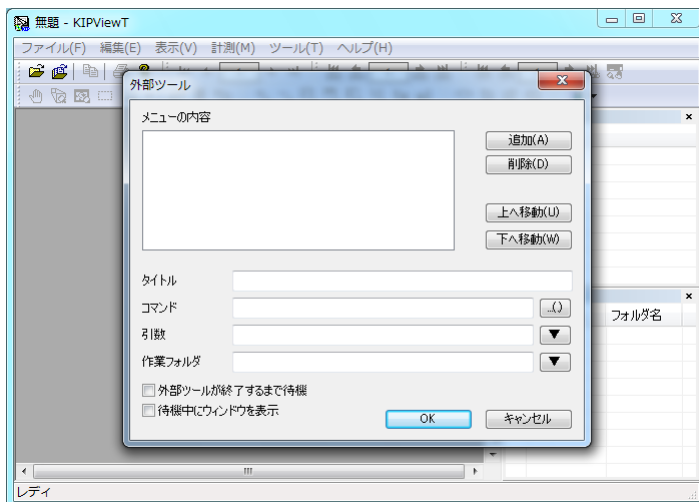
ここでは、外部ツールを登録して起動する手順について説明します。

外部ツールを登録すると KIPViewT で画像を表示しながら、ほかのアプリケーションを簡単に起動できます。

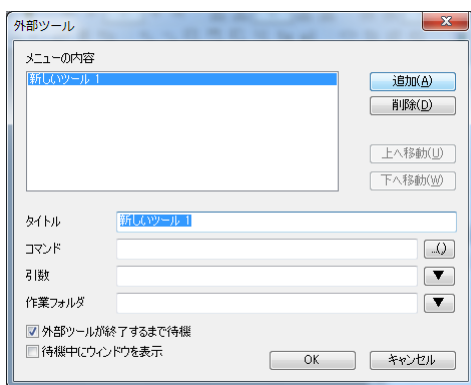
表示している画像のファイル名をアプリケーションの引数に渡すことができますので、ほかのアプリケーションやシステムとの連携が容易です。画像の編集や上位システムへのデータ転送、特別な手順での印刷など、いろいろな用途に使用できます。

以下の手順では、KIP Scan Client の Preview を登録して、画像を編集できるようにします。

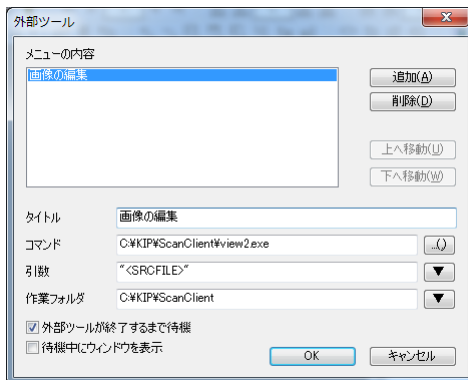
1. メニューバーから【ツール】-【外部ツール】を選択して「外部ツール」画面を表示します。



2. [追加]ボタンをクリックします。タイトルが「新しいツール 1」で初期化されます。



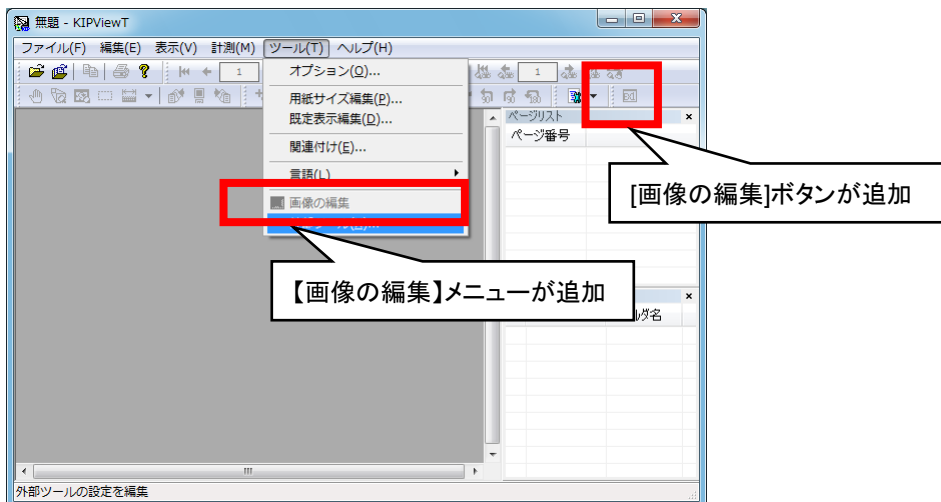
3. 「タイトル」「コマンド」「引数」「作業フォルダ」に必要な情報を入力します。



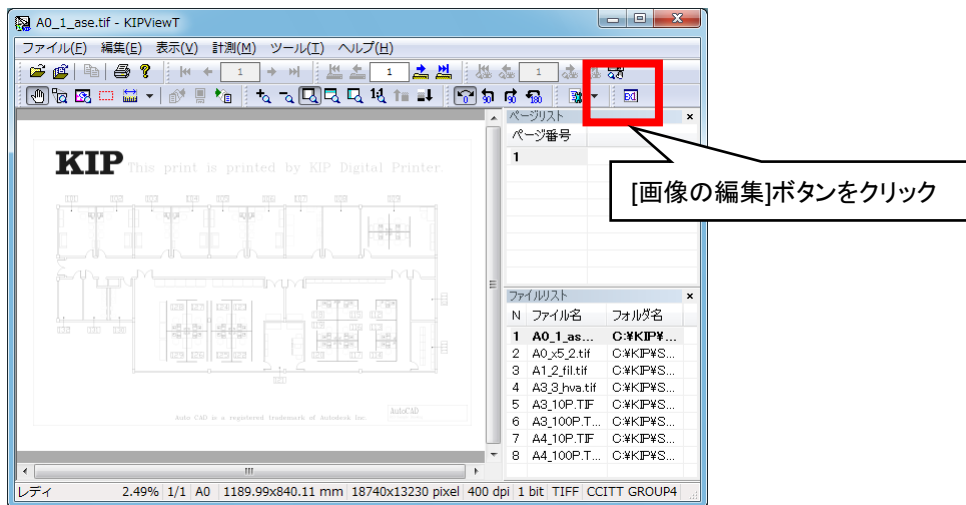
詳しくは「5.7 「外部ツール」画面の詳細」を参照してください。

4. [OK]ボタンをクリックします。

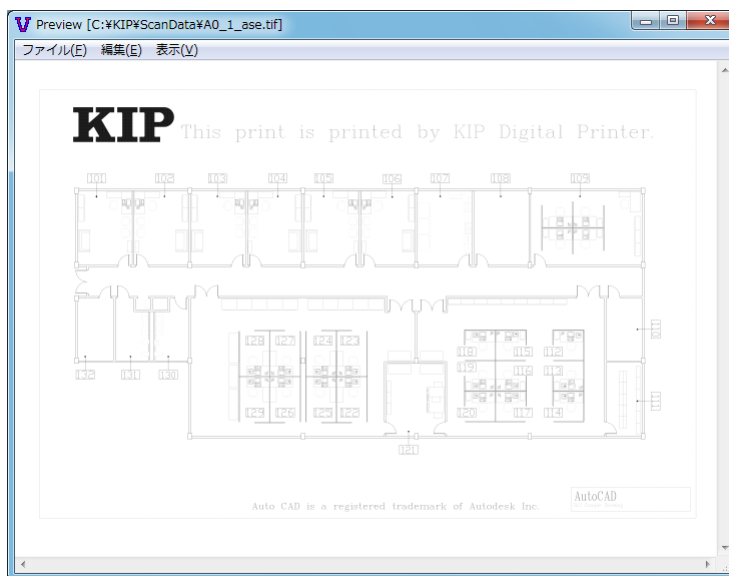
登録した内容でメニューバーとツールバーが更新されます。



5. ファイルを読み込みます。
ツールバーの[画像の編集]ボタンをクリックします。



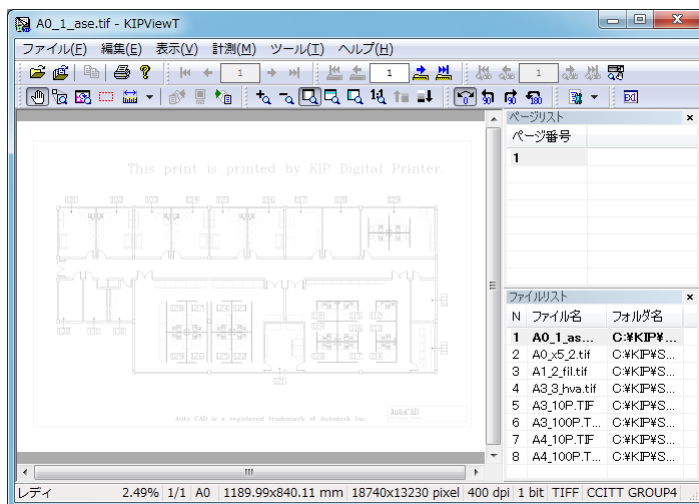
6. 登録したアプリケーションが起動します。



必要な処理を行い、起動したアプリケーションを終了します。

※この例では画像の編集を行い、上書きを行います。

7. ファイルの更新日時に変更があった場合は、表示を更新します。



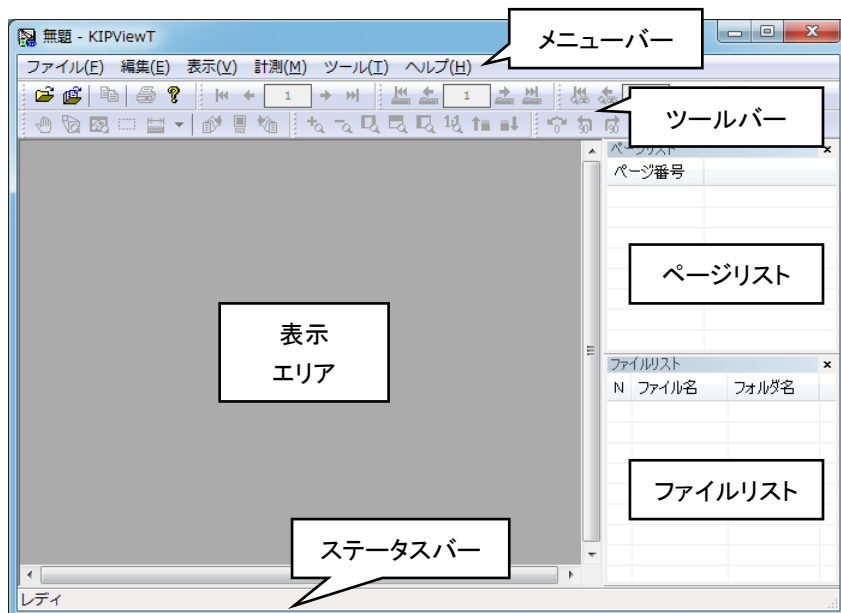
以上で外部ツールを登録して起動する手順については終了です。

<空白ページ>

第5章 機能詳細

5.1 メインウィンドウの詳細

ここでは、KIPViewT メインウィンドウの画面構成や機能の詳細について説明します。



5.1.1 メニューバー

KIPViewT の基本的な機能のメニューを表示します。

項目をクリックするとメニューがプルダウンして、コマンドの一覧が表示されます。

名称	説明
ファイル(F)	
開く(O)...	ファイルを指定してファイルを読み込みます。
フォルダを開く(D)...	フォルダを指定してファイルを読み込みます。
閉じる(C)	開いているファイルを閉じて、ファイルリストをクリアします。
印刷(P) ...	ファイルを印刷します。
連続印刷(P) ...	複数のファイルを連続で印刷します。
プリンタの設定(R) ...	プリンタドライバの初期設定を変更します。
最近使ったファイル	過去に開いたファイルやフォルダを開きます。
アプリケーションの終了(X)	KIPViewT を終了します。
編集(E)	
範囲選択(S)	表示エリア内での左クリックの動作を「範囲選択」に切り替えます。
コピー(C)	選択した範囲をコピーしてクリップボードに保存します。
すべて選択(A)	画像のすべての範囲を選択します。
表示(V)	
移動(M)	表示エリア内での左クリックの動作を「移動」に切り替えます。
範囲拡大(Z)	表示エリア内での左クリックの動作を「範囲拡大」に切り替えます。
既定表示(D)	「既定表示」の設定に従って、画像の表示を更新します。
回転(R)	画像を回転します。
回転なし(O)	回転角度を 0° にして、画像の本来の向きで表示します。 現在の角度が 0° の場合はチェックが付いた状態になります。
左に 90° 回転(W)	メニューを選択するたびに画像が左に 90° 回転します。
右に 90° 回転(C)	メニューを選択するたびに画像が右に 90° 回転します。
180° 回転(1)	メニューを選択するたびに画像が 180° 回転します。
スケール(S)	画像を拡大／縮小します。
拡大(I)	メニューを選択するたびに画像が拡大します。
縮小(Q)	メニューを選択するたびに画像が縮小します。
全体を表示(O)	メニューを選択すると表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。

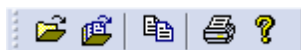
	幅を基準に表示(W)	メニューを選択すると表示エリアの幅に合わせて画像を表示します。
	高さを基準に表示(H)	メニューを選択すると表示エリアの高さに合わせて画像を表示します。
	等倍で表示(N)	メニューを選択すると等倍(100%)で画像を表示します。
	淡く表示(B)	メニューを選択するたびに薄い濃度で画像を表示します。
	濃く表示(D)	メニューを選択するたびに濃い濃度で画像を表示します。
	ページ(P)	表示する画像のページを切り替えます。
	最初のページ(F)	メニューを選択すると最初のページを表示します。
	前のページ(P)	メニューを選択するたびに一つ前のページを表示します。
	次のページ(N)	メニューを選択するたびに一つ次のページを表示します。
	最後のページ(L)	メニューを選択すると最後のページを表示します。
	ファイル(F)	表示する画像のファイルを切り替えます。
	最初のファイル(F)	メニューを選択すると最初のファイルを表示します。
	前のファイル(P)	メニューを選択するたびに一つ前のファイルを表示します。
	次のファイル(N)	メニューを選択するたびに一つ次のファイルを表示します。
	最後のファイル(L)	メニューを選択すると最後のファイルを表示します。
	ビューポイント(V)	表示する画像のビューポイントを切り替えます。
	最初のビューポイント(F)	メニューを選択すると最初のビューポイントを表示します。
	前のビューポイント(P)	メニューを選択するたびに一つ前のビューポイントを表示します。
	次のビューポイント(N)	メニューを選択するたびに一つ次のビューポイントを表示します。
	最後のビューポイント(L)	メニューを選択すると最後のビューポイントを表示します。
	キー操作有効(K)	カーソルキーでビューポイントを切り替えの有効/無効を設定します。
	自動ページ送り(A)	自動で次のページ/ファイルを表示します。
	自動ページ送り(A)	メニューを選択すると自動で次のページ/ファイルを表示します。もう一度選択すると、停止します。
	自動ページ送り/逆順(R)	メニューを選択すると自動で前のページ/ファイルを表示します。もう一度選択すると、停止します。
	自動ページ送り/停止(S)	メニューを選択すると自動ページ送りを停止します。
	ページリスト(G)	「ページリスト」画面の表示/非表示を切り替えます。
	表示形式(V)	「ページリスト」の表示形式を変更します。
	縮小画像(H)	「ページリスト」を縮小画像の形式で表示します。
	詳細リスト(D)	「ページリスト」を詳細リストの形式で表示します。
	フォント変更(E) ...	「ページリスト」の表示フォントを変更します。
	ファイルリスト(F)	「ファイルリスト」画面の表示/非表示を切り替えます。

表示形式(V)	「ファイルリスト」の表示形式を変更します。
縮小画像(H)	「ファイルリスト」を縮小画像の形式で表示します。
詳細リスト(D)	「ファイルリスト」を詳細リストの形式で表示します。
フォント変更(E) ...	「ファイルリスト」の表示フォントを変更します。
最新の情報に更新(R)	「ファイルリスト」を最新の状態に更新します。
フォルダの監視(N)	フォルダの監視設定を変更します。
自動的に追加(A)	オプションの「ファイルリストへ自動的に追加する」機能と同じです。機能の有効/無効を切り替えます。
自動的に読み込む(L)	オプションの「追加したファイルを自動的に読み込む」機能と同じです。機能の有効/無効を切り替えます。
ツールバー(T)	各ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
標準	ツールバー「標準」の表示/非表示を切り替えます。
動作	ツールバー「動作」の表示/非表示を切り替えます。
回転	ツールバー「回転」の表示/非表示を切り替えます。
スケール	ツールバー「スケール」の表示/非表示を切り替えます。
ページ	ツールバー「ページ」の表示/非表示を切り替えます。
ファイル	ツールバー「ファイル」の表示/非表示を切り替えます。
ビューポイント	ツールバー「ビューポイント」の表示/非表示を切り替えます。
ツール	ツールバー「ツール」の表示/非表示を切り替えます。
外部ツール	ツールバー「外部ツール」の表示/非表示を切り替えます。
ツールバーを固定する(B)	ツールバーのサイズと位置を固定します。
ステータスバー(S)	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。
画像情報(I)	「画像情報」画面を表示します。
計測(M)	
直線(L)	2点間の直線距離と、角度を計測します。
折れ線(P)	始点と終点の合計距離と直線距離を計測します。
四角形(R)	四角形の面積と幅、高さを計測します。
多角形(G)	多角形の面積と周囲の長さを計測します。
ツール(I)	
オプション(O) ...	「オプション」画面を表示して設定を変更します。
用紙サイズ編集(P) ...	「用紙サイズ編集」画面を表示して、設定を変更します。
既定表示編集(D) ...	「既定表示編集」画面を表示して、設定を変更します。
関連付け(E) ...	「関連付け」画面を表示して、設定を変更します。
言語(L)	表示する言語を切り替えます
日本語(J)	表示する言語を日本語に変更します。
英語(E)	表示する言語を英語に変更します。

<外部ツール 1> ～ <外部ツール n>	n 個目に登録した外部ツールを起動します。 ※1 つ以上の外部ツールが登録されている場合に表示します。
外部ツール(X)	「外部ツール」画面を表示して、設定を変更します。
ヘルプ(H)	
ライセンスコードの入力(C)...	アプリケーションのライセンスコードを入力します。
オプションライセンスの追加(O)...	オプションのライセンスコードを入力します。
バージョン情報(A)...	バージョン情報、および著作権を表示します。

5.1.2 ツールバー「標準」

KIPViewT の基本機能を実行するためのボタンです。



ボタン名称		動作
	開く	ファイルを指定してファイルを読み込みます。
	フォルダを開く	フォルダを指定してファイルを読み込みます。
	コピー	選択した範囲をコピーしてクリップボードに保存します。
	印刷	ファイルを印刷します。
	バージョン情報	バージョン情報、および著作権を表示します。

5.1.3 ツールバー「動作」

KIPViewT の動作に関する機能を実行するためのボタンです。







ボタン	動作	
	移動	表示エリア内での左クリックの動作を「移動」に切り替えます。
	範囲拡大	表示エリア内での左クリックの動作を「範囲拡大」に切り替えます。
	既定表示	「既定表示」の設定に従って、画像の表示を更新します。
	範囲選択	表示エリア内での左クリックの動作を「範囲選択」に切り替えます。
	計測	表示エリア内での左クリックの動作を「計測」に切り替えます。 [▼]ボタンをクリックすると計測メニューを表示します。
	自動ページ送り／逆順	自動で前のページ／ファイルを表示します。
	自動ページ送り／停止	自動ページ送りを停止します。
	自動ページ送り	自動で次のページ／ファイルを表示します。

5.1.4 ツールバー「回転」

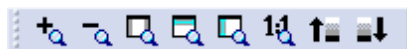
画像の回転に関する機能を実行するためのボタンです。











ボタン		動作
	回転なし	回転角度を 0° にして、画像の本来の向きで表示します。 現在の角度が 0° の場合は押下した状態になります。
	左に 90° 回転	ボタンを押すたびに画像が左に 90° 回転します。
	右に 90° 回転	ボタンを押すたびに画像が右に 90° 回転します。
	180° 回転	ボタンを押すたびに画像が 180° 回転します。

5.1.5 ツールバー「スケール」

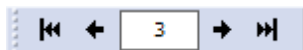
画像の拡大／縮小に関する機能を実行するためのボタンです。



ボタン		動作
	拡大	ボタンを押すたびに画像が拡大します。
	縮小	ボタンを押すたびに画像が縮小します。
	全体を表示	ボタンを押すと表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。
	幅を基準に表示	ボタンを押すと表示エリアの幅に合わせて画像を表示します。
	高さを基準に表示	ボタンを押すと表示エリアの高さに合わせて画像を表示します。
	等倍で表示	ボタンを押すと等倍(100%)で画像を表示します。
	淡く表示	ボタンを押すたびに淡い濃度で画像を表示します。
	濃く表示	ボタンを押すたびに濃い濃度で画像を表示します。

5.1.6 ツールバー「ページ」

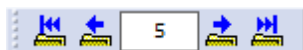
ページの切り替えに関する機能を実行するためのボタンです。



ボタン	動作	
	最初のページ	ボタンを押すと最初のページを表示します。
	前のページ	ボタンを押すたびに一つ前のページを表示します。
<input type="text" value="3"/>	ページ番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したページを表示します。
	次のページ	ボタンを押すたびに一つ次のページを表示します。
	最後のページ	ボタンを押すと最後のページを表示します。

5.1.7 ツールバー「ファイル」

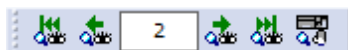
ファイルの切り替えに関する機能を実行するためのボタンです。



ボタン	動作	
	最初のファイル	ボタンを押すと最初のファイルを表示します。
	前のファイル	ボタンを押すたびに一つ前のファイルを表示します。
<input type="text" value="5"/>	番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したファイルを表示します。
	次のファイル	ボタンを押すたびに一つ次のファイルを表示します。
	最後のファイル	ボタンを押すと最後のファイルを表示します。

5.1.8 ツールバー「ビューポイント」

ビューポイントの切り替えに関する機能を実行するためのボタンです。




ボタン	動作	
	最初のビューポイント	ボタンを押すと最初のビューポイントを表示します。
	前のビューポイント	ボタンを押すたびに一つ前のビューポイントを表示します。
<input type="text" value="2"/>	番号を指定	数字を入力して Enter キーを押すと、指定したビューポイントを表示します。
	次のビューポイント	ボタンを押すたびに一つ次のビューポイントを表示します。
	最後のビューポイント	ボタンを押すと最後のビューポイントを表示します。
	カーソルキーで切替	カーソルキーでビューポイントを切り替えの有効／無効を設定します。

5.1.9 ツールバー「ツール」

【ツール】のメニューを表示するためのボタンです。







ボタン		動作
	ツール	メニューバーの【ツール】と同じメニューを表示します。

5.1.10 ツールバー「外部ツール」

外部ツールを起動するためのボタンです。



ボタン		動作
	<外部ツール 1>	ボタンを押すと1つ目に登録した外部ツールを起動します。
	<外部ツール 2>	ボタンを押すと2つ目に登録した外部ツールを起動します。
	<外部ツール 3>	ボタンを押すと3つ目に登録した外部ツールを起動します。
	<外部ツール 4>	ボタンを押すと4つ目に登録した外部ツールを起動します。
~	<外部ツール n>	ボタンを押すとn個目に登録した外部ツールを起動します。

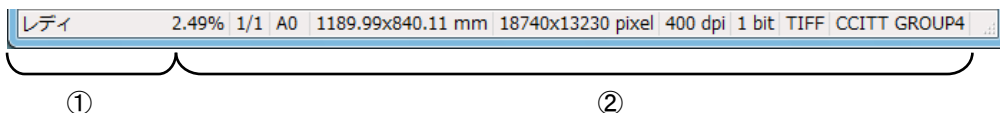
確認

ボタンの数は、登録した外部ツールによって決まります。

外部ツールを登録していない場合は、ツールバー「外部ツール」は表示されません。

5.1.11 ステータスバー

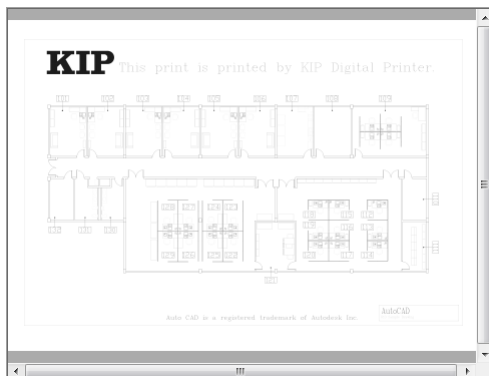
表示している画像の情報や実行する操作の説明を表示します。



	名称	説明
①	メニューの説明	現在選択しているメニューの説明を表示します。
②	画像の情報	現在表示している画像の情報を表示します。 画像を読み込んでいない場合は、表示しません。
	倍率	倍率を表示します。(単位:%)
	ページ	ページ番号と総ページ数を表示します。
	用紙サイズ	用紙サイズの設定に従って、判断した「用紙サイズ名」を表示します。
	幅高さ(mm)	画素数と解像度から算出した幅と高さを表示します。(単位:mm)
	幅高さ(pixel)	幅と高さの画素数を表示します。(単位:pixel)
	解像度	解像度を表示します。(単位:dpi)
	色数	色を表現するために必要なビット数を表示します。
	フォーマット	画像のフォーマット形式を表示します。
	圧縮形式	画像の圧縮形式を表示します。

5.1.12 表示エリア

読み込んだファイルの画像を表示します。



<主なキーボードの操作>

入力キー	動作
[↑][↓][←][→]	画像が上下左右にスクロールします。
[Ctrl]+[←]	操作するたびに画像が左に 90° 回転します。
[Ctrl]+[→]	操作するたびに画像が右に 90° 回転します。
[+] (テンキー)	操作するたびに画像が拡大します。
[-] (テンキー)	操作するたびに画像が縮小します。
[Home]	キーを押すと最初のページを表示します。
[Page Up]	キーを押すたびに一つ前のページを表示します。
[Page Down]	キーを押すたびに一つ次のページを表示します。
[End]	キーを押すと最後のページを表示します。
[Ctrl]+[Home]	キーを押すと最初のファイルを表示します。
[Back Space] [Shift]+[Space]	キーを押すたびに一つ前のファイルを表示します。
[Space]	キーを押すたびに一つ次のファイルを表示します。
[Ctrl]+[End]	キーを押すと最後のファイルを表示します。
[Ctrl]+[Page Up]	キーを押すたびに一つ前のビューポイントを表示します。
[Ctrl]+[Page Down]	キーを押すたびに一つ次のビューポイントを表示します。

入力キー	動作
[Enter]	キーを押すたびに次の「ビューポイント／ページ／ファイル」を表示します。 最後のビューポイントを表示していた場合は、次のページを表示します。 最後のページを表示していた場合は、次のファイルを表示します。
[Shift]+[Enter]	キーを押すたびに前の「ビューポイント／ページ／ファイル」を表示します。 最初のビューポイントを表示していた場合は、前のページを表示します。 最初のページを表示していた場合は、前のファイルを表示します。

<主なマウスの操作>

操作	動作	
左ボタンでドラッグ	状態によって動作が異なります。	
	移動	画像がマウスカーソルに合わせてスクロール
	範囲拡大	選択した範囲を拡大
右クリック	ポップアップメニューを表示します。 <div data-bbox="440 795 790 1078" data-label="Image"> <p> <input type="checkbox"/> 全体を表示(O) <input type="checkbox"/> 幅を基準に表示(E) <input type="checkbox"/> 左に90°回転(Y) Ctrl + ← <input type="checkbox"/> 右に90°回転(C) Ctrl + → <hr/> <input type="checkbox"/> 移動(M) <input type="checkbox"/> 範囲拡大(Z) <input type="checkbox"/> 自動ページ送り/停止(S) <hr/> <input type="checkbox"/> ← 前のページを表示(P) Page Up <input type="checkbox"/> → 次のページを表示(N) Page Down <input type="checkbox"/> 前のファイル(B) Back Space <input type="checkbox"/> 次のファイル(F) Space <input type="checkbox"/> 前のビューポイント(V) Ctrl+Page Up <input type="checkbox"/> 次のビューポイント(X) Ctrl+Page Down </p> </div>	
スクロールバー	画像が上下左右にスクロールします。	

5.1.13 ページリスト

表示しているファイルのページ構成を表示します。
表示形式の設定によって、表示する内容が異なります。


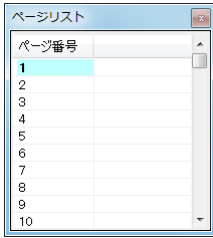


現在表示しているページは、背景色が水色になります。(詳細リストの場合は更に太字)
表示エリアの上下左右に配置したり、大きさを変更したりできます。

＜主なキーボードの操作＞

入力キー	動作
[↑][↓]	選択カーソルが上下に移動します。
[Enter]	選択しているページの画像を表示します。

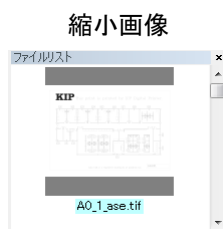
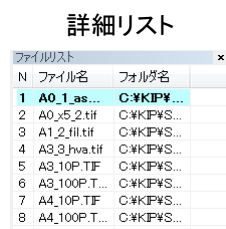
＜主なマウスの操作＞

操作	動作	
左クリック	ページを選択します。	
ページ番号をダブルクリック	選択しているページの画像を表示します。	
タイトル部分をダブルクリック	「ページリスト」画面の固定状態と浮動状態を切り替えます。	
	固定状態	浮動状態
		
右クリック	ポップアップメニューを表示します。	
タイトル部分を左ドラッグ	「ページリスト」画面の位置を移動します。	
[×]ボタンをクリック	「ページリスト」画面を非表示にします。 表示するには、メニューから【表示】-【ページリスト】を選択してください。	

5.1.14 ファイルリスト

表示するファイルのファイルリストを表示します。

表示形式の設定によって、表示する内容が異なります。

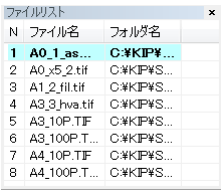
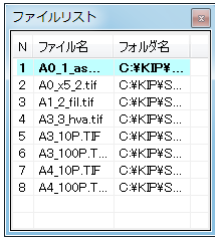
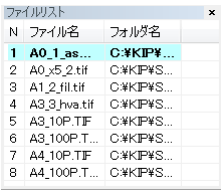
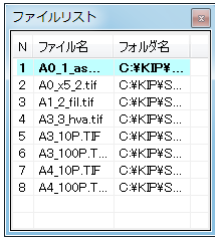
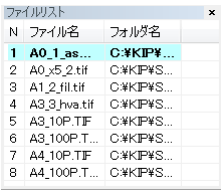
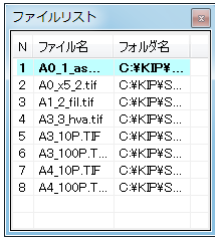


現在表示しているファイルは、背景色が水色になります。(詳細リストの場合は更に太字)表示エリアの上下左右に配置したり、大きさを変更したりできます。

<主なキーボードの操作>

入力キー	動作
[↑][↓]	選択カーソルが上下に移動します。
[Enter]	選択しているページの画像を表示します。
[F2]	現在表示しているファイルのファイル名を編集可能な状態にします。
編集中に[Enter]	ファイル名を更新します。
編集中に[Esc]	ファイル名の編集をキャンセルします。

<主なマウスの操作>

操作	動作				
左クリック	ファイルを選択します。				
ダブルクリック	選択しているファイルの画像を表示します。				
ファイル名の項目をダブルクリック	選択しているファイルの画像を表示して、ファイル名を編集可能な状態にします。				
タイトル部分をダブルクリック	「ファイルリスト」画面の固定状態と浮動状態を切り替えます。				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #c8e6c9;">固定状態</th> <th style="background-color: #c8e6c9;">浮動状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td style="text-align: center;">  </td> </tr> </tbody> </table>	固定状態	浮動状態		
固定状態	浮動状態				
					
右クリック	ポップアップメニューを表示します				
タイトル部分を左ドラッグ	「ファイルリスト」画面の位置を移動します。				
[×]ボタンをクリック	「ファイルリスト」画面を非表示にします。 表示するには、メニューから【表示】-【ファイルリスト】を選択してください。				

5.1.15 計測

この画面は、ツールバーの[計測]ボタンで左クリックの動作を切り替えることで表示します。
計測方法によって、表示する内容が異なります。



名称	機能
[直線] [折れ線] [四角形] [多角形]	クリックした計測方法に切り替えます。 それまでに決定したすべての計測点は削除します。
項目 1	計測方法によって表示内容が異なります。 「距離」「合計距離」「面積」のいずれかを表示します。
項目 2	計測方法によって表示内容が異なります。 「角度」「距離」「周囲」のいずれかを表示します。
項目 3	計測方法によって表示内容が異なります。 「増分 dx,dy」「幅,高さ」のいずれかを表示します。
単位	表示する長さの単位を選択します。 「ピクセル」「ミリメートル」「センチメートル」「メートル」「インチ」「フィート」「ヤード」から選択します。
尺度	1/1 を等倍とした、計測結果の尺度を分数で指定します。 入力した値に応じて、計測結果を調整します。
補正	計測結果の値を調整する場合に変更します。
スケール	1 を等倍とした、計測結果の倍率を指定します。 入力した値に応じて、計測結果を調整します。
基準値	スケールを"1"として計測した結果に対する基準値を指定します。 入力した値に応じて、スケールを更新します。 ※ 計測方法が[直線][折れ線]の場合のみ有効です。
[クリア]	決定したすべての計測点を削除します。
[取り消し]	決定した計測点を 1 段階戻します。
[閉じる]	計測の状態を解除します。

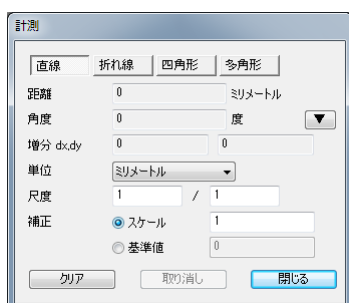
<主なキーボードの操作>

入力キー	動作
[ESC]	決定した計測点を1段階戻します。
[SHIFT]	押している間は水平や垂直、正方形の計測点を指定することができます。

<主なマウスの操作>

操作	動作
左クリック	計測点を決定します。
ダブルクリック	計測を完了します。
タイトル部分を左ドラッグ	「計測」画面の位置を移動します。

■直線



名称	動作	
距離	2点間の直線距離を表示します。	
角度	基準を0度とした直線の角度を表示します。 角度の値は、角度の方向に従って増加します。 [▼]ボタンをクリックすると、基準と角度の方向を設定するメニューを表示します。	
	現在の角度を基準に適用	角度の基準を計測した結果で設定します。
	基準をリセット	角度の基準を「左から右方向の水平」で初期化します。
	左方向	角度の方向を反時計方向に設定します。
	右方向	角度の方向を時計方向に設定します。
増分 dx,dy	2点間のX軸、Y軸の増分を表示します。	

■折れ線

名称	動作
合計距離	始点と終点の合計距離を表示します。
距離	始点と終点の直線距離を表示します。
増分 dx,dy	始点と終点の X 軸、Y 軸の増分を表示します。

■四角形

名称	動作
面積	四角形の面積を表示します。
周囲	四角形の周囲の長さを表示します。
幅,高さ	四角形の幅と高さを表示します。

■多角形

計測

直線 折れ線 四角形 多角形

距離 0 ミリメートル

角度 0 度

増分 dx,dy 0 0

単位 ミリメートル

尺度 1 / 1

補正 スケール 1

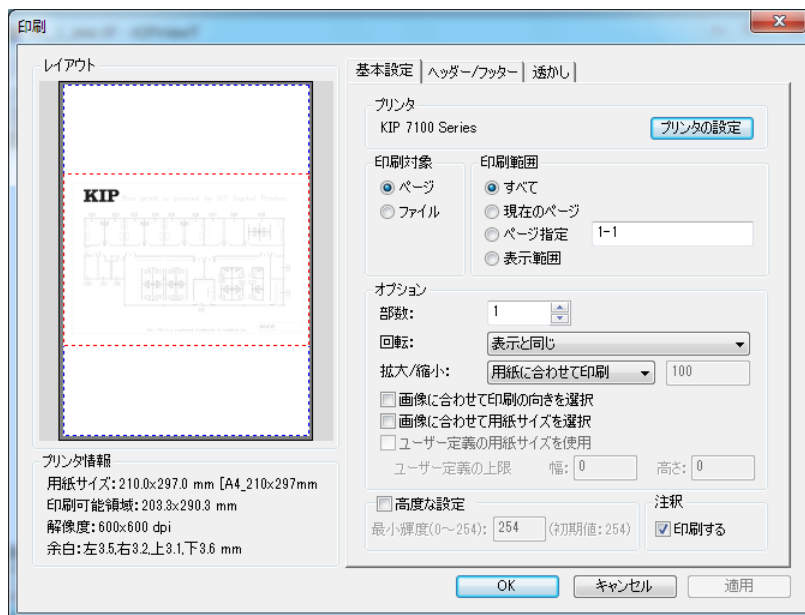
基準値 0

クリア 取り消し 閉じる

名称	動作
面積	多角形の面積を表示します。
周囲	多角形の周囲の長さを表示します。
幅,高さ	多角形の幅と高さを表示します。

5.2 「印刷」画面の詳細

ここでは、「印刷」画面の構成や機能の詳細について説明します。
この画面は、ツールバーの[印刷]ボタンをクリックすることで表示します。

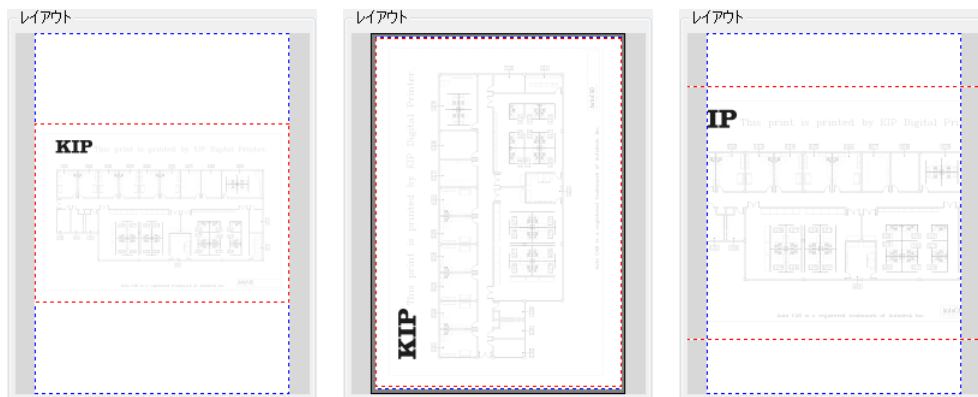


ボタン名称	機能
[OK]	設定した内容で印刷を開始します。
[キャンセル]	印刷を中止して、「印刷」画面を閉じます。
[適用]	「印刷」画面はそのままで、設定を更新します。

5.2.1 レイアウト

印刷結果のプレビューを表示します。

「プリンタ情報」「オプション」の設定に従って、自動的に更新します。



参考: 用紙に合わせて印刷(余白なし)

参考: 用紙に合わせて印刷(余白あり)

参考: 原寸大で印刷

名称	説明
用紙サイズ	<p>黒実線で領域を示します。</p> <p>余白がある場合は、濃いグレーで表示します。</p> <p>「印刷可能領域」や「印刷イメージの領域」で上書きされる場合があります。</p>
印刷可能領域	<p>青点線で領域を示します。</p> <p>余白がない場合は、用紙サイズと同じ領域になります。</p>
印刷イメージの領域	<p>赤点線で領域を示します。</p> <p>「印刷可能領域」の範囲内には、縮小画像を表示します。</p> <p>※ 印刷の設定によっては、赤点線が「印刷可能領域」「用紙サイズ」の外になって表示されない場合があります。</p>

5.2.2 プリンタ情報

現在選択しているプリンタの情報を表示します。

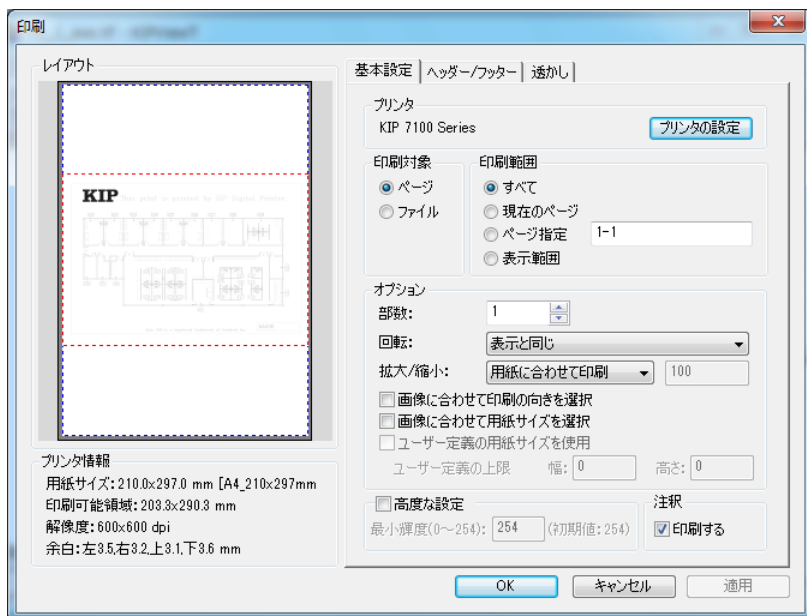
プリンタの名前、用紙サイズ(幅,高さ,用紙名,向き)、印刷可能領域(幅,高さ)、解像度(幅,高さ)、余白(上下左右)を表示します。

プリンタ情報
 用紙サイズ: 210.0x297.0 mm [A4_210x297mm]
 印刷可能領域: 203.3x290.3 mm
 解像度: 600x600 dpi
 余白: 左3.5,右3.2,上3.1,下3.6 mm

名称	説明
用紙サイズ	選択している用紙の幅と高さをミリメートルで表示します。 また、[]には用紙名と印刷の向きを表示します。
印刷可能領域	実際に印刷が可能な領域の幅と高さをミリメートルで表示します。 ※ オプションの「拡大／縮小」の設定で「用紙サイズに合わせて印刷」を選択した場合は、この領域に収まるように調整します。
解像度	プリンタドライバの解像度を表示します。
余白	用紙の余白を表示します。

5.2.3 「基本設定」タブ

印刷の基本的な設定を表示します。



名称	説明
プリンタ	使用するプリンタドライバの名前を表示します。
[プリンタの設定]	「プリンタの設定」画面を表示します。 用紙サイズや印刷の向き、プリンタドライバの設定などを変更します。
印刷対象	印刷するページの範囲をラジオボタンから選択します。
ページ	印刷範囲で指定する対象を「ページ」にします。
ファイル	印刷範囲で指定する対象を「ファイル」にします。 ※ 複数のファイルをまとめて印刷する場合に選択します。メニューから【連続印刷】を選択した場合は初期値になります。

名称	説明	
印刷範囲(ページ)	印刷するページの範囲を設定します。	
すべて	現在開いているファイルのすべてのページを印刷します。 ※ 用紙サイズや向きの異なるページを含んでいる場合は、それぞれのページがオプションの設定に従って印刷されます。	
現在のページ	現在表示しているページのみを印刷します。	
ページ指定	現在開いているファイルの指定したページを印刷します。 カンマ”,”とハイフン”-“でページ番号を指定します。 カンマ”,”は、区切りを意味します。 ハイフン”-“は、範囲を意味します。 無効な文字や書式に間違いがある場合は無視します。有効なページのみが印刷されます。 例:1,3-5,10 ⇒ 1,3,4,5,10 ページを印刷します。	
表示範囲 または 選択範囲	現在表示しているページの一部分を切り出して印刷します。	
	表示範囲	「表示エリア」に表示している範囲の画像を切り出して印刷します。
	選択範囲	選択した範囲の画像を切り出して印刷します。 ※ 動作が「範囲選択」で、範囲を選択した状態の場合に有効です。
印刷範囲(ファイル)	印刷するファイルの範囲を設定します。	
すべて	「ファイルリスト」に表示しているすべてのファイルのすべてのページを印刷します。 ※ 用紙サイズや向きの異なるページを含んでいる場合は、それぞれのページがオプションの設定に従って印刷されます。	
現在のファイル	現在表示しているファイルのみを印刷します。	
ファイル指定	「ファイルリスト」の指定した番号のファイルを印刷します。 カンマ”,”とハイフン”-“でページ番号を指定します。 カンマ”,”は、区切りを意味します。 ハイフン”-“は、範囲を意味します。 無効な文字や書式に間違いがある場合は無視します。有効なファイルのみが印刷されます。 例:1,3-5,10 ⇒ 1,3,4,5,10 ページを印刷します。	
ファイルリスト選択	「ファイルリスト」で選択しているファイルを印刷します。 また、選択しているファイルの数を表示します。 ※ ファイルリストのメニューで【連続印刷】を選択した場合、初期値になります。	

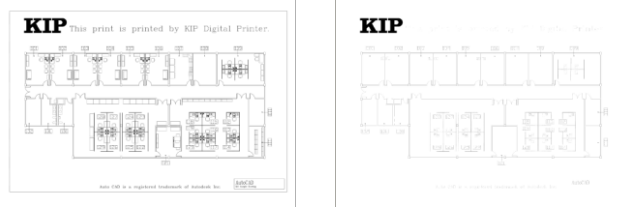
名称		説明
	一括出力	プリンタのキューへのスプール方法を選択します。 チェックを付けると、対象となったすべてのファイルを一括で印刷します。プリンタのキューに表示するドキュメント名は1つです。 チェックを外すと、ファイル単位に印刷します。プリンタのキューに表示するドキュメント名は複数です。
オプション		印刷のオプションを設定します。
	部数	印刷する部数を設定します。設定可能な範囲は、1~32767です。
	回転	<p>画像の回転角度を設定します。</p> <p>自動回転の場合は、用紙と画像の向きに合わせて回転角度が決定します。</p> <p>※ 「向き」については、下記のように判断します。</p> <p>【縦置き】:幅と高さを比較して、「幅≦高さ」の場合</p> <p>【横置き】:幅と高さを比較して、「幅>高さ」の場合</p>
	表示と同じ	表示エリアと同じ回転角度で印刷
	自動回転(左方向)	用紙の向きに合わせて画像の回転角度を決定。 「0°」「左90°」のどちらかになります。 0° :用紙と画像の向きが同じ場合 左90° :用紙と画像の向きが同じ場合
	自動回転(右方向)	用紙の向きに合わせて画像の回転角度を決定。 「0°」「右90°」のどちらかになります。 0° :用紙と画像の向きが同じ場合 右90° :用紙と画像の向きが同じ場合
	0°	0° の回転角度で印刷
	左90°	左90° の回転角度で印刷
	180°	180° の回転角度で印刷
	右90°	右90° の回転角度で印刷
拡大／縮小		画像の拡大と縮小の動作を設定します。
	用紙に合わせて印刷	プリンタ情報の「印刷可能領域」に納まるように倍率を調整して印刷
	原寸大で印刷	プリンタ情報とファイルの解像度から、原寸の大きさを印刷されるように倍率を調整して印刷
	ピクセルに合わせて印刷	倍率の調整は行わず、プリンタの1単位と画像の1ピクセルが1:1となるように印刷 例:400dpiのファイルを400dpiのプリンタで印刷した場合は「原寸大で印刷」を実行した結果と同じになります。
	倍率を指定して印刷	原寸の大きさに対する倍率を指定して印刷

名称	機能
画像に合わせて印刷の向きを選択	<p>チェックを付けると、画像の向きに合わせてプリンタの設定の向き(縦、横)を選択します。用紙の向きはページ単位に判断します。</p> <p>チェックを外すと、[プリンタの設定]で指定した印刷の向きを使用します。</p> <p>※ 回転を「0°」に設定することで、画像の回転処理を省略することができます。その結果、KIPViewT の印刷処理にかかる時間を減らすことができます。</p> <p>※ 回転の設定で「自動回転(左方向)」「自動回転(右方向)」を選択した場合は「0°」と同じ結果になります。</p> <p>※ 「向き」については、下記のように判断します。</p> <p>【縦置き】:幅と高さを比較して、「幅\leq高さ」の場合</p> <p>【横置き】:幅と高さを比較して、「幅$>$高さ」の場合</p>
画像に合わせて用紙サイズを選択	<p>チェックを付けると、画像のサイズに合わせてプリンタの用紙サイズを選択します。用紙サイズはページ単位に判断します。</p> <p>チェックを外すと、[プリンタの設定]で指定した用紙サイズを使用します。</p> <p>詳しくは「5.2.6 画像に合わせて用紙サイズを選択する手順について」を参照してください</p>
ユーザー定義の用紙サイズを使用	<p>チェックを付けると、画像のサイズに合う用紙サイズが見つからなかった場合のみ、ユーザー定義の用紙サイズを使用します。</p> <p>この機能は、長尺の印刷や不定形の印刷に適しています。</p> <p>通常、ユーザー定義の用紙には任意の幅、高さを指定できます。</p> <p>KIPViewT は、画像のサイズに合わせて用紙の幅、高さを指定します。</p> <p>※ プリンタがユーザー定義の用紙(DMPAPER_USER)をサポートしている必要があります。また、用紙名はプリンタドライバ毎に異なる場合があります。</p> <p>※ ユーザー定義の用紙をサポートするすべてのプリンタに対して動作を保証するものではありません。</p>
ユーザー定義の上限:幅、高さ	<p>ユーザー定義の用紙でプリンタの有効範囲を超えないように用紙サイズを制限する設定です。(単位:ミリメートル)</p> <p>ゼロを設定した場合は、制限なしとして扱います。ゼロより大きい値を設定する場合は、縦置き(幅\leq高さ)になるようにしてください。</p>

注意

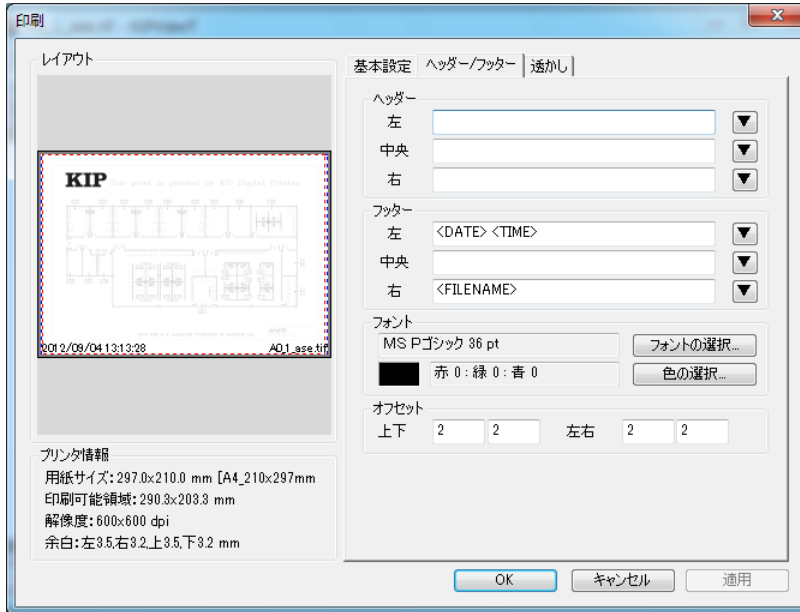
プリンタの用紙サイズ(ユーザー定義の用紙含む)には、3276.7mm を超える値を幅、高さに設定できません。これは OS の制限です。

また、制限を超える値を設定した用紙は、プリンタドライバで正常に処理できません。

名称	説明
高度な設定	<p>チェックを付けると設定の変更が可能な状態になります。 チェックの有無に関わらず、印刷時には設定した情報が使用されます。</p>
<p>最小輝度 (0 ~ 254)</p>	<p>縮小時に「黒」として印刷する画像の明るさの閾値を設定します。 通常は 254 に設定します。 値が小さくなるほど、細い線や小さな点などが印刷されなくなります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>小さな用紙サイズに印刷した結果、線がつぶれてしまう場合に値を小さくすると改善する場合があります。</p> <p>※ 値を変更しても「レイアウト」の画面には反映されません。 印刷した結果を確認してください。</p> <p>※ 「縮小時」とは、ファイルの画素数よりも印刷イメージの画素数の方が小さくなるような倍率のことをいいます。</p> <p>a. 拡大／縮小が「原寸大で印刷」で、 解像度が「ファイル＞プリンタ」の場合</p> <p>b. 拡大／縮小が「用紙に合わせて印刷」で、 解像度が「ファイル＝プリンタ」且つ、 印刷可能領域がファイルよりも小さい場合 …など</p>
注釈	<p>オプションの編集機能で追加した注釈の印刷について設定します。</p>
印刷する	<p>チェックを付けると、固定化していない注釈オブジェクトを印刷します。 チェックを外すと、固定化していない注釈オブジェクトは印刷しません。</p>

5.2.4 「ヘッダー/フッター」タブ

ヘッダー/フッターの設定を表示します。

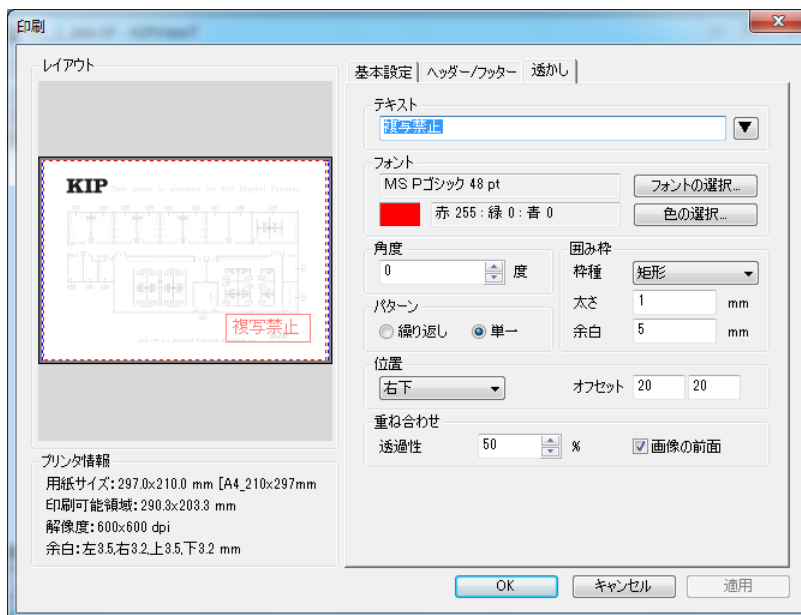


名称	説明
ヘッダー	
左	左上に印字する文字列を指定します。
中央	上中央に印字する文字列を指定します。
右	右上に印字する文字列を指定します。
[▼]	定義済みのマクロ文字を挿入するためのメニューを表示します。
フッター	
左	左下に印字する文字列を指定します。
中央	下中央に印字する文字列を指定します。
右	右下に印字する文字列を指定します。
[▼]	定義済みのマクロ文字を挿入するためのメニューを表示します。
フォント	
フォント設定	現在のフォント設定を表示します。
[フォントの選択...]	印字する文字列のフォントを選択します。 フォント名、サイズ、太字、斜体が指定可能です。
色設定	現在の色設定を表示します。
[色の選択...]	印字する文字列の色を選択します。

名称		説明
オフセット		
上下		上下のオフセット量をミリメートルで指定します。
左右		左右のオフセット量をミリメートルで指定します。

5.2.5 「透かし」タブ

透かしの設定を表示します。



名称		説明
テキスト		
入力ボックス		印字する文字列を入力します。 入力ボックスの右にある[▼]ボタンをクリックすると、定義済みのマクロ文字を挿入するためのメニューを表示します。
フォント		
フォント設定		現在のフォント設定を表示します。
[フォントの選択...]		印字する文字列のフォントを選択します。 フォント名、サイズ、太字、斜体が指定可能です。
色設定		現在の色設定を表示します。
[色の選択...]		印字する文字列の色を選択します。

名称		説明
角度		
	角度	回転角度を指定します。(単位:度) 反時計方向に回転します。
パターン		
	繰り返し	透かしを全面に繰り返し印字します。
	単一	位置の設定で指定した場所に印字します。
囲み枠		
	枠種	枠の形状を指定します。
	太さ	枠線の太さをミリメートルで指定します。
	余白	枠線と文字列の距離をミリメートルで指定します。
位置		
	原点	印字の原点を指定します。
	オフセット	原点からのオフセット量をミリメートルで指定します。
重ね合わせ		
	透過性	透かしの透過率をパーセントで指定します。 0を指定すると上書きになります。 100を指定すると透明になります。
	画像の前面	透かしと画像を重ねる順番を指定します。 チェックを付けると、透かしをを画像の前面に描画します。 チェックを外すと、透かしを画像の背面に描画します。画像の黒い箇所を優先します。

5.2.6 画像に合わせて用紙サイズを選択する手順について

用紙サイズは、画像と用紙それぞれの幅と高さから用紙サイズ名を判断して、画像と一致するものを選択します。

■処理の詳細

1. 画像の幅と高さを判定して、「画像の用紙サイズ名」を取得します。
2. プリンタがサポートする用紙のリスト(用紙名、幅、高さ)を取得します。
3. 取得した各用紙の幅と高さを判定して、「プリンタの用紙サイズ名」を取得します。
判定には「用紙サイズの編集」画面で設定した値を使用します。
4. 「画像の用紙サイズ名」と「プリンタの用紙サイズ名」が一致する場合は用紙選択の対象になります。

基本的には先に見つけた用紙を優先しますが、下記の例外があります。

3-A. 「画像の用紙サイズ名」と「用紙名」が一致する場合は、その用紙を使用します。

3-B. 「画像の用紙サイズ名」が「用紙名」に含まれる場合は、含む位置がその中で最も左にある用紙を使用します。

例1. 画像が 420 x 594mm / 用紙サイズ名「A2」の場合、
420.0 x 594.0mm / 用紙名「ISO A2」よりも、
420.0 x 594.0mm / 用紙名「A2」が優先されます。(用紙名が一致)

例2. 画像が 594 x 841mm / 用紙サイズ名「A1」の場合、
594.0 x 841.0mm / 用紙名「SIZE 1」よりも、
594.0 x 841.0mm / 用紙名「ISO A1」が優先されます。(用紙名に含む)

例3. 画像が 841 x 1189mm / 用紙サイズ名「A0」の場合、
841.0 x 1189.0mm / 用紙名「ISO A0」よりも、
841.0 x 1189.0mm / 用紙名「A0 SIZE」が優先されます。(含む位置が左)

5. 該当する用紙サイズが見つからない場合は、デフォルトの用紙サイズまたはユーザー定義の用紙サイズを使用します。
ユーザー定義の用紙サイズを使用する場合は、画像の幅、高さをそのまま設定します。
ユーザー定義の上限を設定している場合は、その値を上限として設定します。

確認

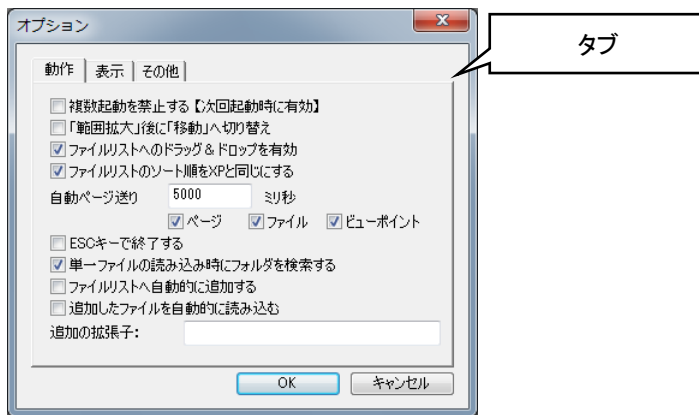
思うように用紙が選択されない場合は、「用紙サイズ編集」画面で「用紙サイズ名」の名称を変更したり、「最小」「最大」の範囲狭くしたりするなど設定を工夫してみてください。

5.3 「オプション」画面の詳細

ここでは、「オプション」画面の構成や機能の詳細について説明します。

この画面は、メニューバーの【ツール】-【オプション】を選択することで表示します。

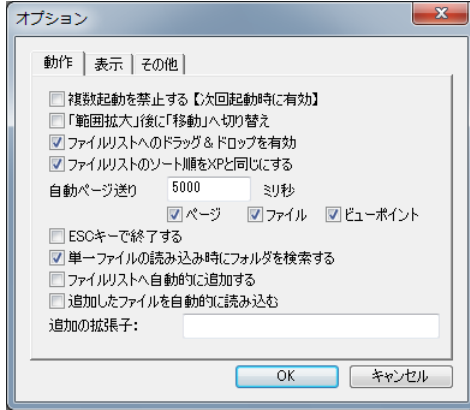
画面の切り替えは、タブのクリックで行います。



ボタン名称	機能
[OK]	設定した内容で更新して、「オプション」画面を閉じます。
[キャンセル]	設定した内容を破棄して、「オプション」画面を閉じます。

5.3.1 「動作」タブ

KIPViewT の基本動作を設定します。

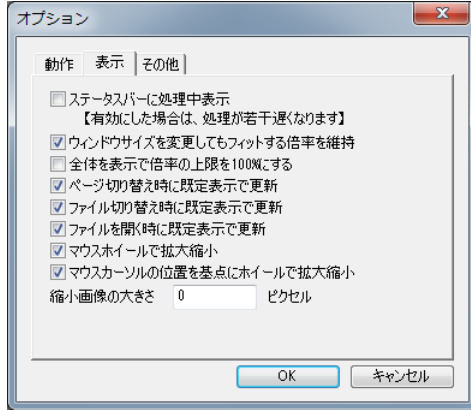


名称	機能
複数起動を禁止する	<p>チェックを付けたら、KIPViewT が複数起動しなくなります。</p> <p>チェックを外すと、KIPViewT は複数起動します。(初期値)</p> <p>※ 設定は次回起動時に有効になります。</p> <p>他のソフトウェアやシステムなどと連携させた結果、複数のビューアが起動することが好ましくない場合などに設定します。</p> <p>動作例:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.チェックが付いた状態で KIPViewT(A)を起動します。 2.引数にファイル名を設定して KIPViewT(B)を起動します。 3.先に起動していた KIPViewT(A)側でファイルが開きます。
「範囲拡大」後に「移動」へ切り替え	<p>チェックを付けたら、「範囲拡大」の操作を行った後に、自動で「移動」に切り替わります。</p> <p>チェックを外すと、「範囲拡大」と「移動」の状態は維持します。(初期値)</p> <p>※ 操作の好みによって設定を変更してください。</p>
ファイルリストへのドラッグ&ドロップを有効	<p>チェックを付けたら、「ファイルリスト」へのドラッグ&ドロップによるファイルやフォルダの追加が有効になります。(初期値)</p> <p>チェックを外すと、「ファイルリスト」へのドラッグ&ドロップは無効になります。</p> <p>※ 「4.3.14 【編集】ファイルリストの編集」を参照してください。</p>

名称		機能
ファイルリストのソート順をXPと同じにする		<p>チェックを付けると、ファイル名のソート順が Windows XP のエクスプローラと同等の処理になります。(初期値)</p> <p>チェックを外すと、ファイル名のソート順が ASCII コード順 (Windows 2000 や NT4.0 と同等)の処理になります。</p>
自動ページ送り	時間	<p>自動ページ送りで表示を切り替えるまでの時間を設定します。</p> <p>0を設定すると自動ページ送りの機能は無効になります。</p>
	対象	<p>チェックを付けた項目を対象に自動ページ送りを実行します。</p> <p>すべてのチェックを外すと自動ページ送りの機能は無効になります。</p>
ESC キーで終了する		<p>チェックを付けると、KIPViewT が ESC キーで終了するようになります。</p>
単一ファイルの読み込み時にフォルダを検索する		<p>一つのファイルを読み込んだ際の動作を設定します。</p> <p>チェックを付けると、同一フォルダの画像ファイルを検索してファイルリストに表示します。</p> <p>チェックを外すと、同一フォルダの画像ファイルを検索しません。</p> <p>※ 同一フォルダ内のファイル数が多い場合や、指定したファイル以外を参照しない場合は、チェックを外します。</p>
ファイルリストへ自動的に追加する		<p>チェックを付けると、現在開いているフォルダの状態を監視します。</p> <p>ファイルが追加されたり、更新されたりした場合、自動的にファイルリストへ追加します。</p> <p>チェックを外すと、機能は無効になります。</p> <p>※ この設定は、単一ファイルまたはフォルダを指定して読み込んだ場合のみ有効です。</p> <p>※ Windows 95/98/Me では無効です。</p>
追加したファイルを自動的に読み込む		<p>チェックを付けると、「ファイルリストへ自動的に追加する」の機能で追加したファイルを自動的に読み込みます。</p> <p>チェックを外すと、ファイルは自動的に読み込みません。</p> <p>※ Windows 95/98/Me では無効です。</p>
追加の拡張子		<p>「単一ファイルの読み込み時にフォルダを検索する」「ファイルリストへ自動的に追加する」で対象とする追加の拡張子を設定します。</p> <p>複数の拡張子を記述する場合は、カンマで区切ります。</p>

5.3.2 「表示」タブ

KIPViewT の表示動作を設定します。

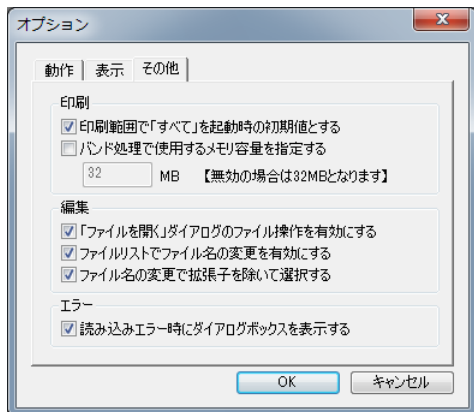


名称	機能
ステータスバーに処理中表示	チェックを付けると、ファイルを読み込む際にステータスバー「メニューの説明」の位置に「処理中」の表示をします。 チェックを外すと、「処理中」の表示はしません。(初期値) ※ チェックを付けると、読み込み処理の進行度を確認することはできませんが、処理自体は若干遅くなります。
ウィンドウサイズを変更してもフィットする倍率を維持	KIPViewT のウィンドウサイズを変更した場合の動作を設定します。 チェックを付けると、「全体を表示」「幅を基準に表示」「高さを基準に表示」のいずれかの場合にその設定に合わせて倍率が変化します。(初期値) チェックを外すと、倍率は変化しません。
全体を表示で倍率の上限を100%にする	チェックを付けると、「全体を表示」を実行した場合の倍率の上限が100%になります。 チェックを外すと、「全体を表示」を実行した場合は表示エリアに合わせた倍率になります。
ページの切り替え時に既定表示で更新	チェックを付けると、表示するページを切り替えた場合、「既定表示」の設定にしたがって、表示を更新します。 チェックを外すと、表示するページを切り替えた場合、現在の倍率や位置、回転を維持したまま表示を更新します。

名称	機能
ファイルの切り替え時に既定表示で更新	<p>チェックを付けると、表示するファイルを切り替えた場合、「既定表示」の設定にしたがって、表示を更新します。</p> <p>チェックを外すと、表示するファイルを切り替えた場合、現在の倍率や位置、回転を維持したまま表示を更新します。</p>
ファイルを開く時に既定表示で更新	<p>チェックを付けると、ファイルを開くやフォルダを開く、ドラッグ & ドロップなどで表示するファイルを変更した場合、「既定表示」の設定にしたがって、表示を更新します。</p> <p>チェックを外すと、ファイルを開くやフォルダを開く、ドラッグ & ドロップなどで表示するファイルを変更した場合、現在の倍率や位置、回転を維持したまま表示を更新します。</p>
マウスホイールで拡大縮小	<p>チェックを付けると、マウスホイールの回転に合わせて、拡大縮小します。奥に回転させると拡大、手前に回転させると縮小します。</p> <p>チェックを外すと、マウスホイールの回転に合わせて、上下にスクロールします。奥に回転させると上へ、手間に回転させると下へスクロールします。</p>
マウスカーソルの位置を基点にホイールで拡大縮小	<p>マウスホイールで拡大縮小する場合の基点を設定します。</p> <p>チェックを付けると、マウスカーソルの位置を基点にします。</p> <p>チェックを外すと、表示エリアの中心を基点にします。</p>
縮小画像の大きさ	<p>「ページリスト」「ファイルリスト」で、表示形式を「縮小画像」にした場合の画像の大きさを設定します。</p> <p>0を設定した場合は、規定値の128ピクセルになります。</p> <p>※ 大きな値を設定した場合、各リストのアイテム数によっては、すべての縮小画像を表示できないことがあります。</p>

5.3.3 「その他」タブ

KIPViewT のその他の動作を設定します。



名称	機能
印刷	
印刷範囲で「すべて」を起動時の初期値とする	印刷範囲の起動時の初期値を設定します。 チェックを付けると、「すべて」を初期値にします。 チェックを外すと、「現在のページ」または「現在のファイル」を初期値にします。
バンド処理で使用するメモリ容量を指定する	チェックを付けると、指定した値のメモリを上限にバンド処理を行います。 チェックを外すと、32MB を上限にバンド処理を行います。 ・ご使用のコンピュータの搭載メモリが少ない場合は値を小さくしてください。印刷時の処理速度が改善する可能性があります。 ・ご使用のプリンタによっては、バンド処理の境目に白線や黒線などが出ることがあります。その場合は、値を大きくしてください。使用するメモリの容量は増加しますが、印刷結果が改善する可能性があります。

名称	機能
編集	
「ファイルを開く」ダイアログのファイル操作を有効にする	<p>チェックを付けると、「ファイルを開く」画面でファイル操作(ファイル名の変更、コピー、削除、貼り付けなど)が有効になります。</p> <p>チェックを外すと、「ファイルを開く」画面ではファイル操作が無効になります。</p> <p>※ ファイル操作できることが好ましくない場合はチェックを外します。</p>
ファイルリストでファイル名の変更を有効にする	<p>チェックを付けると、「ファイルリスト」でファイル名の変更が有効になります。</p> <p>チェックを外すと、「ファイルリスト」でファイル名の変更が無効になります。</p> <p>※ ファイル名の変更ができることが好ましくない場合はチェックを外します。</p>
ファイル名の変更で拡張子を除いて選択する	<p>チェックを付けると、「ファイルリスト」のファイル名の変更で、拡張子を除いた文字を選択状態になります。</p> <p>チェックを外すと、「ファイルリスト」のファイル名の変更で、すべての文字を選択した状態になります。</p> <p>※ ファイル名の変更ができることが好ましくない場合はチェックを外します。</p>
エラー	
読み込みエラー時にダイアログボックスを表示する	<p>ファイルの読み込みエラーが発生した場合の処理を設定します。</p> <p>チェックを付けると、エラーのダイアログボックスを表示します。</p> <p>チェックを外すと、エラーのダイアログボックスは表示しません。</p> <p>※ ダイアログボックスを表示する動作が好ましくない場合はチェックを外します。</p>

※ 「バンド処理」とは、1つのページを複数のセクション(バンド)に分割する手法をいいます。印刷時に使用するメモリを削減するために行っています。

5.4 「用紙サイズ編集」画面の詳細

ここでは、「用紙サイズ編集」画面の構成や機能の詳細について説明します。
 この画面は、メニューバーの【ツール】-【用紙サイズ編集】を選択することで表示します。
 この設定は、「既定表示」の機能やステータスバーに表示する「用紙サイズ名」で使用します。



ボタン名称	機能
[追加]	用紙サイズリストの最後に行を追加します。
[削除]	選択している(背景が水色)用紙サイズを削除します。
[表示更新]	「用紙サイズリスト」をソートして表示を更新します。
[OK]	「用紙サイズリスト」をソートし、設定した内容で更新して、「用紙サイズ編集」画面を閉じます。
[キャンセル]	設定した内容を破棄して、「用紙サイズ編集」画面を閉じます。

■ ソートの順番

用紙サイズは、以下のルールで自動的にソートします。
 任意の順番に変更することはできません。

1. 「高さの最大値」を比較して小さい順にソートします。
2. 「高さの最大値」が同じ場合は、「幅の最大値」を比較して小さい順にソートします。
3. 「幅の最大値」が同じ場合は、「用紙サイズ名」を比較して小さい順にソートします。

5.4.1 用紙サイズリスト

用紙サイズを判断するための幅と高さを設定します。

用紙サイズ名	幅			高さ		
	最小 \leq	基準値	<最大	最小 \leq	基準値	<最大
A4	1	210	220	1	297	307
A3	1	297	307	1	420	430
A2	1	420	430	1	594	604
A1	1	594	604	1	841	851
A0	1	841	851	1	1189	1199
LA4	1	210	220	1	6000	15000
LA3	1	297	307	1	6000	15000
LA2	1	420	430	1	6000	15000

名称		説明
用紙サイズ名		用紙サイズの名称を設定します。 設定した値は、「既定表示」の用紙サイズ名で使われます。 設定した値は、ステータスバーに表示する用紙サイズ名となります。
幅	最小 \leq	幅の最小値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。
	基準値	幅の基準値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。
	<最大	幅の最大値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。
高さ	最小 \leq	高さの最小値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。
	基準値	高さの基準値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。
	<最大	高さの最大値をミリメートルで設定します。少数の指定も可能です。

※必ず縦置き「幅 \leq 高さ」になるように設定してください。

5.4.2 用紙サイズの判断について

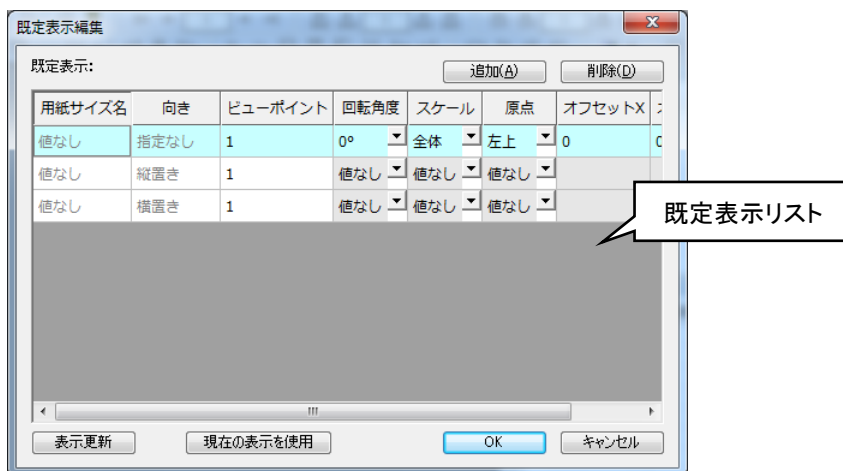
用紙サイズの判断は、「用紙サイズリスト」の上から順番に確認をして、最初に見つかった用紙サイズ名が適用されます。

■処理の詳細

1. 画像の向き(縦置き,横置き)を判断します。
短辺を「幅」、長辺を「高さ」として扱います。
2. 「用紙サイズリスト」の上から順に確認し、最初に以下の二つの条件を満たした用紙サイズ名が、画像の用紙サイズとして適用されます。
 - a. 幅の最小値 \leq 「幅」<幅の最大値であること
 - b. 高さの最小値 \leq 「高さ」<高さの最大値であること

5.5 「既定表示編集」画面の詳細

ここでは、「既定表示編集」画面の構成や機能の詳細について説明します。
 この画面は、メニューバーの【ツール】-【既定表示編集】を選択することで表示します。
 この設定は、「既定表示」機能で使用します。



ボタン名称	機能
[追加]	用紙サイズリストの最後に行を追加します。
[削除]	選択している(背景が水色)用紙サイズを削除します。
[表示更新]	「既定表示」をソートし、ビューポイントの値を調整して表示を更新します。
[現在の表示を使用]	ビューエリアに表示している状態で、既定表示の設定値を更新します。
[OK]	設定した内容で更新して、「既定表示編集」画面を閉じます。
[キャンセル]	設定した内容を破棄して、「既定表示編集」画面を閉じます。

5.5.1 既定表示リスト

用紙サイズ毎の「既定表示」機能の動作を設定します。

用紙サイズ名	向き	ビューポイント	回転角度	スケール	原点	オフセットX	オフセットY
値なし	指定なし	1	0°	全体	左上	0	0
値なし	縦置き	1	値なし	値なし	値なし		
値なし	横置き	1	値なし	値なし	値なし		

名称	説明	
用紙サイズ名	「用紙サイズ編集」画面で設定した用紙サイズ名を設定します。 ※詳しくは「5.4 「用紙サイズ編集」画面の詳細」を参照してください。	
向き	用紙の向きを設定します。	
	指定なし	同一の用紙サイズ名で、「縦置き」または「横置き」の設定が存在しない場合に参照する設定です。
	縦置き	「幅≤高さ」の場合に参照する設定です。
	横置き	「幅>高さ」の場合に参照する設定です。
ビューポイント	ビューポイントの番号を設定します。 設定した番号の順番でビューポイントが切り替わります。	
回転角度	回転角度を設定します。	
	値なし	設定値がないものとして扱います。
	0°	0° の回転角度で表示します。
	左 90°	左 90° の回転角度で表示します。
	180°	180° の回転角度で表示します。
	右 90°	右 90° の回転角度で表示します。
スケール	表示の倍率を設定します。	
	値なし	設定値がないものとして扱います。
	全体	表示エリアに合わせて画像の全体を表示します。
	幅を基準	表示エリアの幅に合わせて画像の全体を表示します。
	高さを基準	表示エリアの高さに合わせて画像の全体を表示します。
	任意の数字	指定した倍率(%)で画像を表示します。

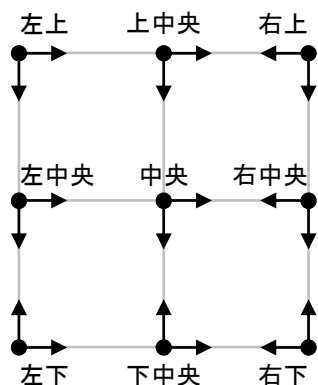
名称	説明										
原点 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>左上</td> <td>上中央</td> <td>右上</td> </tr> <tr> <td>左中央</td> <td>中央</td> <td>右中央</td> </tr> <tr> <td>左下</td> <td>下中央</td> <td>右下</td> </tr> </table>	左上	上中央	右上	左中央	中央	右中央	左下	下中央	右下	回転とスケールの適用後に処理するオフセット X,Y の原点を設定します。	
	左上	上中央	右上								
	左中央	中央	右中央								
	左下	下中央	右下								
	値なし	設定値がないものとして扱います。									
	左上	画像の左上を原点として表示します。									
	上中央	画像の上部の中央を原点として表示します。									
	右上	画像の右上を原点として表示します。									
	左中央	画像の左側の中央を原点として表示します。									
	中央	画像の中央を原点として表示します。									
	右中央	画像の右側の中央を原点として表示します。									
左下	画像の左下を原点として表示します。										
下中央	画像の下部の中央を原点として表示します。										
右下	画像の右下を原点として表示します。										
オフセット X	原点からの横方向のオフセット量をミリメートルで設定します。 負の値も設定可能です。										
オフセット Y	原点からの縦方向のオフセット量をミリメートルで設定します。 負の値も設定可能です。										

注意

先頭の 3 行は「値なし」の特殊な設定です。「用紙サイズ名」「向き」は修正できません。「回転角度」「スケール」「原点」のすべてが「値なし」と設定された場合は、不要な情報として保存されません。いずれか 1 つの項目で「値なし」以外を設定する必要があります。

確認

「オフセット X」「オフセット Y」の値は、原点の位置によって、オフセットの方向が異なります。下図を参考に値を設定してください。●→が正のオフセット方向になります。



5.5.2 既定表示の機能について

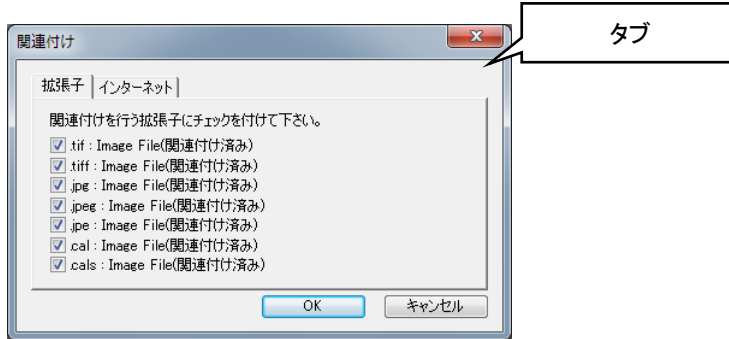
既定表示とは、画像の「用紙サイズ」と「向き」別に、「回転角度」「スケール」「原点とオフセット」を設定して画像を表示する機能です。

■ 処理の詳細

1. 画像の用紙サイズを判断し、「用紙サイズ名」を取得します。
詳しくは「5.4.2 用紙サイズの判断について」を参照してください。
2. 画像の向きを判断し、「向き」を取得します。
【縦置き】: 幅と高さを比較して、「幅 \leq 高さ」の場合
【横置き】: 幅と高さを比較して、「幅 $>$ 高さ」の場合
3. 現在のビューポイント番号を取得します。
番号は、メイン画面のツールバー「ビューポイント」に表示しています。
4. 「回転」「スケール」「原点」それぞれの設定値を取得します。
以下の順番で、既定表示の設定から該当する設定を探して、設定値を取得します。
 - a. 「用紙サイズ名」と「向き: 縦置き, 横置き」および「ビューポイント番号」
 - b. 「用紙サイズ名」と「向き: 指定なし」および「ビューポイント番号」
 - c. 「用紙サイズ名: 値なし」と「向き: 縦置き, 横置き」
 - d. 「用紙サイズ名: 値なし」と「向き: 指定なし」
5. 取得した設定値に従って、以下の順番で画像の表示を更新します。
 - a. 「回転」の設定値を基に、回転角度を更新
 - b. 「スケール」の設定値を基に、倍率を更新
 - c. 「原点」と「オフセット X」「オフセット Y」の設定値を基に、表示位置を更新

5.6 「関連付け」画面の詳細

ここでは、「関連付け」画面の構成や機能の詳細について説明します。
 この画面は、メニューバーの【ツール】-【関連付け】を選択することで表示します。
 画面の切り替えは、タブのクリックで行います。



名称	機能
[OK]	設定した内容で更新して、「関連付け」画面を閉じます。 ※ OS の再起動が必要な場合があります。
[キャンセル]	設定した内容を破棄して、「関連付け」画面を閉じます。

5.6.1 「拡張子」タブ

拡張子の関連付けを設定します。

関連付けを行うと、エクスプローラやマイコンピュータなどから、ファイルをダブルクリックすると自動的に KIPViewT が起動して画像を表示することができるようになります。



名称	機能
<input type="checkbox"/> .tif : ~	チェックを付けると、KIPViewT と拡張子を関連付けします。既に別のソフトウェアが関連付けられていた場合は、その設定をバックアップします。 チェックを外すと、KIPViewT と拡張子との関連付けを解除します。バックアップした設定がある場合は、その設定で関連付けを戻します。 ※ 既に KIPViewT との関連付けが完了している場合は、「関連付け済み」と表示します。
<input type="checkbox"/> .tiff : ~	
<input type="checkbox"/> .jpg : ~	
<input type="checkbox"/> .jpeg : ~	
<input type="checkbox"/> .jpe : ~	
<input type="checkbox"/> .cal : ~	
<input type="checkbox"/> .cals : ~	

注意

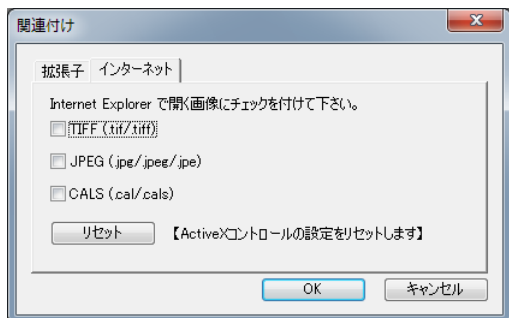
KIPViewT との関連付けを実行した後に関連付けを解除した場合、設定は元に戻しますが、過去に関連付けられていたソフトウェアでの動作を保証するものではありません。関連付けを行う際は、ご注意ください。

5.6.2 「インターネット」タブ

Web ブラウザーへの関連付けを設定します。

関連付けを行うと、Internet Explorer でインターネット上のファイルを読み込んだり、ファイルをドラッグ&ドロップしたりすると、画像を表示することができるようになります。

機能の詳細については、「付録 C Web ブラウザーのアドオン機能」を参照してください。



名称	機能
<input type="checkbox"/> TIFF (.tif/.tiff) <input type="checkbox"/> JPEG (.jpg/.jpeg/.jpe) <input type="checkbox"/> CALS (.cal/.cals)	チェックを付けると、KIPViewT と MIME タイプを関連付けします。既に別のソフトウェアが関連付けられていた場合は、その設定をバックアップします。 チェックを外すと、KIPViewT と MIME タイプとの関連付けを解除します。バックアップした設定がある場合は、その設定で関連付けを戻します。 ※ 既に KIPViewT との関連付けが完了している場合は、「関連付け済み」と表示します。
[リセット]	ActiveXコントロールの設定を現在の KIPViewT の設定でリセットします。

注意

KIPViewT との関連付けを実行した後に関連付けを解除した場合、設定は元に戻しますが、過去に関連付けられていたソフトウェアでの動作を保証するものではありません。関連付けを行う際は、ご注意ください。

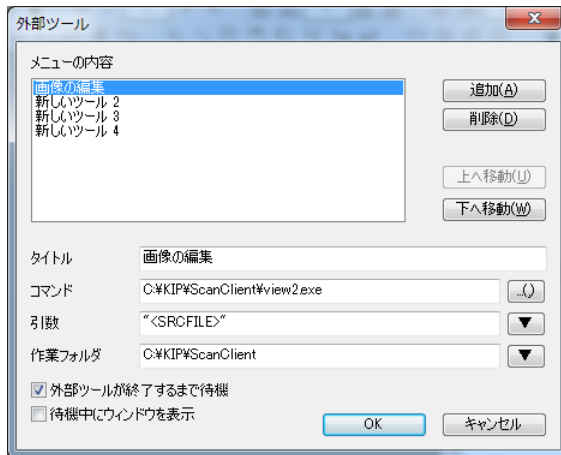
5.7 「外部ツール」画面の詳細

ここでは、「外部ツール」画面の構成や機能の詳細について説明します。

この画面は、メニューバーの【ツール】-【外部ツール】を選択することで表示します。

外部ツールを登録すると、KIPViewT で画像を表示しながら、ほかのアプリケーションを簡単に起動できます。ツールの起動時には、引数と作業フォルダを指定できます。

登録した外部ツールは、メニューバーの【ツール】とツールバーの「外部ツール」に自動的に追加されます。



名称	機能
メニューの内容	登録した外部ツールのリストを表示します。 表示している順番にメニューバーとツールバーに追加します。
[追加]	「タイトル」「コマンド」「引数」「作業フォルダ」および、チェックボックスを初期化して、新規に外部ツールを追加します。
[削除]	「メニューの内容」で選択しているツールをリストから削除します。
[上へ移動]	「メニューの内容」で選択しているツールの位置を上へ移動します。
[下へ移動]	「メニューの内容」で選択しているツールの位置を下へ移動します。
タイトル	メニューバーの【ツール】に表示する外部ツールの名前を入力します。 アンパサンド"&"の文字を入力すると、その直後の文字がアクセラレータキーとして使用されます。 例 「編集(&E)」 ⇒ 「編集(E)」
コマンド	起動する外部ツールのファイル名を指定します。 入力ボックスの右にある[...(.)]ボタンをクリックすると「ファイルを開く」画面を表示しますので、ファイルを選択して指定することも可能です。

名称	機能														
引数	<p>外部ツールの起動時に使用する引数を指定します。 引数を使用しない場合は、空欄にします。 入力ボックスの右にある[▼]ボタンをクリックすると、定義済みのマクロ文字を挿入するためのメニューを表示します。</p> <table border="1" data-bbox="441 461 1177 1016"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表示中のファイル名</td> <td><SRCFILE> 現在表示している画像のファイル名</td> </tr> <tr> <td>表示中のフォルダ名</td> <td><SRCDIR> 現在表示している画像のフォルダ名</td> </tr> <tr> <td>表示中のページ番号 1～</td> <td><PAGE> 現在表示している画像のページ番号 番号は 1 から開始します。</td> </tr> <tr> <td>表示中のページ番号 0～</td> <td><PAGE0> 現在表示している画像のページ番号 番号は 0 から開始します。</td> </tr> <tr> <td>コマンドのフォルダ名</td> <td>「コマンド」に指定したファイル名から取得</td> </tr> <tr> <td>KIPViewT の実行フォルダ名</td> <td><APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名</td> </tr> </tbody> </table>	名称	説明	表示中のファイル名	<SRCFILE> 現在表示している画像のファイル名	表示中のフォルダ名	<SRCDIR> 現在表示している画像のフォルダ名	表示中のページ番号 1～	<PAGE> 現在表示している画像のページ番号 番号は 1 から開始します。	表示中のページ番号 0～	<PAGE0> 現在表示している画像のページ番号 番号は 0 から開始します。	コマンドのフォルダ名	「コマンド」に指定したファイル名から取得	KIPViewT の実行フォルダ名	<APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名
名称	説明														
表示中のファイル名	<SRCFILE> 現在表示している画像のファイル名														
表示中のフォルダ名	<SRCDIR> 現在表示している画像のフォルダ名														
表示中のページ番号 1～	<PAGE> 現在表示している画像のページ番号 番号は 1 から開始します。														
表示中のページ番号 0～	<PAGE0> 現在表示している画像のページ番号 番号は 0 から開始します。														
コマンドのフォルダ名	「コマンド」に指定したファイル名から取得														
KIPViewT の実行フォルダ名	<APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名														
作業フォルダ	<p>外部ツールの起動時のフォルダ名を指定します。(空欄可) 入力ボックスの右にある[▼]ボタンをクリックすると、定義済みのマクロ文字を挿入するためのメニューを表示します。</p> <table border="1" data-bbox="441 1211 1177 1371"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コマンドのフォルダ名</td> <td>「コマンド」に指定したファイル名から取得</td> </tr> <tr> <td>KIPViewT の実行フォルダ名</td> <td><APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名</td> </tr> </tbody> </table>	名称	説明	コマンドのフォルダ名	「コマンド」に指定したファイル名から取得	KIPViewT の実行フォルダ名	<APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名								
名称	説明														
コマンドのフォルダ名	「コマンド」に指定したファイル名から取得														
KIPViewT の実行フォルダ名	<APPPATH> KIPViewT の実行フォルダ名														
外部ツールが終了するまで待機	<p>チェックを付けると、起動した外部ツールが終了するまで、待機します。待機中は、KIPViewT が操作できません。 チェックを外すと、外部ツールを起動した後も KIPViewT が操作できます。</p>														
待機中にウィンドウを表示	<p>チェックを付けると、KIPViewT のウィンドウを表示したまま待機します。ただし、操作はできません。 チェックを外すと、KIPViewT のウィンドウは非表示になります。</p>														

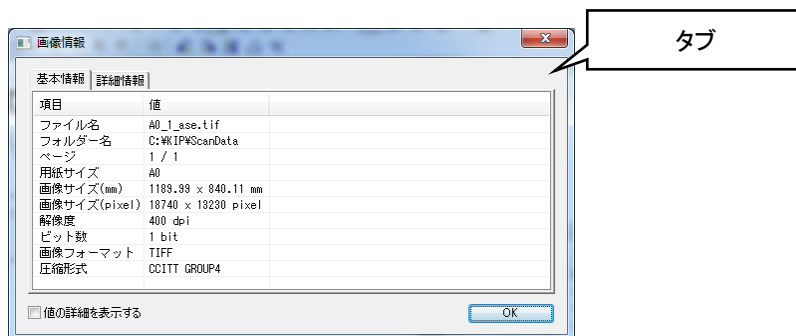
名称	機能
[OK]	設定した内容で更新して、「外部ツール」画面を閉じます。
[キャンセル]	設定した内容を破棄して、「外部ツール」画面を閉じます。

確認

外部ツールが、引数の内容を正しく取得できない場合は、引数をダブルクォーテーション(“)で囲んでください。

5.8 「画像情報」画面の詳細

ここでは、「画像情報」画面の構成や機能の詳細について説明します。
 この画面は、メニューバーの【表示】-【画像情報】を選択することで表示します。
 画面の切り替えは、タブのクリックで行います。

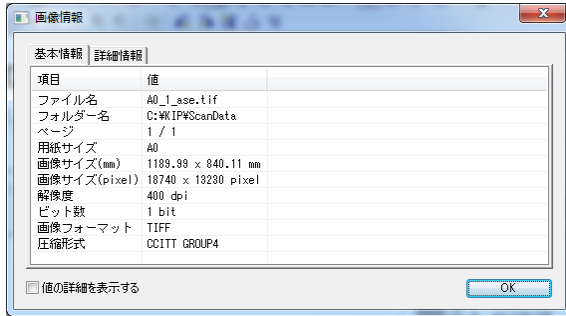


名称	機能
値の詳細を表示する	「詳細情報」タブに表示する値を詳細に記述します。
[OK]	「画像情報」画面を閉じます。

5.8.1 「基本情報」タブ

画像の基本的な情報を表示します。

表示している情報はクリップボードにコピーすることができます。

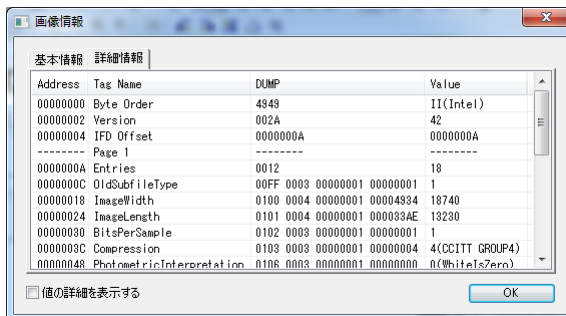


5.8.2 「詳細情報」タブ

画像の詳細な情報を表示します。

TIFF 形式の場合はタグ情報、JPEG 形式の場合は Exif 情報を表示します。

表示している情報はクリップボードにコピーすることができます。



<空白ページ>

付録

付録 A リストファイルの仕様

ここでは、KIPViewT で使用するリストファイルの仕様について説明します。

A.1 仕様

- ・ テキスト形式のファイル
- ・ 文字コードは Shift-JIS
- ・ 1 行毎にファイル名を記述
- ・ 記述した順番にファイルリストに表示
- ・ ドライブ名(X:¥)や UNC 名(¥¥コンピュータ名¥共有名¥...)、URL(HTTP://ホスト名/...)を含むフルパスまたはファイル名のみを記述
- ・ 行頭に"#"を記述するとコメント行として無視
- ・ 改行のみの行は無視
- ・ リストファイルの読み込み時には、対象ファイルの有無は確認しない

確認

ファイル名のみを記述した場合は、リストファイルと同じフォルダのファイルを読み込みの対象とします。

また、対象のファイルが存在しない場合は、最初の表示やファイルの切り替え時にエラーを表示します。

注意

URL の場合、HTTP、HTTPS のプロトコルに対応しています。FTP やその他のプロトコルには対応していません。

A.2 記述例

```
# リストファイルのサンプル
# 【書式】ドライブ名や UNC 名、URL (HTTP のみ) を含むフルパスのファイル名
#     行頭に“#”を記述するとコメント行として無視します。
#     改行のみの場合も無視します。
#     リストファイルの読み込み時に対象ファイルの有無は確認しません。
```

```
C:\Sample\TIFF\A4Y.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A3Y.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A2Y.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A1Y.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A0Y.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A4T.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A3T.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A2T.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A1T.TIF
```

```
C:\Sample\TIFF\A0T.TIF
```

```
\\SERVER\SHARE\Sample\TIFF\UNCPATH.TIF
```

```
http://www.example.com/sample/example.tif
```

確認

背景がグレーの行はコメントまたは無効な行として無視します。

付録 B 管理者向けの機能

ここでは、システム管理者向けの機能について説明します。

記載してある内容に関する知識が十分でない場合、これらの機能を利用する際はご注意ください。

B.1 サイレントインストール

サイレントインストールは、インストール画面を表示せず、ユーザーからの入力を必要としないインストール方法です。

システム管理者の方が複数台のコンピュータに KIPViewT を一括でインストールする場合などにご利用いただくと便利な機能です。

■ 応答ファイルの作成

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. 引数に「-r」と「-f1」のオプションを指定して「Setup.exe」を実行します。
※「-f1」は空白をあげずに、応答ファイル名をフルパスで指定します。

(例) `D:¥Setup.exe -r -f1C:¥Setup.iss`

3. サイレントインストールで実行させる操作で KIPViewT のインストールを実行します。
インストール時の操作が応答ファイルに記録されます。
ここで作成した応答ファイルと Setup.exe を使用してサイレントインストールを実行します。

■ サイレントインストールの実行

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. 引数に「-s」と「-f1」のオプションを指定して「Setup.exe」を実行します。
インストールが完了すると、応答ファイルと同じフォルダにログファイルを作成します。
※「-f1」は空白をあげずに、応答ファイル名をフルパスで指定します。
※ログファイルを任意のフォルダに作成する場合は「-f2」オプションを使用します。

(例) `D:¥Setup.exe -s -f1C:¥Setup.iss`

(例) `D:¥Setup.exe -s -f1D:¥Setup.iss -f2C:¥Setup.log`

■ ログファイル「Setup.log」について

ログファイルはインストールの成否にかかわらず作成されます。
インストールが正常に完了しない場合は、ログファイルの内容を確認してください。
確認する箇所は、[ResponseResult] セクション ResultCode の値です。
※ResultCode の値が 0 の場合は正常です。

ResultCode の主なエラーコード

値	説明
-1	一般エラー
-2	無効なモードです。
-3	Setup.iss ファイルに必要なデータがありません。
-4	メモリが不足しています。
-5	ファイルが見つかりません。
-6	応答ファイルに書き込めません。
-7	ログファイルに書き込めません。
-8	サイレントインストールの応答ファイルのパスが間違っています。
-9	有効なリストタイプではありません。(文字列または数値)
-10	データタイプが無効です。
-11	セットアップ中に不明エラーが発生しました。
-12	ダイアログボックスが実行できません。
-51	指定されたフォルダを作成できません。
-52	指定されたファイルまたはフォルダにアクセスできません。
-53	選択したオプションは無効です。

B.2 シリアル No とライセンスコードの入力を省略したインストール

シリアル No とライセンスコードの入力を省略したインストールは、インストール途中の「ライセンスコード入力」画面で入力の手間を省略化するインストール方法です。

システム管理者の方が複数台のコンピュータに KIPViewT を一括でインストールする場合やライセンスコードの内容を意識せずにオペレータにインストールさせる場合などにご利用いただくと便利な機能です。

■ インストールの準備

インストールに必要な情報を記述したバッチファイルを作成します。

1. メモ帳などのテキストエディタを開きます。
2. 下記の例を参考に環境に合わせたコマンドラインを記述します。
※「SERIALNO=」には空白を空けずに「シリアル No」を指定します。
※「LICENSECODE=」には空白を空けずに「ライセンスコード」を指定します。

(例) START Setup.exe SERIALNO=TW-527-##-##### LICENSECODE=#####

3. 拡張子が「BAT」となるようにファイル名を付けて保存します。
※通常は Setup.exe と同じフォルダに作成します。

(例) INSTALL.BAT

4. INSTALL.BAT を実行して、「シリアル No」と「ライセンスコード」が正しく指定されているかを確認します。

■ インストールの実行

「インストールの準備」の手順で作成した INSTALL.BAT を実行してインストールを行います。

B.3 ログオンユーザーごとに設定を保存する

通常は KIPViewT の設定を、インストールしたフォルダの設定ファイルに保存しています。しかし、同一の PC を複数のユーザーが使用したり、ドメインやシンクライアントの環境で同一ユーザーが異なる PC で同じ環境を使用したりする場合などは、ログオンユーザーごとに設定を保存した方が良い場合があります。そのような場合にご利用いただくと便利な機能です。

■ 準備

1. KIPViewT をインストールします。
2. KIPViewT を起動します。
3. 必要に応じて、オプションや用紙サイズ、既定表示などの設定を行います。
4. KIPViewT を終了します。

■ 設定作業

1. エクスプローラなどで KIPViewT をインストールしたフォルダを参照します。
通常は、"C:\¥KIP¥KIPView" です。
2. 設定ファイル "KIPViewT.ini" をダブルクリックします。
メモ帳が起動して、ファイルを読み込みます。
3. [Security]セクションの PerUserSetting キーの下記の値をプラス "+" に変更します。

変更前	変更後
[Security] PerUserSetting=-	[Security] PerUserSetting=+

4. 上書き保存して、メモ帳を終了します。
5. 管理者以外が設定を変更できないように、インストールしたフォルダ以下のファイルのセキュリティ設定を変更します。

■ 設定の保存先

設定の変更後は、ユーザーのアプリケーションデータフォルダに設定を保存します。

例) C:\Documents and Settings\username\Application Data\KIP\KIPViewT

ユーザーが初めて KIPViewT を起動した場合は、フォルダを作成するか確認メッセージを表示します。

また、設定ファイルが見つからない場合は、インストールしたフォルダからコピーします。

注意

KIPViewT をアンインストールした場合はユーザーごとに保存した設定は削除しません。手動で設定ファイルを削除してください。

確認

[Security]セクションの設定は、必ずインストールしたフォルダの設定ファイルを参照します。

B.4 機能制限をかける

セキュリティや他のシステムとの連携で機能を制限したい場合にご利用いただくと便利な機能です。

印刷の禁止やファイル操作の禁止、一部機能の設定変更の禁止などが行えます。

前述の「B.3 ログオンユーザーごとに設定を保存する」と組み合わせると、強固な機能制限になります。

■ 準備

1. KIPViewT をインストールします。
2. KIPViewT を起動します。
3. 必要に応じて、オプションや用紙サイズ、既定表示などの設定を行います。
4. KIPViewT を終了します。

■ 設定作業

1. エクスプローラなどで KIPViewT をインストールしたフォルダを参照します。
通常は、"C:¥KIP¥KIPView" です。
2. 設定ファイル "KIPViewT.ini" をダブルクリックします。メモ帳が起動して、ファイルを読み込みます。
3. 必要に応じて、[Security]セクションの設定値を変更します。

キー	説明
SingleBoot	「オプション」画面の「複数起動を禁止する」の設定を制限します。 “+” を設定した場合、有効です。(設定変更が可能) “-” を設定した場合、無効です。(設定変更は不可能) ※ 設定が変更されると困る場合は、“-” を設定します。
FileOpenWithDir	一つのファイルを読み込んだ際の動作を制限します。 “+” を設定した場合、同一フォルダの画像ファイルを検索してファイルリストに表示します。 “-” を設定した場合、同一フォルダの画像ファイルを検索しません。 ※ 同一フォルダ内のファイル数が多い場合や、指定したファイル以外を参照させたく場合は、“-” を設定します。

キー	説明
FileOpenDlgReadOnly	「ファイルを開く」ダイアログ内でのファイル操作(ファイル名の変更、切り取り、コピー、貼り付け、削除、右クリック、ドラッグ&ドロップ)を制限します。 “+”を設定した場合、ファイル操作を無効にします。 “-”を設定した場合、ファイル操作を有効にします。 ※ サーバー上の共有データなど、ファイル操作を行わせたくない場合に設定します。
EditFileList	ファイルリストのメニュー【ファイル名の変更】を制限します。 “+”を設定した場合、【ファイル名の変更】を無効にします。 “-”を設定した場合、【ファイル名の変更】を有効にします。 ※ サーバー上の共有データなど、ファイル操作を行わせたくない場合に設定します。
FileOpen	メニューとツールバーの【開く】を制限します。 “+”を設定した場合、【開く】を有効にします。 “-”を設定した場合、【開く】を無効にします。
FileOpenDirectory	メニューとツールバーの【フォルダを開く】を制限します。 “+”を設定した場合、【フォルダを開く】を有効にします。 “-”を設定した場合、【フォルダを開く】を無効にします。
FilePrint	メニューとツールバーの【印刷】を制限します。 “+”を設定した場合、【印刷】を有効にします。 “-”を設定した場合、【印刷】を無効にします。 ※ 印刷させたくない場合に設定します。
FileListAdd	ファイルリストのメニュー【追加】とファイルリストへのドラッグ&ドロップを制限します。 “+”を設定した場合、【追加】とドラッグ&ドロップを有効にします。 “-”を設定した場合、【追加】とドラッグ&ドロップを無効にします。
EditCopy	メニューとツールバーの【コピー】を制限します。 “+”を設定した場合、【コピー】を有効にします。 “-”を設定した場合、【コピー】を無効にします。

4. 上書き保存して、メモ帳を終了します。

確認

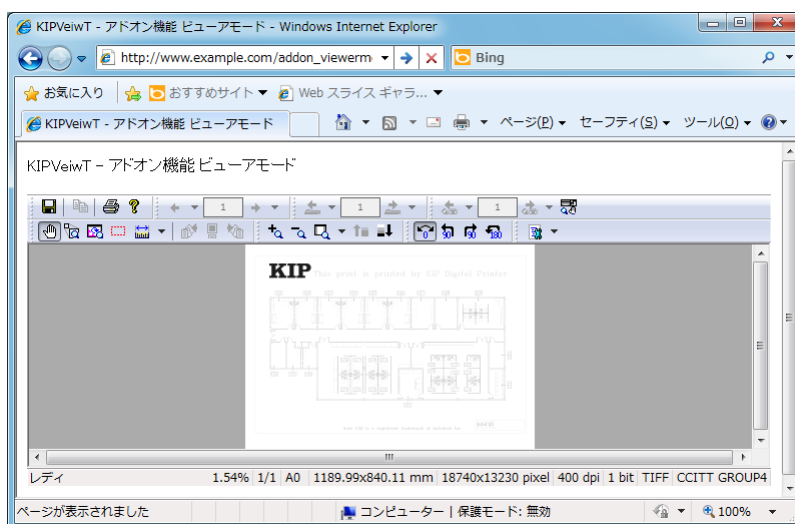
[Security]セクションの設定は、必ずインストールしたフォルダの設定ファイルを参照します。

付録 C Web ブラウザーのアドオン機能

ここでは、Web ブラウザーで利用可能なアドオン(ActiveX コントロール)機能について説明します。記載してある内容に関する知識が十分でない場合、これらの機能を利用する際はご注意ください。

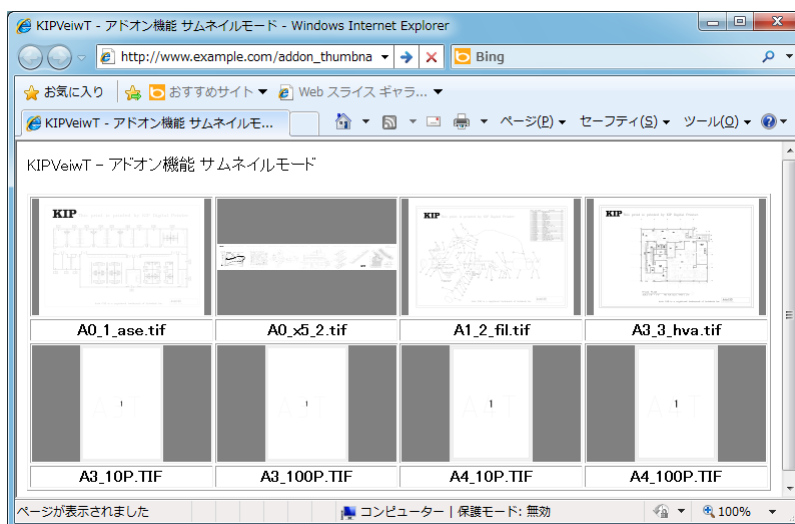
■ ビューアモード

KIPViewT と同等の表示機能を持つモードです。



■ サムネイルモード

縮小画像を表示するモードです。画像をクリックするとビューア画面がポップアップします。



C.1 動作環境

■ Web ブラウザー

Internet Explorer 6 (日本語版/英語版) 32 ビット版

Internet Explorer 7 (日本語版/英語版) 32 ビット版

Internet Explorer 8 (日本語版/英語版) 32 ビット版

Internet Explorer 9 (日本語版/英語版) 32 ビット版

注意

64 ビット版の OS を使用している場合は、32 ビット版の Web ブラウザーを起動してください。

Firefox、Safari、Opera など、その他の Web ブラウザーには対応していません。

Web ブラウザーや OS のセキュリティ設定によっては、動作しない場合があります。必要に応じてセキュリティ設定を調整してください。

■ 対応フォーマット

TIFF ファイル

JPEG 形式

注意

リストファイル形式には対応していません。

アドオン機能では、利用可能なメモリが少なくなるため、画像の大きさと解像度、色数によっては、通常の KIPViewT で表示できる画像が、読み込めない場合があります。

C.2 ActiveX コントロール仕様

■ ファイル名

KIPViewT.ocx

■ CLSID

{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}

■ パラメーター

項目名	機能	省略時
URL	ファイル名 (<object data="">の値が優先)	値なし
THUMBNAIL	サムネイルモード (0=自動切り替え/1=サムネイルモード/2=ビューアモード)	0
THUMPOPUXMAX	サムネイルモードからのポップアップを最大化 (0=自動/1=常に最大化)	0
PAGENUM	開始ページ番号 (1~)	1
AUTOTHUMBWIDTH	自動サムネイルモードの幅	100
AUTOTHUMBHEIGHT	自動サムネイルモードの高さ	100
SAVECOPY	【コピーを保存】の有効無効 (0=無効/1=有効)	0

■ レジストリ

下記のレジストリを使用します。

○ActiveX の登録時に下記のレジストリを作成

HKEY_CLASSES_ROOT¥KIPVIEWT.KIPViewTCtrl.1
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}
HKEY_CLASSES_ROOT¥.kiptif
HKEY_CLASSES_ROOT¥MIME¥Database¥Content Type¥application/x-kipviewt

○【関連付け】を行なった場合は下記のレジストリを変更

HKEY_CLASSES_ROOT¥.tif
HKEY_CLASSES_ROOT¥.tiff
HKEY_CLASSES_ROOT¥.jpg
HKEY_CLASSES_ROOT¥.jpeg
HKEY_CLASSES_ROOT¥.jpe
HKEY_CLASSES_ROOT¥.cal
HKEY_CLASSES_ROOT¥.cals
HKEY_CLASSES_ROOT¥MIME¥Database¥Content Type¥image/tiff
HKEY_CLASSES_ROOT¥MIME¥Database¥Content Type¥image/jpeg
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.tif
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.tiff
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.jpg
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.jpeg
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.jpe
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.cal
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3}¥EnableFullPage¥.cals

■ 設定ファイルの保存場所

Windows 2000/XP

%USERPROFILE%¥Local Settings¥Applicaiton Data¥KIP¥KIPViewT¥BrowserAddon

Windows Vista/7

%USERPROFILE%¥AppData¥LocalLow¥KIP¥KIPViewT¥BrowserAddon
--

C.3 HTML 記述例

■ 【コピーを保存】有効

```
<html>
<head>
  <title>KIPVeiwT - サンプル 1</title>
</head>
<body>
  <object type="application/x-kipviewt" data="http://www.example.com/tiff/image.tif"
width="100%" height="100%">
    <param name="THUMBNAIL" value="0">
    <param name="SAVECOPY" value="1">
  </object>
</body>
</html>
```

■ クラス ID を指定、サムネイルモード有効、2 ページ目を表示

```
<html>
<head>
  <title>KIPVeiwT - サンプル 2</title>
</head>
<body>
  <object classid="CLSID:7B5EA755-E4E6-4BDC-8E71-C1A040C6ABB3"
data="http://www.example.com/tiff/image.tif" width="100%" height="100%">
    <param name="THUMBNAIL" value="1">
    <param name="PAGENUM" value="2">
  </object>
</body>
</html>
```

付録 D オプションライセンス:編集機能

ここでは、KIPViewT のオプションライセンスである編集機能について説明します。編集機能を使用するためには、別途ライセンスコードが必要です。

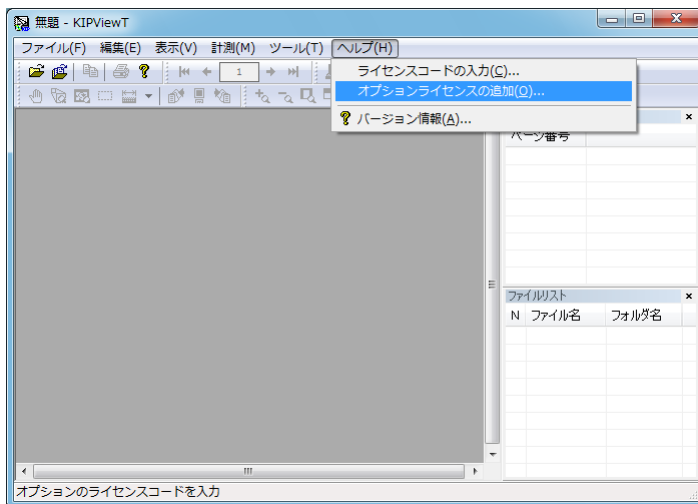
■ 機能

- ページの回転
- 注釈(テキスト、図)の追加
- 選択範囲の削除
- ファイルの保存
 - ※TIFF 形式のみ可能

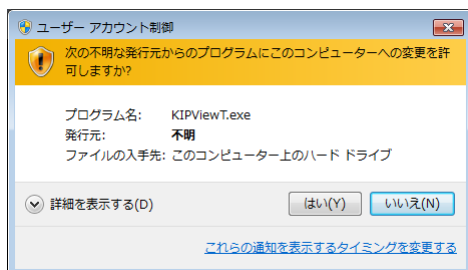
D.1 オプションライセンスの追加

ここでは、オプションライセンスを追加する手順について説明します。

1. KIPViewT を起動します。
2. メニューから【ヘルプ】-【オプションライセンスの追加】を選択します。

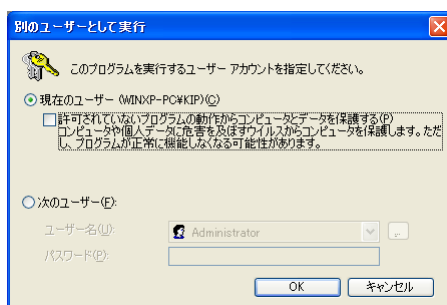


「ユーザー アカウント制御」のダイアログボックスを表示した場合は、[はい]ボタンをクリックします。

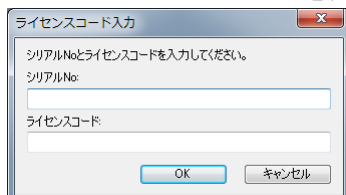


Windows XP では、下記のダイアログボックスを表示する場合があります。

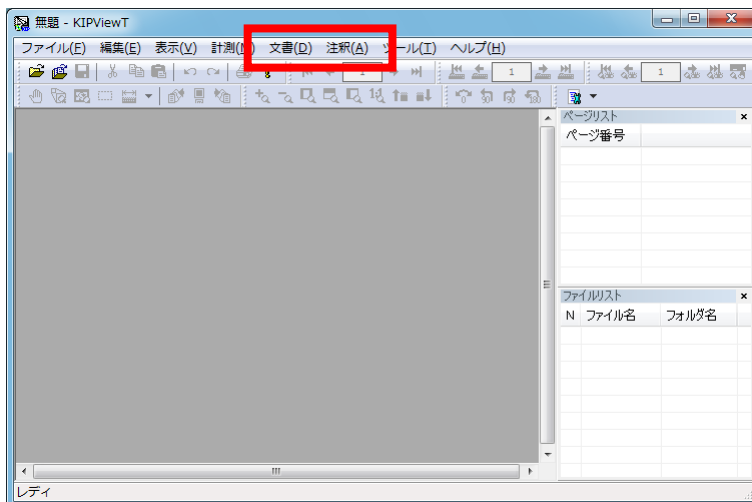
「許可されていないプログラムの動作からコンピューターとデータを保護する」のチェックを外して、[OK]ボタンをクリックします。



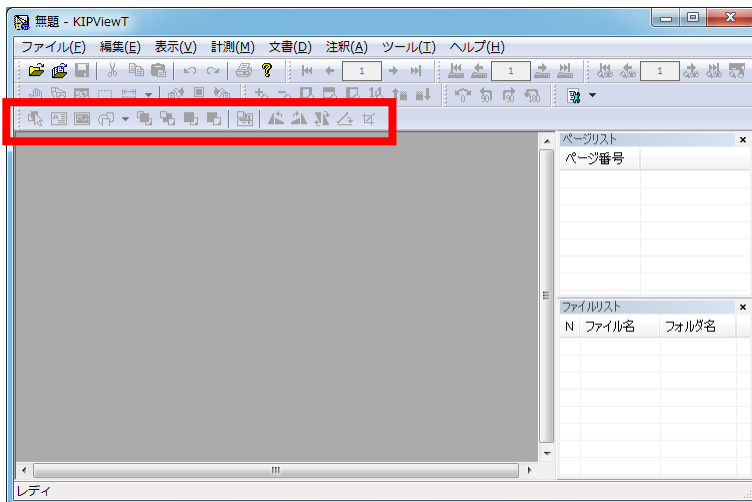
3. ライセンスコード入力の画面を表示しますので、編集機能のライセンスを入力します。



4. KIPViewT を再起動します。
5. メニューに【文書】【注釈】が表示されていることを確認します。



6. メニューから【表示】-【ツールバー】-【編集オプション】を選択して、ツールバー「編集オプション」を表示します。



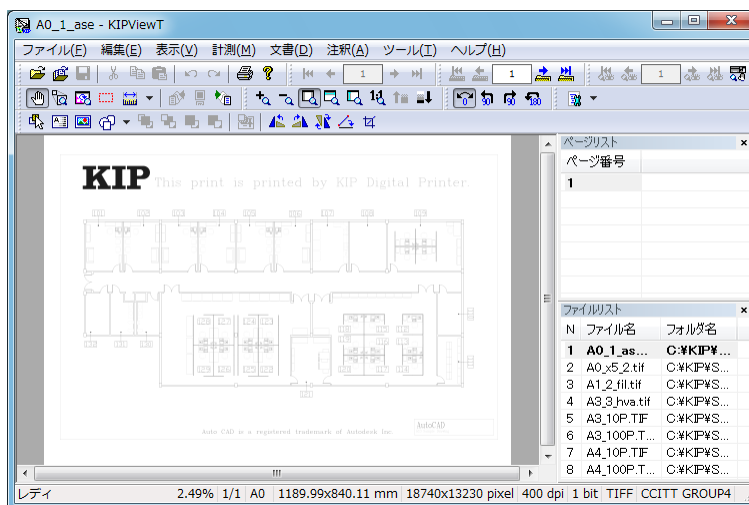
以上でオプションライセンスを追加する手順については終了です。

D.2 ページの回転

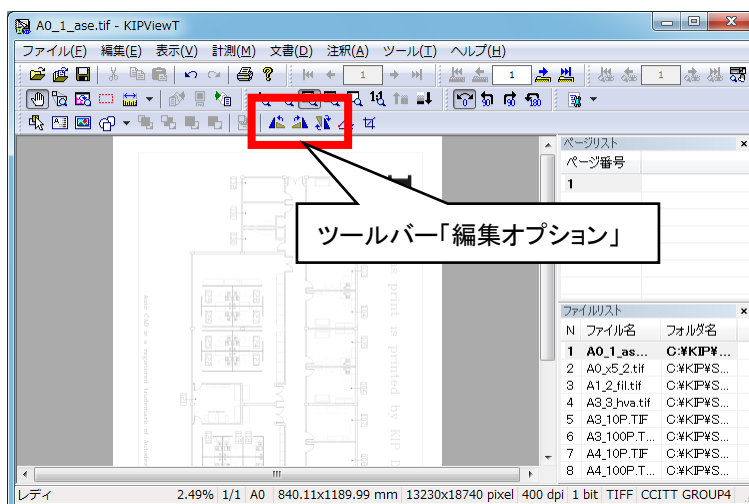
ここでは、読み込んだ画像のページを回転する手順について説明します。
画像は、90° 単位に回転します。

1. ファイルを読み込みます。




手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「編集オプション」を操作して、画像が目的の向きになるように操作します。



ツールバー「編集オプション」の各ボタンの動作は下表の通りです。

ボタン	動作
	ボタンを押すたびに画像が左に 90° 回転します。
	ボタンを押すたびに画像が右に 90° 回転します。
	ボタンを押すたびに画像が 180° 回転します。

メニューバーから【文書(D)】 - 【ページの回転】を選択しても同様の動作になります。

メニュー	動作
左に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が左に 90° 回転します。
右に 90° 回転	メニューを選択するたびに画像が右に 90° 回転します。
180° 回転	メニューを選択するたびに画像が 180° 回転します。

以上で画像のページを回転する手順については終了です。

D.3 注釈の追加

ここでは、読み込んだ画像に注釈を追加する手順について説明します。

注釈オブジェクトを挿入して、固定化することにより、画像にテキストや図、図形などを追加することができます。

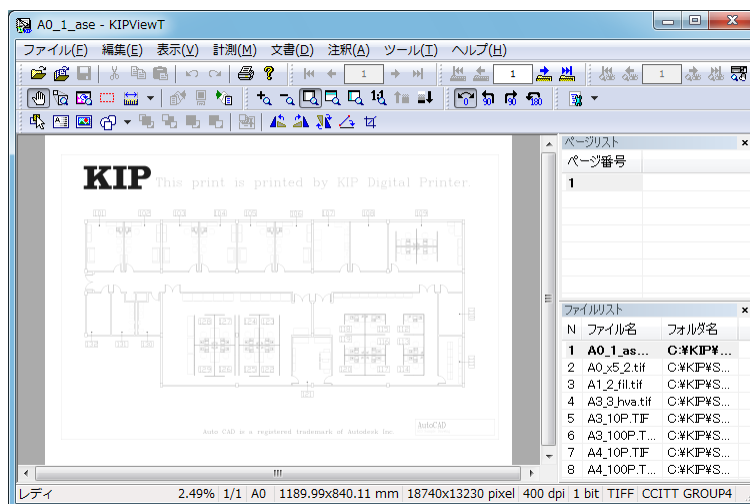
注意

TIFF 形式の場合、固定化していない注釈オブジェクトの保存は可能です。しかし、KIPViewT 独自の形式となりますので、KIPViewT 以外のビューアで利用することはできません。

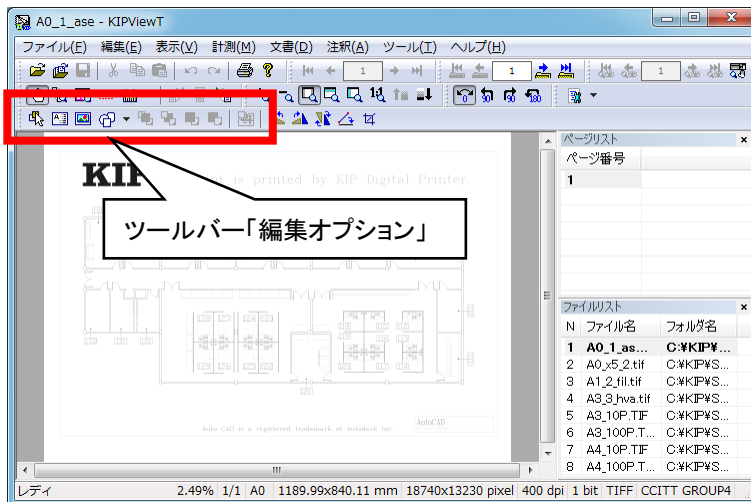
また、固定化していない注釈オブジェクトは印刷することが可能です。ただし、印刷結果は【注釈の固定化】を実行した場合と一致しない場合があります。

1. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「編集オプション」を操作して、注釈オブジェクトを挿入します。



ツールバー「編集オプション」の各ボタンの動作は下表の通りです。

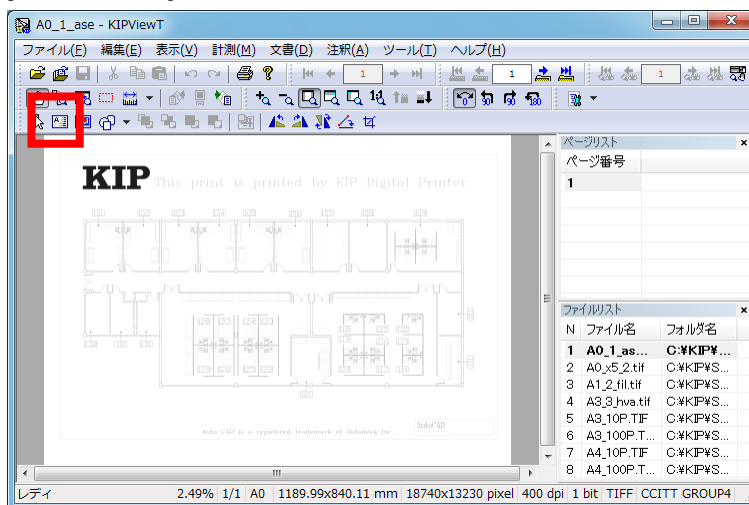
ボタン	動作
	カーソルを注釈オブジェクトの選択に切り替えます。
	テキストの注釈オブジェクトを挿入します。
	ファイルから図の注釈オブジェクトを挿入します。
	図形の注釈オブジェクトを挿入します。 四角形、角丸四角形、楕円、直線のメニューを表示します。
	選択した注釈オブジェクトを最前面へ移動します。
	選択した注釈オブジェクトを最背面へ移動します。
	選択した注釈オブジェクトを前面へ移動します。
	選択した注釈オブジェクトを背面へ移動します。

メニューバーから【注釈(A)】を選択しても同様の動作になります。

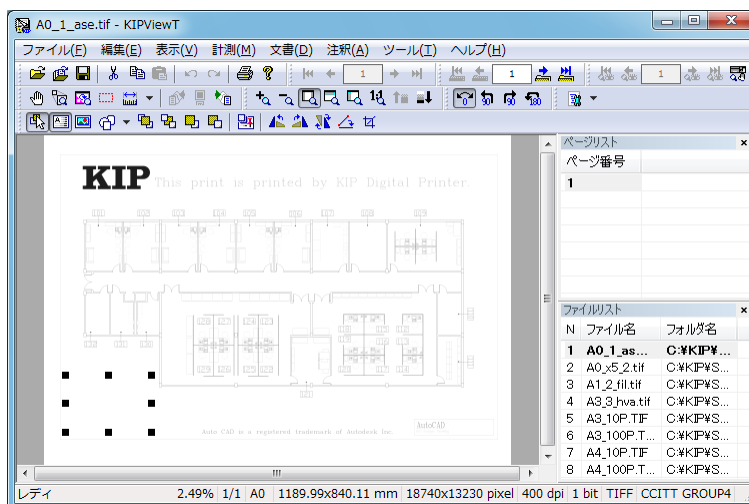
メニュー	動作
注釈を選択	カーソルを注釈オブジェクトの選択に切り替えます。
テキストの挿入	テキストの注釈オブジェクトを挿入します。
図の挿入	ファイルから図の注釈オブジェクトを挿入します。
図形の挿入	図形の注釈オブジェクトを挿入します。 四角形、角丸四角形、楕円、直線のメニューを表示します。
最前面へ移動	選択した注釈オブジェクトを最前面へ移動します。
最背面へ移動	選択した注釈オブジェクトを最背面へ移動します。
前面へ移動	選択した注釈オブジェクトを前面へ移動します。
背面へ移動	選択した注釈オブジェクトを背面へ移動します。

2-a テキストの注釈オブジェクトの挿入

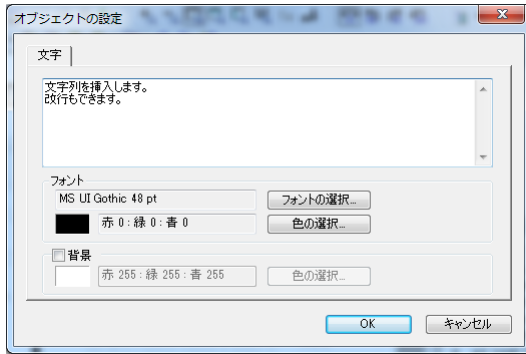
[テキストの挿入]ボタンをクリックします。



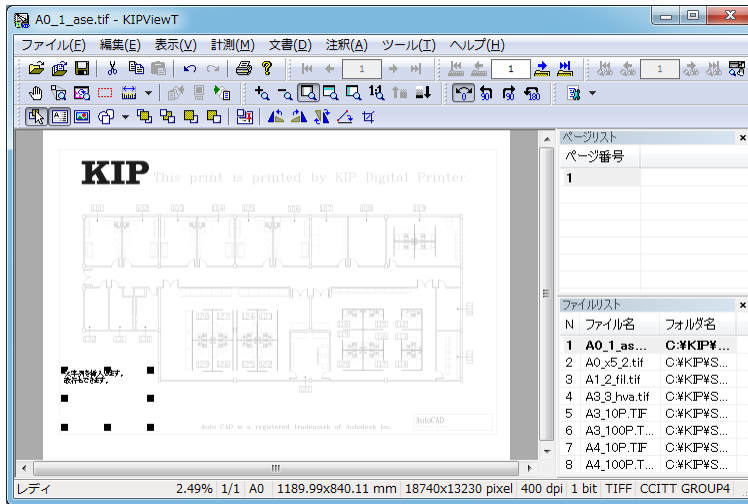
カーソルが十字に変化しますので、マウスをドラッグして位置や大きさを決定します。



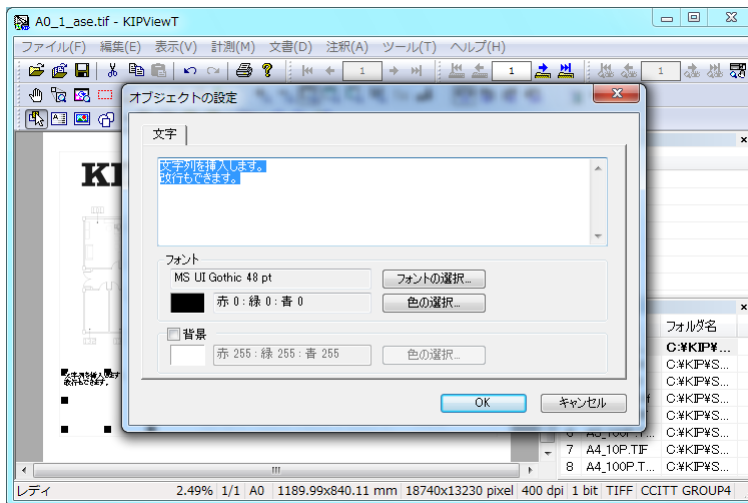
「オブジェクトの設定」画面を表示しますので、文字列とフォント、背景を設定します。



[OK]ボタンをクリックして、「オブジェクトの設定」画面を閉じると表示を更新します。

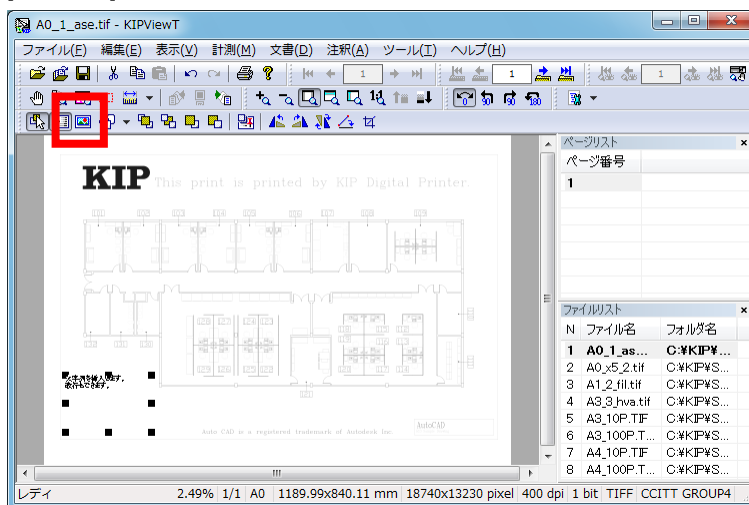


再度「オブジェクトの設定」画面を表示する場合は、オブジェクトをダブルクリックします。

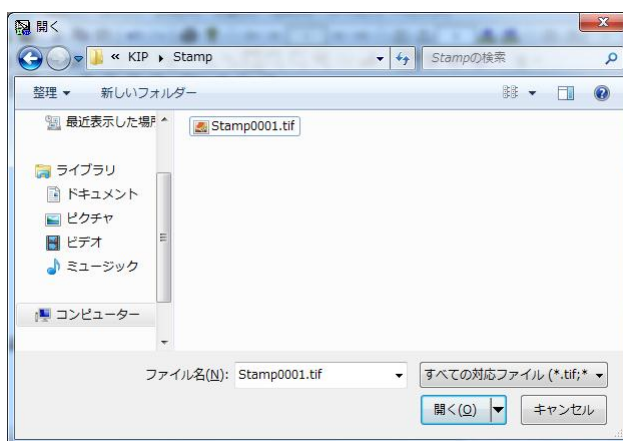


2-b 図の注釈オブジェクトの挿入

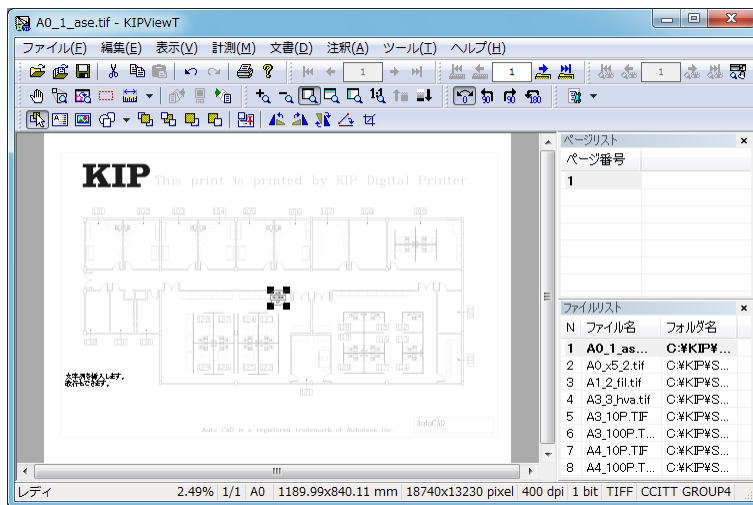
[図の挿入]ボタンをクリックします。



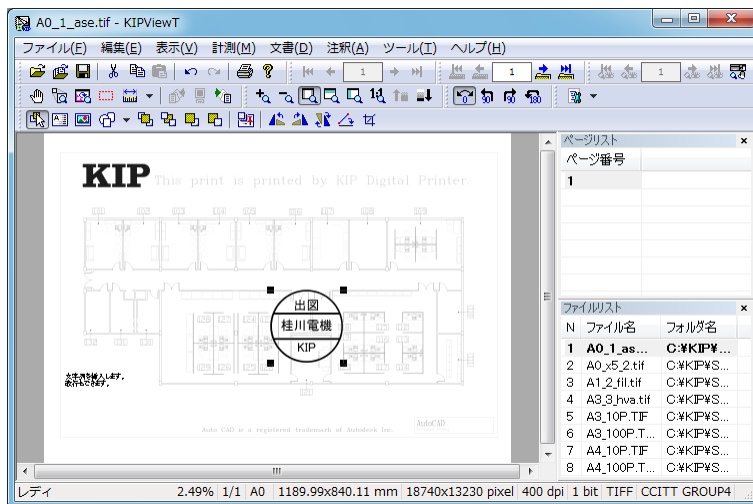
「ファイルを開く」画面を表示しますので、挿入する図のファイルを選択します。



[開く]ボタンをクリックしてファイルの読み込みが完了すると、画面の中央にオブジェクトを挿入します。



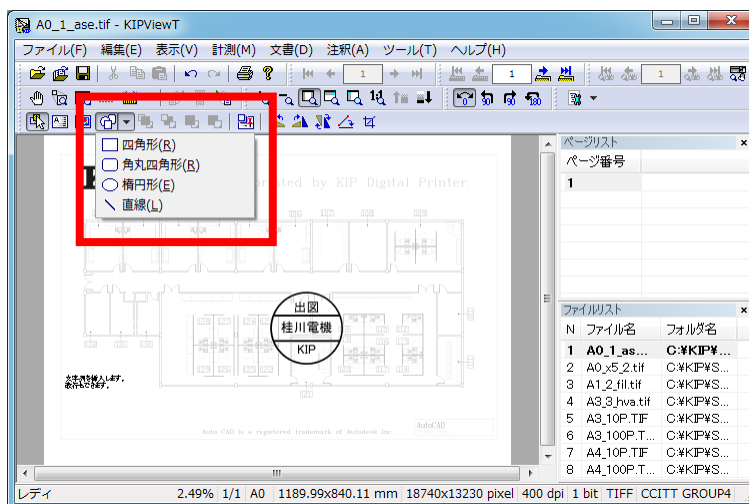
必要に応じてオブジェクトのサイズを変更します。



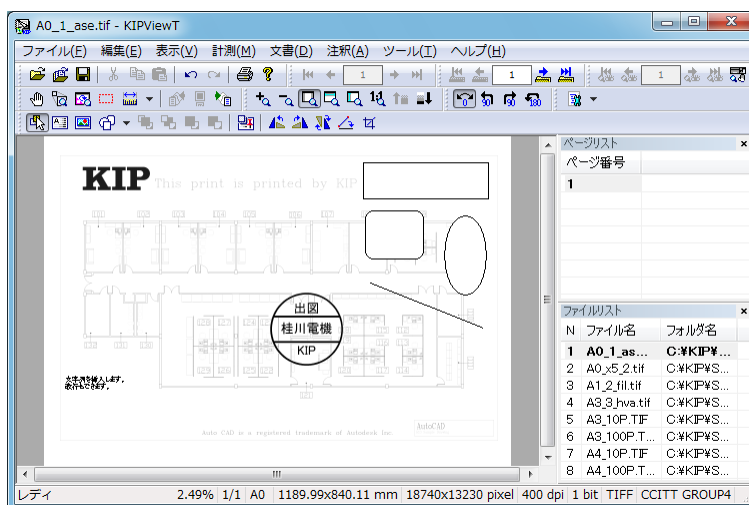
2-c 図形の注釈オブジェクトの挿入

[図形の挿入]ボタンをクリックします。

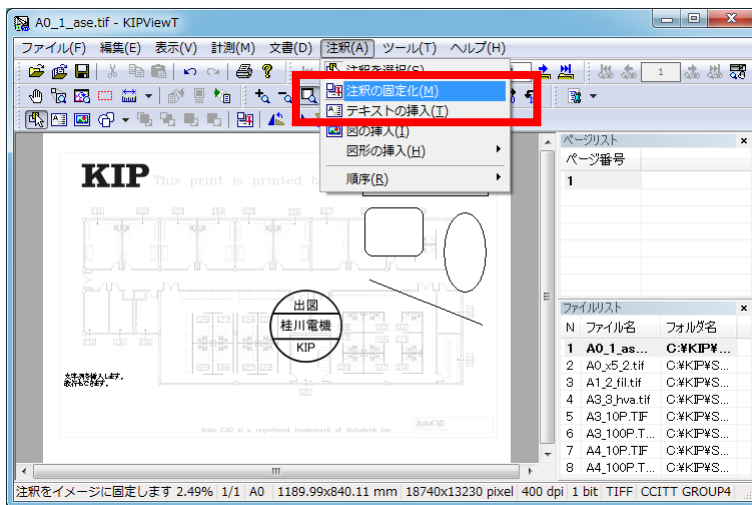
メニューを表示しますので、挿入する図形を選択します。



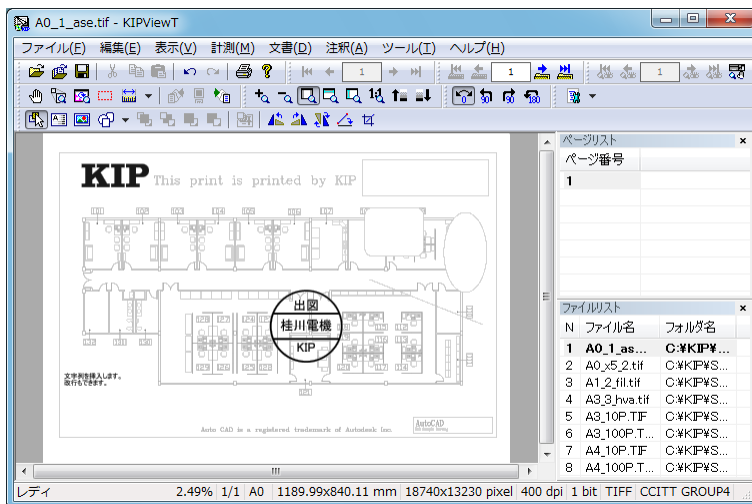
カーソルが十字に変化しますので、マウスをドラッグして位置や大きさを決定します。



3. 注釈オブジェクトの挿入が完了したら、メニューから【注釈】-【注釈の固定化】を選択します。



注釈が固定化したことを確認します。



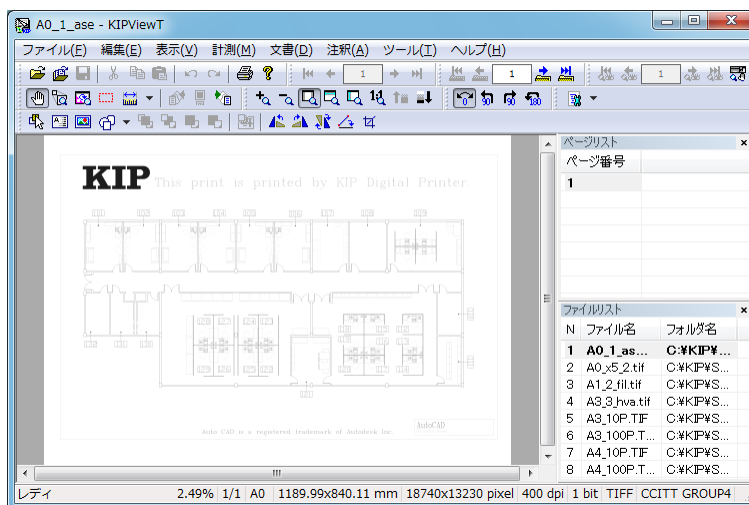
以上で注釈を追加する手順については終了です。

D.4 画像の一部を切り取り

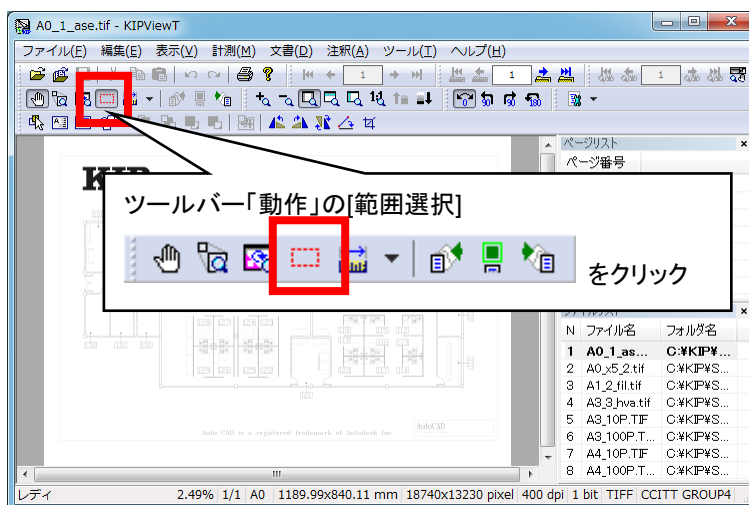
ここでは、読み込んだ画像の一部を切り取る手順について説明します。
切り取った画像はクリップボードへコピーされます。

1. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。

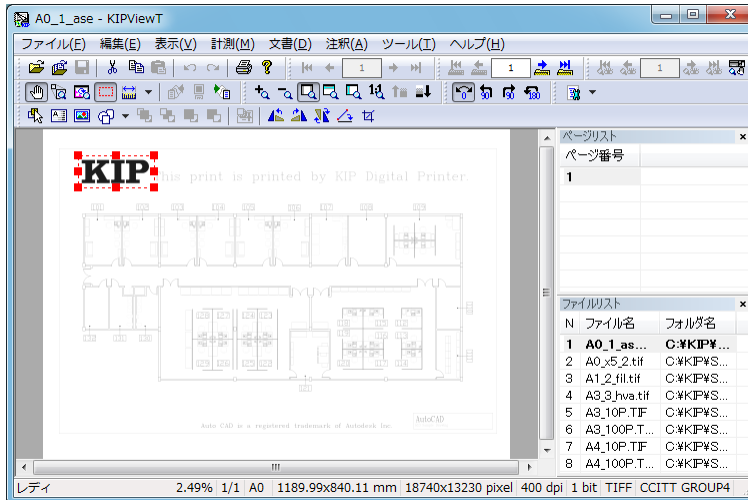


2. ツールバー「動作」の[範囲選択]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になります。



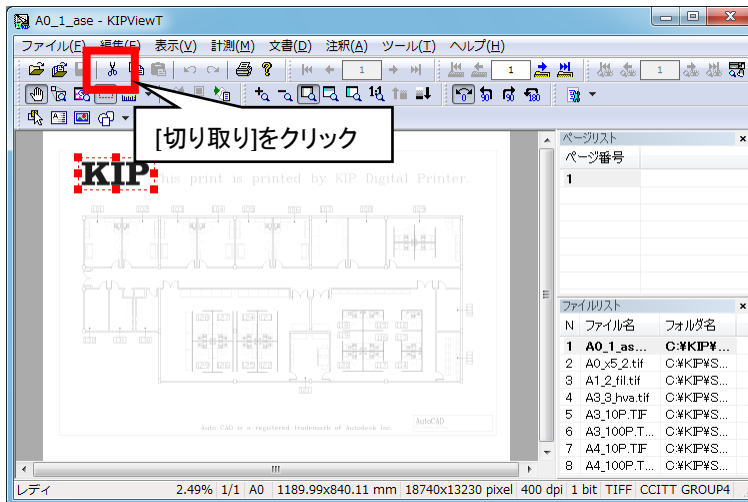
3. マウスを操作して、選択する範囲を決定します。

2 か所でマウスの左ボタンをクリックして、位置と範囲を決定します。
また、範囲選択の状態でも、マウスの左ボタンでドラッグすることで「移動」や「範囲拡大」をすることができます。

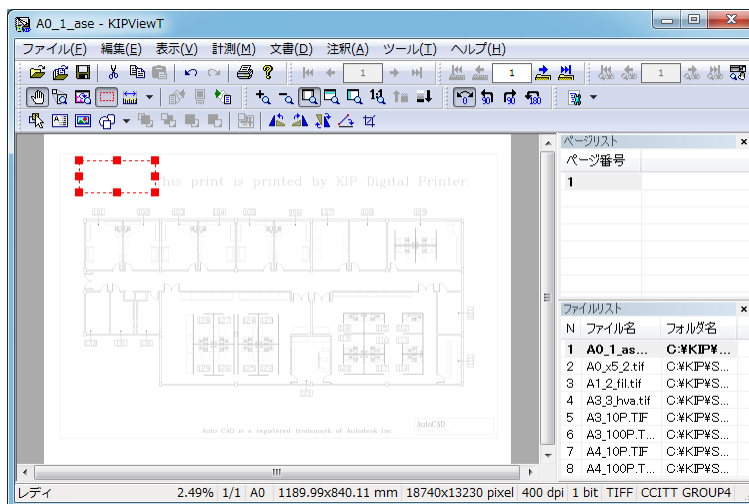


選択範囲の枠内やハンドル上でドラッグすると、選択した位置や大きさを変更することができます。

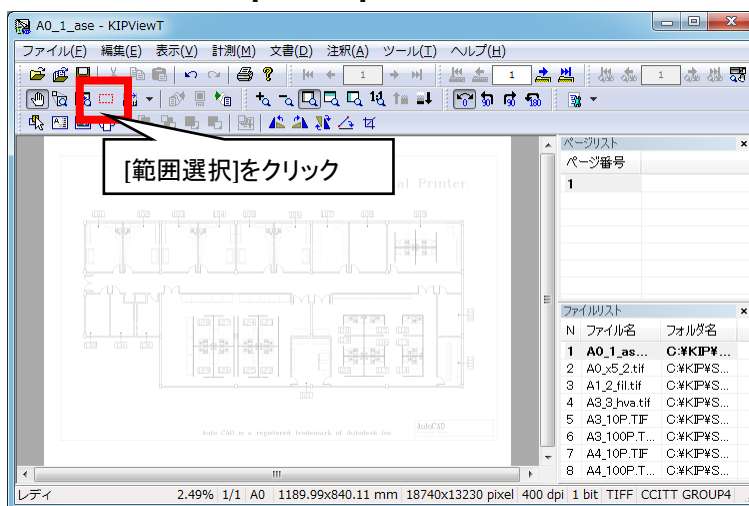
4. 選択範囲が決定したら、ツールバーの[切り取り]ボタンをクリックします。
または、メニューから【編集】-【切り取り】を選択します。



5. 選択した範囲が切り取られます。



6. 切り取りが終了したら、[範囲選択]ボタンをクリックして、押下した状態を解除します。



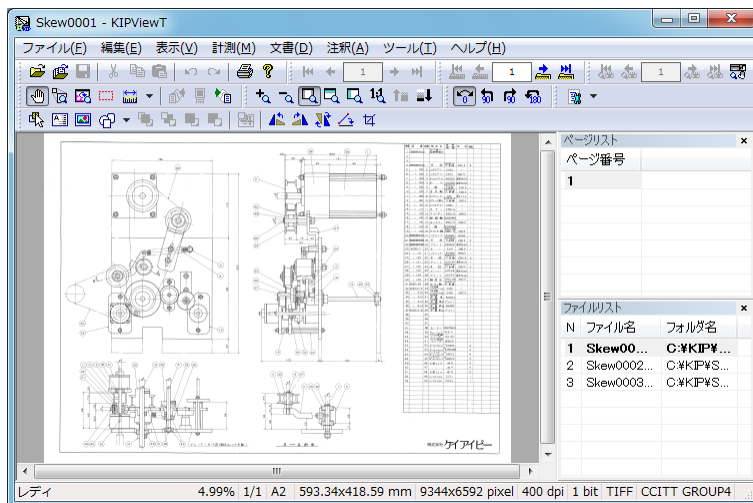
以上で画像の一部を切り取る手順については終了です。

D.5 画像の傾き補正

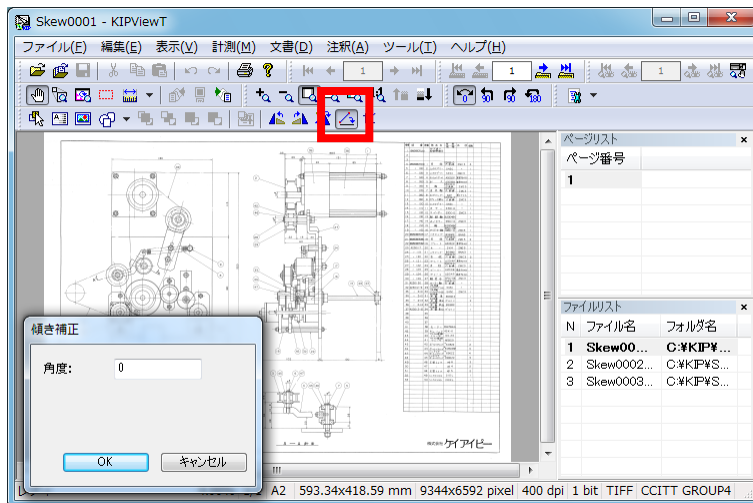
ここでは、読み込んだ画像の傾きを補正する手順について説明します。
スキャナーで取り込んだ画像を水平に加工する場合に使用します。

1. ファイルを読み込みます。

手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。

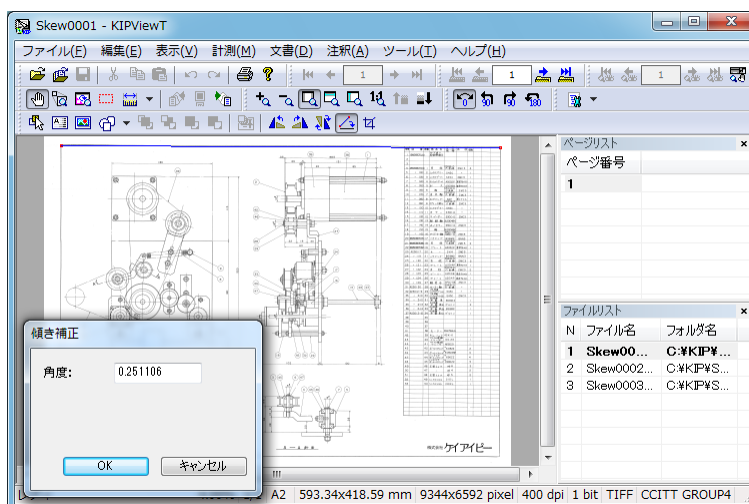


2. ツールバー「編集オプション」の[傾き補正]ボタンをクリックして、表示エリア内での左クリックの動作を切り替えます。ボタンは押下した状態になり、「傾き補正」画面を表示します。



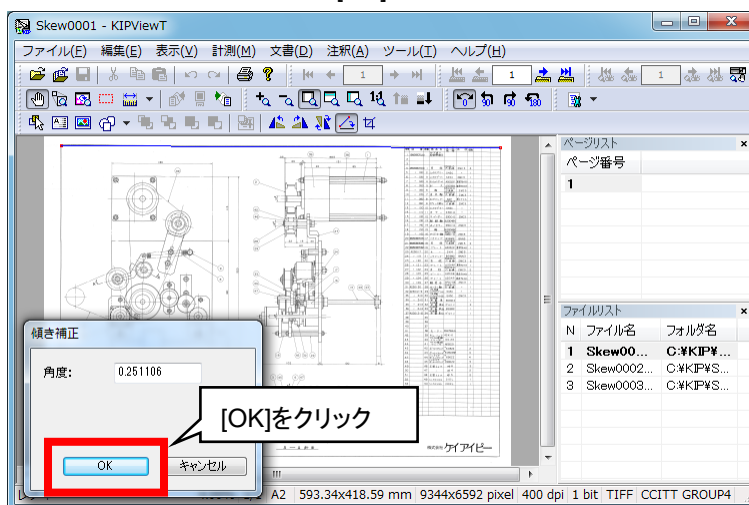
3. 2 か所の計測点を指定して、傾き補正の角度を算出します。

計測点は左ボタンをクリックする毎に決定します。

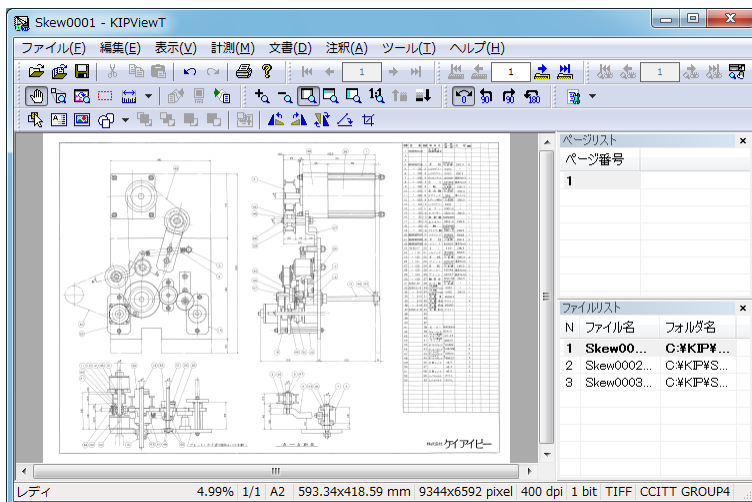


角度には任意の値を入力することもできます。

4. 傾き補正の角度が決定したら、[OK]ボタンをクリックします。



5. 画像の中心を軸に指定した角度で画像が回転します。
 画像の幅や高さは変化しませんので、角度によっては内容が欠落する可能性があります。
 「傾き補正」画面は自動的に閉じます。

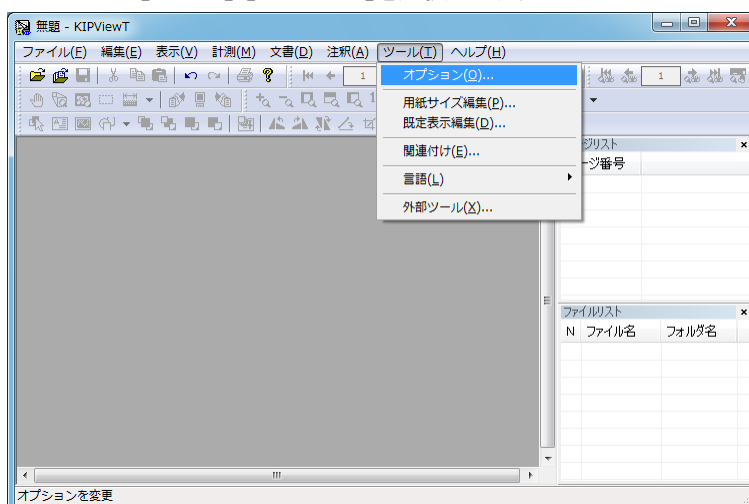


以上で読み込んだ画像の傾きを補正する手順については終了です。

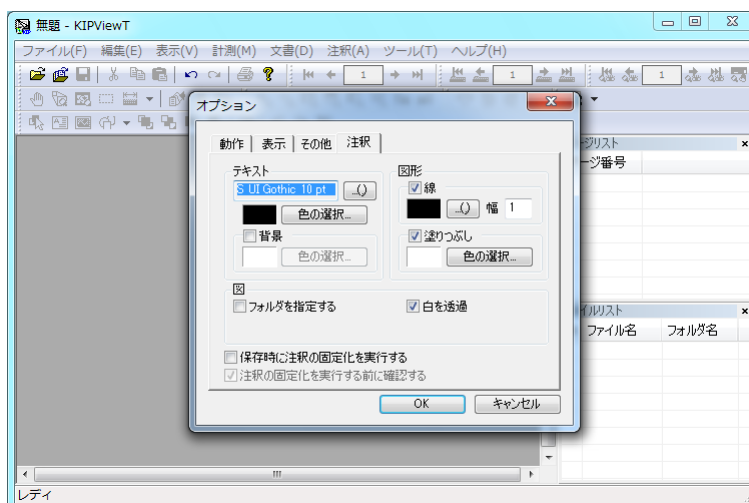
D.6 注釈の初期設定を変更

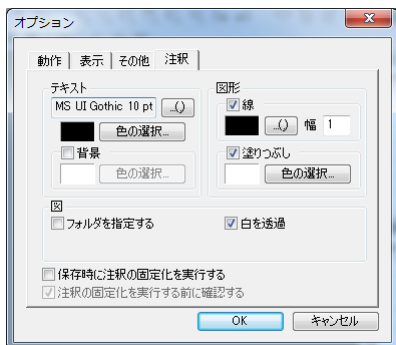
ここでは、追加する注釈の初期設定を変更する手順について説明します。
「オプション」画面から注釈の初期設定を変更することができます。

1. メニューから【ツール】-【オプション】を選択します。

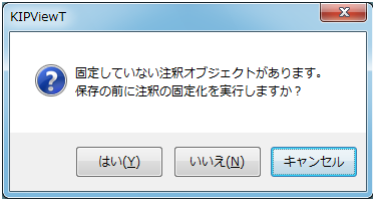


2. 「オプション」画面を表示しますので、「注釈」タブを選択します。





名称		機能
テキスト		
	[...(.)]	テキストのフォントとスタイル、サイズを選択します。
	[色の選択]...	テキストの色を選択します。
	背景	チェックを付けると、選択した色で背景を塗りつぶします。
	[色の選択]	背景色を選択します。
図形		
	線	チェックを付けると、選択した色で線を描画します。
	[...(.)]	線の色を選択します。
	幅	線の幅を指定します。(単位:ピクセル)
	塗りつぶし	チェックを付けると、選択した色で塗りつぶします。
	[色の選択]...	塗りつぶしの色を選択します。
図		
	フォルダを指定する	チェックを付けると、図の挿入時に指定したフォルダを初期値として、「ファイルを開く」画面を表示します。 チェックを外すと、最後に挿入した図のフォルダを初期値として、「ファイルを開く」画面を表示します。
	白を透過	チェックを付けると、図の白色を透明にします。 チェックを外すと、図の白色を不透明にします。
	保存時に注釈の固定化を実行する	チェックを付けると、画像を保存する際に、固定化していない注釈オブジェクトがあると、【注釈の固定化】を実行します。 チェックを外すと、固定化していない注釈オブジェクトのまま画像を保存します。

名称	機能
注釈の固定化を実行する前に確認する	<p>チェックを付けると、画像を保存する際の【注釈の固定化】を実行する前に確認の画面を表示します。</p> <div data-bbox="673 363 1044 562" style="text-align: center;"></div> <p>チェックを外すと、確認のメッセージを表示せずに【注釈の固定化】を実行します。</p> <p>※ 「保存時に注釈の固定化を実行する」にチェックを付けると、機能が有効になります。</p>

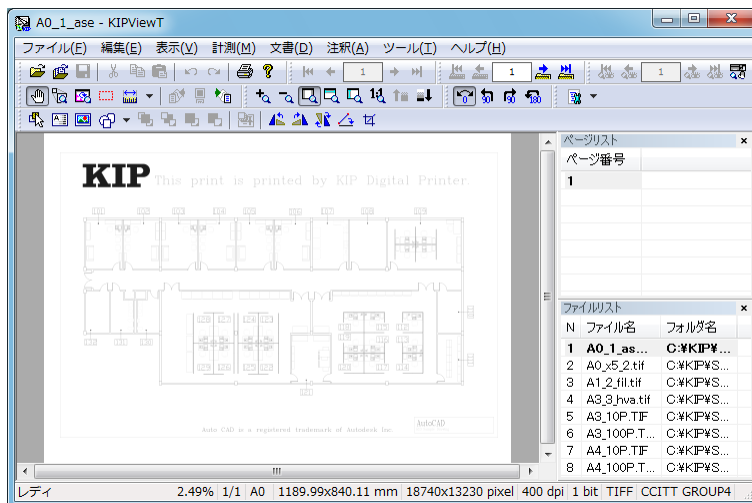
3. 設定を変更したら、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

D.7 画像のサイズを変更

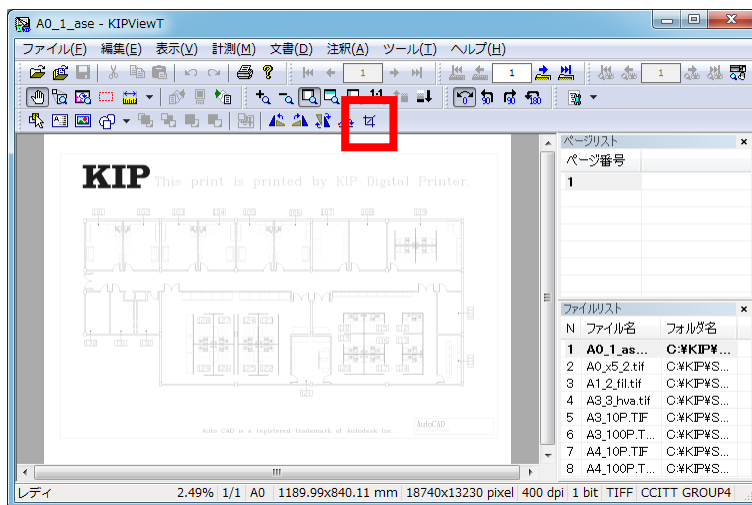
ここでは、読み込んだ画像のサイズを変更する手順について説明します。
スキャナーで取り込んだ画像の大きさを調整する場合に使用します。

1. ファイルを読み込みます。

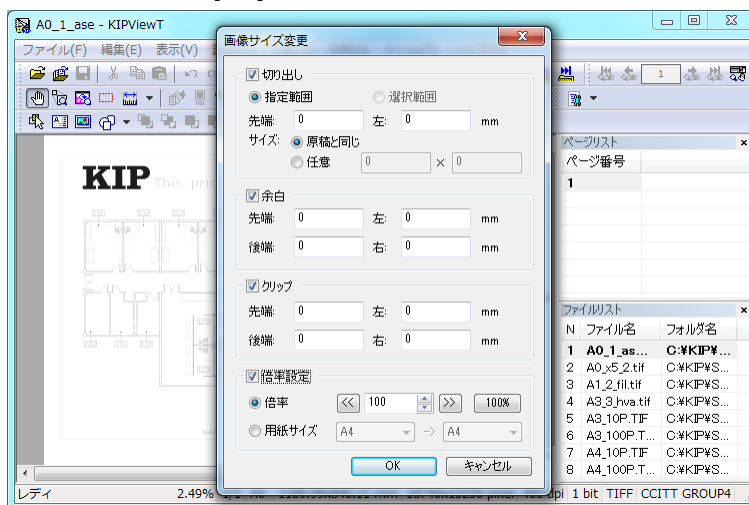
手順については前述の「4.3.1 【開く】ファイルを指定して開く」～「4.3.4 【開く】ドラッグ&ドロップでファイルを開く」を参照してください。



2. ツールバー「編集オプション」の[画像サイズ変更]ボタンをクリックして、「画像サイズ変更」画面を表示します。

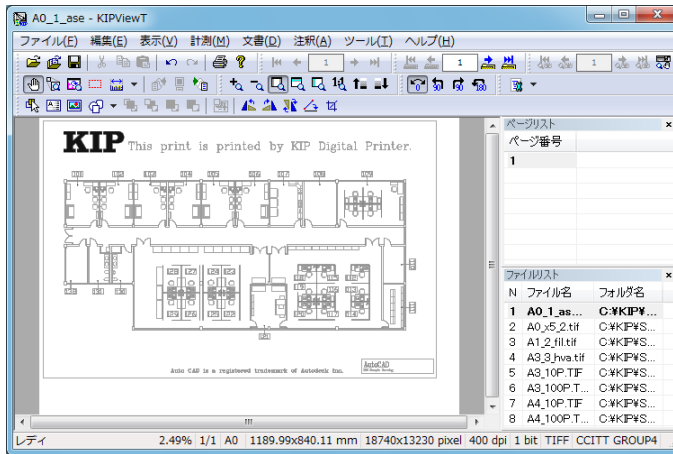
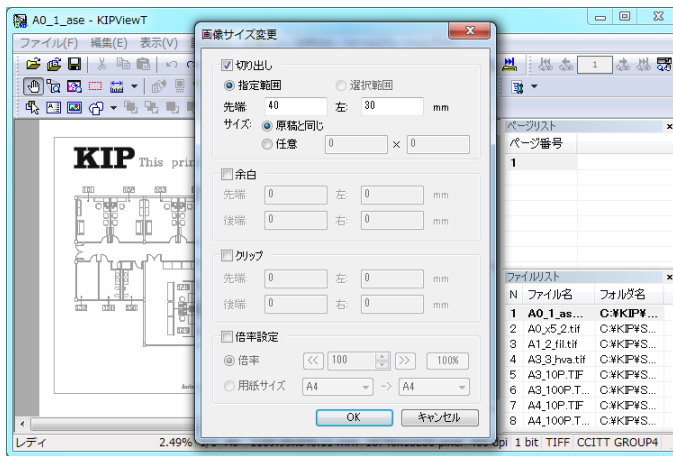


3. 「画像サイズ変更」画面を操作して、変更する画像の大きさを設定します。
設定が決定したら、[OK]ボタンをクリックします。

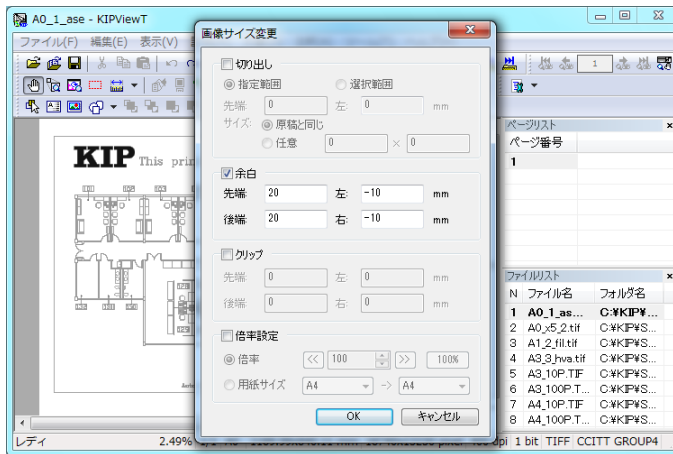


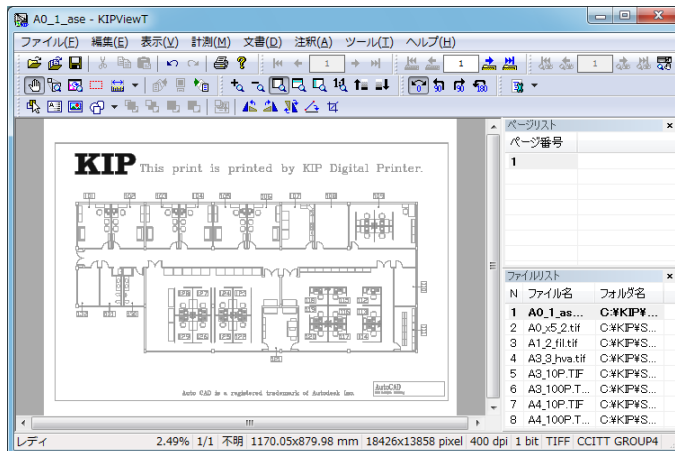
名称	機能
切り出し	<p>チェックを付けた場合、有効になります。</p> <p>設定した位置(先端、左)からサイズに指定した大きさを切り出しを行います。</p> <p>範囲を選択している場合は「選択範囲」のラジオボタンが有効になります。</p>
余白	<p>チェックを付けた場合、有効になります。</p> <p>上下左右に余白を付加します。正と負の値が設定可能です。</p> <p>負の値を設定した場合は、画像が小さくなります。</p> <p>設定に従って画像の幅と長さは変化します。</p>
クリップ	<p>チェックを付けた場合、有効になります。</p> <p>上下左右の画像を白でクリップします。正の値のみ設定可能です。</p> <p>画像の幅と長さは変化しません。</p>
倍率設定	<p>チェックを付けた場合、有効になります。</p> <p>設定した倍率で画像を拡大／縮小します。</p> <p>用紙サイズを指定して倍率を設定することもできます。</p>

3-a 例) 切り出し

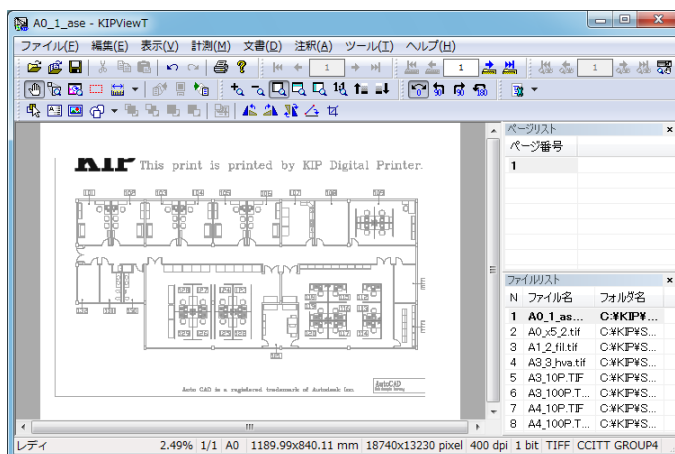
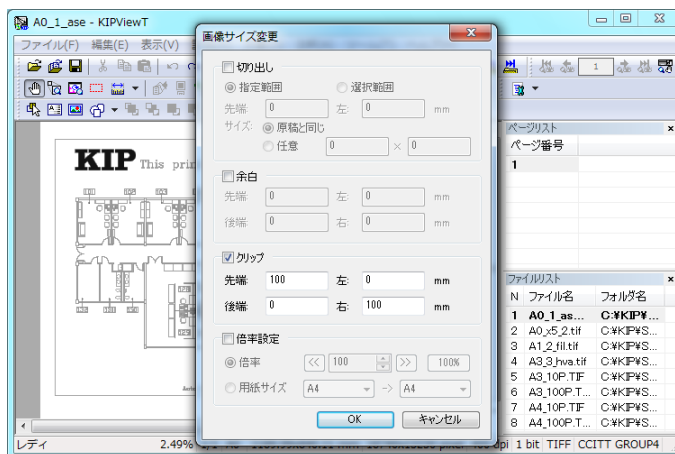


3-b 例) 余白

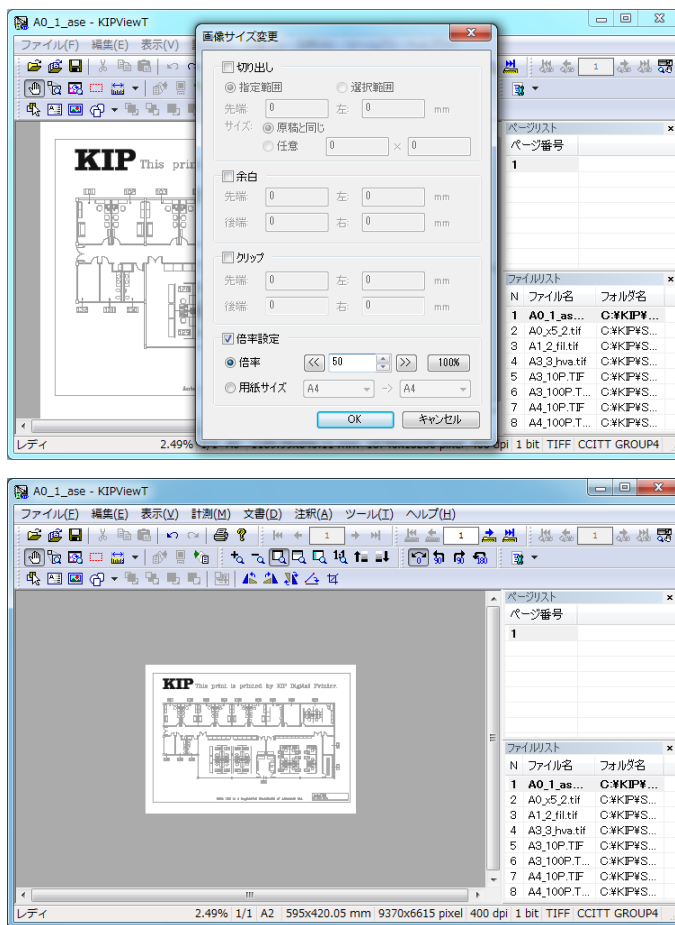




3-c 例) クリップ



3-d 例)倍率



以上で画像のサイズを変更する手順については終了です。

お問い合わせ先

内容についてのお問い合わせは本社へ、製品に関するお問い合わせは桂川電機株式会社ならびに株式会社ケイアイピーまでお願いいたします。

桂川電機株式会社

〒146-8585 東京都大田区下丸子4丁目21番1号
TEL (03) 3756-1100(代) FAX (03) 3758-8384

株式会社ケイアイピー

本社	／	〒146-0093 東京都大田区矢口1丁目5番1号 TEL (03) 3756-1101(代) FAX (03) 3756-1106
大阪支店	／	〒540-0024 大阪市中央区南新町1丁目2番4号 TEL (06) 6910-6105(代) FAX (06) 6910-6109
名古屋営業所	／	〒464-0858 名古屋市千種区千種3丁目29番14号 TEL (052) 741-0015(代) FAX (052) 741-0018
北関東営業所	／	〒323-0829 栃木県小山市東城南4丁目28番3号 TEL (0285) 31-1172(代) FAX (0285) 27-1909
九州営業所	／	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目14番3号 TEL (092) 412-0911(代) FAX (092) 412-0912

営業日 : 月曜日から金曜日まで(祝祭日を除く)

お問い合わせ時間 : 午前 9:00 より午後 5:00 まで

<空白ページ>

KIPViewT 取扱説明書

発行日 平成 28 年 3 月 3 日

第 32 版

発行所 桂川電機株式会社

〒146-8585 東京都大田区下丸子 4 丁目 21 番 1 号

TEL (03) 3756-1100

FAX (03) 3758-8384

528719009 / TW-527-00